鴻池銀行本店全景
（日丁三橘今區東市阪大）

鴻池會社式様

入口　同行
内貸
金庫

（米庫國會ヲ社ス製ラノ造）

容品ハ次ノ如シ
一、金銀貨及地金類
二、公債、社債、株券其他有價證券
三、證書、約證書其他重要書類
四、銀行ニテ保管上差支ナシト認メタルモノ

鴻池銀行ハ前明暦年間ニ今橋ニ雨請業ヲ開キ次ニ二百七十年前ニ第十三代名主善右衛門ヲ経テ第十四代名主善右衛門ニ至リ幕府ノ命ニ依リ銀札ヲ発行シ幾多ノ変遷ヲ経テ明治十年ニ至リ第十五

貸金庫ノ御利用

本貸金庫ハ弊行新築本店ノ地下室ニ備付テアリマス。金庫室ハ全部鐵筋コンクリート造リノ耐震耐火極メテ堅牢ナモノテアリマスカラ水火盜難等ニ對シ絕對ニ安全テ御座イマス。

錠前ハ各金庫毎ニ一ツ一ツ異ツテ居リマスカラ萬一ニモ御使用ノ金庫ヲ誤ツテ他人ニ明ケラレル樣ナ心配ハ毛頭御座イマセン。加之鍵ハ御使用者ニ御渡シ申上ケル鍵ト弊行備付ノ親鍵ト兩者ヲ併用セネハ絕對ニ開閉出來ヌ裝置ニナツテ居リマス故ツマリ二重ニモ三重ニモ安全ナ譯テ御座イマス。

容品ノ御出入ハ右ノ樣ナ絕對的安全ナル裝置ノ下ニ嚴重ニ保管セラレテ居リ乍ラ而モ自家御備付ノ金庫同樣至極簡便御自身テ御自由ニ爲サルコトカ出來マス。

料金ノ如キモ水火災盜難等ノ事故ニヨル世間幾多ノ損害ヲ考ヘマスレハ思ヒ半ニ過クル低廉ナモノテアリマス。御手許ノ遊金ヲ銀行ニ御預ケ入レ爲サルト同樣ニ貴重品ハ凡テ貸金庫ニ御納置ノ上必要ニ應シ御出入爲サルヽコトハ今後ノ都會生活者ニ執テハ當然セネハナラヌ御用意カト存シマス。敢テ

這般ノ大震災ノ結果ニ徵スルヲ俟ツマテモナク一刻モ速ク此安全簡易ナ貸金庫ノ御利用ニ向ハレンコトヲ御勸メ致シマス。

申込手續 使用御希望ノ方ハ弊行備付ノ用紙ニヨリ御申込願ヒマス。

弊行ニテ承諾ノ上ハ直ニ借用證及印鑑ヲ御差出願ヒマシテ其際併セテ規定ノ使用料ヲ前拂ニテ申受ケルコトニナツテ居リマス。

使用方法 豫而御渡申上ケル鍵ト御屆出ノ印章トヲ御持參ニナレハ營業時間中ハ何時ニテモ亦何回ニテモ御隨意ニ御使用カ出來マス。

容品ノ出入整理ノ爲ニハ入目ニ掛ラヌ樣特ニ別室ヲ設ケテ居リマス。

使用料 金庫ノ大小ニヨリマシテ裏面記載ノ通リ數種御座イマス。

保險金庫及扉
米國モスラー會社代理
三井物産大阪支店

打地形ト
基礎 下十二尺五寸堀下ゲ杭 地盤線以下十七尺八寸ベツト上端迄
裝飾 塔屋四十八尺九寸ベラノ軒 地盤線上端迄
軒高 建築地下室ノ軒(コンクリート造三階) 地盤線迄
構造 鐵骨鐵筋コンクリート造
新築地坪數 參坪五合ヲ含ム(地下室及裝飾) 參百四拾
總建築坪數 九坪參合ヲ含ム(地下室及裝飾) 八百參拾八
建築様式 近世復興
總地坪數 坪參七五 六百〇八
總建築面積 八坪壹六壹 參百參拾
建築様式 乃至新築八拾

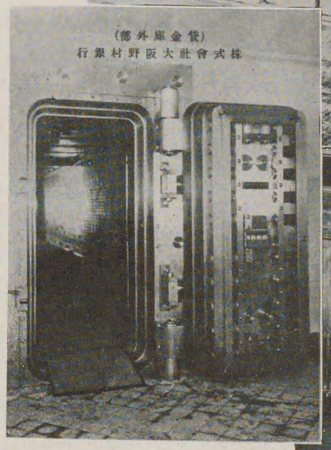
役員行同

監取取取取取常副頭取
査査締締締締締務取取取
役役役役役役役役役役役
河藤辰田佐志竹尾廣北一衛
崎山吉左市政應治伊三吉衆赤
助雷右衛門藏清治郎助吉三
太郎兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵

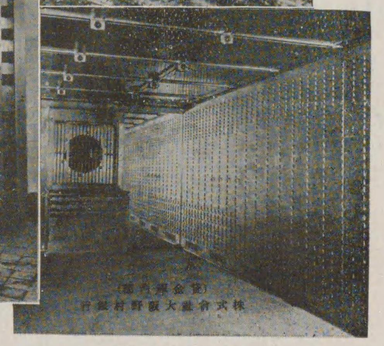
銀行 四十三社會式株
(目丁四橋驛高區東市阪大)

株式會社野村銀行本店全景

位置　大阪市東區備後町貳丁目
敷地面積　五百貳坪六合九勺
廣表　間口　貳拾壹間八分
　　奥行　貳拾參間〇五分
建坪數　四百〇參坪五合六勺
總延坪數　貳千八百五拾五坪貳合四勺



貸金庫入口

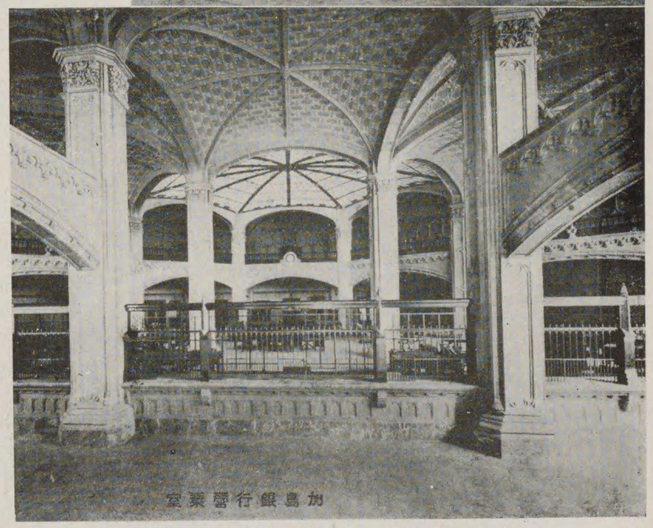


貸金庫内部

位置　大阪市東區瓦町二丁目五十五番地
敷地坪數　五百〇二坪〇三勺二才
建物坪數　本館三百三十坪五合、附屬家五十二坪五合
建物延坪數　本館二千六百六十九坪四合五勺、附屬家百三十六坪八合
建物ノ高サ　地盤線ヨリ扶欄上端迄壹百尺
構造及樣式　地階ヲ合シテ九階鐵骨鐵筋「コンクリート」造ニシテ貫ハ耐震耐火ノ永久構造ナリ、建築樣式ハ近代復興式ヲ基礎トシタル現代的ノ簡素堅實ナル外觀ヲ具フ

局行會議室

株式會社山口銀行

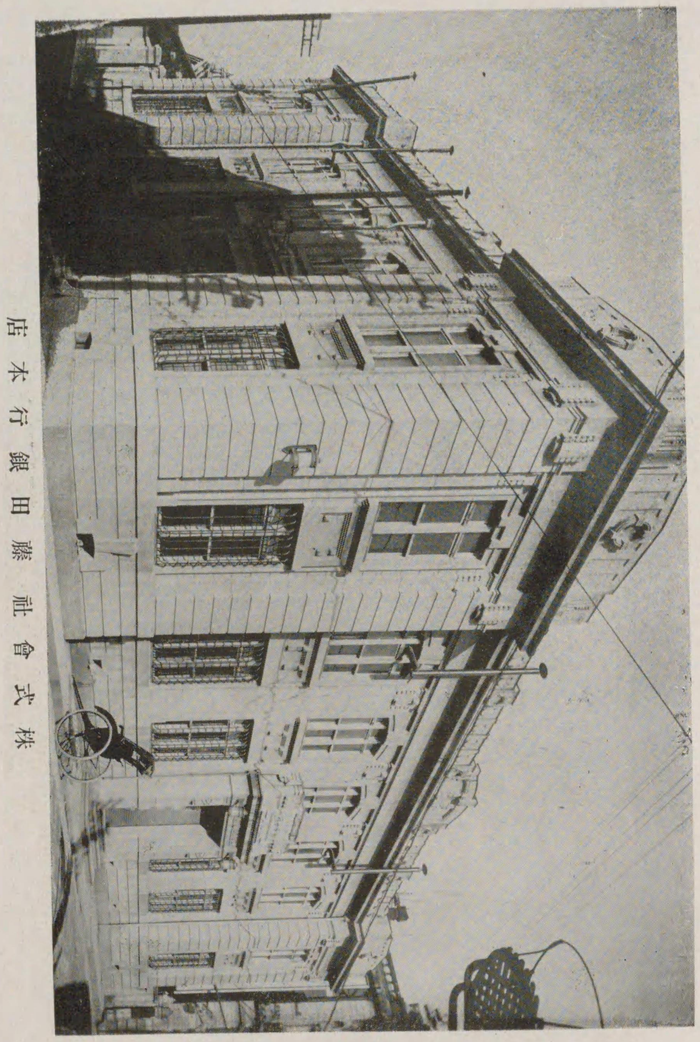


株式會社加島銀行全景及內部
（大阪市西區土佐堀通一丁目）

本行沿革ノ大要

本行ハ廣岡一家ガ以前加島屋ト稱シテ慶長年間ヨリ金融事業ニ從ヒ幕府及ビ諸侯ノ會計御用ヲ務メ、其傍ラ古金銀ノ賣買、金札ノ引換錢相場ノ元締ナド所謂爲替方トシテ斯界ニ貢獻致シマシタコトニ起源シテ居ルノハ夙ニ周知セラルヽ所デアリマス

明治維新後ハ專ラ兩替商ヲ營ミマシタガ明治二十年廣岡一族ノ出資ヲ以テ加島銀行ヲ創立シ次デ明治二十六年六月舊商法ニ據ル合資會社ノ組織ト致シマシタ、其後業務ノ發展ニ伴イマシテ數次ニ資本金ヲ增加シテ今日ノ盛運ヲ開イタ次第デアリマス



株式會社藤田銀行本店

大阪市に本店を有する大銀行の一つにして信用と基礎の鞏固なる點は一般の知る所なり。同行は目下新築中にして竣成の上は其大建築物の雄姿を今橋通りに現はし更に陣容を整へて關西金融界に飛躍的發展を期せらる。

住友銀行本店全景（住友ビル）

全田蓑橋出張所		
全京町堀出張所		
全梅田出張所		
船場支店	取締役會長	湯川寛吉
全松屋町出張所	專務取締役	八代則彦
中之島支店	常務取締役	加賀覺次郎
川口支店	常務取締役	大平賢作
道頓堀支店	取締役	男爵 住友吉左衛門
全島之内出張所	取締役	堀啓次郎
備後町支店	取締役	今村幸男
天滿支店	取締役	國府精一
全北天滿出張所	常任監査役	鈴木謙三郎
日本橋支店	監査役	河上謹一
上町支店	監査役	植野繁太郎
全味原町出張所	監査役	草鹿丁卯次郎
立賣堀支店	監査役	吉田眞一
全北通出張所		
木津支店		
全惠美須町出張所		
四野田支店		
福島支店		
富島支店		
天王寺支店		

株式會社第一銀行大阪支店

創立	明治六年
資本金	五千七百五拾萬圓（拂込濟）
諸積立金	六千萬圓
總預金	五億二千餘萬圓
總貸出金	四億千五百餘萬圓

重役

頭取	佐々木勇之助氏
副頭取	石井健吾氏
常務取締役	野口彌三氏
同	杉田富氏
取締役	野口弘毅氏
同	大澤佳郎氏
同	明石照男氏
同	澁澤敬三氏
同	加納友之介氏
監査役	土岐僖氏
同	竹山純平氏
同	西園寺龜次郎氏
相談役子爵	澁澤榮一氏

株式會社 日本信託銀行

頭取	川上常助	同 上畠益三郎
常務取締役	門脇正	同 福澤大四郎
取締役	島徳藏	同 岡甫
同	梅原龜七	監査役 宮崎敬介
同	中村秀五郎	同 大原直次郎

資本金 壹千七百五拾萬圓

株式會社日本信託銀行

大阪市東區今橋二丁目

株式會社 川崎第百銀行大阪支店

大阪支店	東區本町三丁目
備後町支店	同 備後町
大阪西支店	西區新町南通四丁目
九條支店	港區九條中通二丁目
堺支店	堺市大町

頭取	星	章氏
常務取締役	關	作氏
常務取締役	河	二氏
常務取締役	吉	三氏
取締役	川	肇氏
取締役	原	造氏
取締役	渡	平氏
常任監査役	高	司氏
監査役	小	男氏

堃	根	倉
善	合	梨
鉄	田	邊
良	崎	梨
	邦	博
	眞	清

資本金 參千參百九十八萬八千五百圓

(寫眞は同行大阪西支店全景)

藤本ビルブローカー銀行

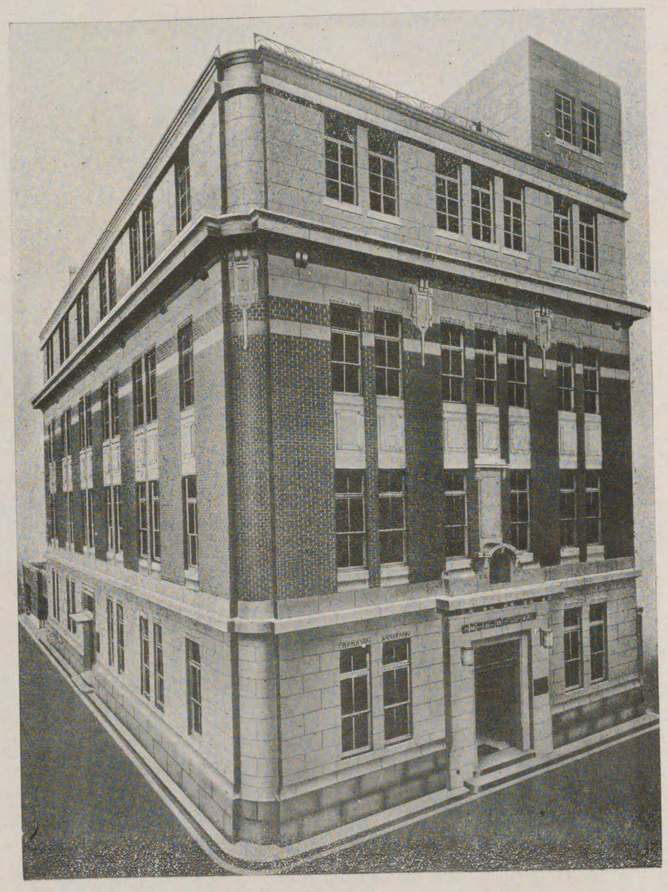
明治三十五年、藤本氏は「藤本ビルブローカー」を創設し爾來その獨特の業務を、我金融界に營み居りましたが、明治三十九年、資本金二十萬圓の株式組織に變更せり。當時、各勘定取扱高壹千參百萬圓以上に達せし爲、時の大藏大臣の注意もあり、遂に翌年一月、資本金を增加して壹百萬圓とたし、一般銀行業務をも營むことゝなりて、同年三月より「株式會社藤本ビルブローカー銀行」なる商號を稱ふるに至つたのである。

當時、支店出張所を、東京、名古屋、京都、に置いて、金融界に相當の貢献をなし、一般の信用を受けつゝ順調に發展せしが、明治四十二年の春、そのころ事業界に頭角を顯はして居た大日本製糖株式會社の破綻に遭遇したので、「藤本ビルブローカー銀行」は、當時同會社に對する多額の債權を有して居り、夫れが回收の容易たらざりし爲めに、一時新規の營業を中止して、整理の已むなきに至つたのである。

其の當時、壹千八百餘萬圓の殘高を有して居つた諸勘定は、日糖會社關係の債權約九十餘萬圓の外は、數ケ月の間に全部決濟して、數年間の努力によつて礎き上げたる殘高も信用も、遂に一擲するの不幸に遭遇せり。

斯くて日糖會社の整理案の確立を待つて、更に再起するの時期を待つたのであるが、惜しいことに、コロンブスがアメリカ大陸を發見し、而もその大陸たるを知らずして終つた樣に、斯業の創立者たる藤本氏も、時たらぬ財界の暴風の爲め、全く「藤本ビルブローカー銀行」なるものから離れて仕舞つたのである。卽ち藤本氏は、此の際を期として責を負うて重役の職を辭し、その所有にかゝる同行の株式は他に讓渡し、茲に全く關係を斷つに至つたのである。

今日、「藤本ビルブローカー銀行」と言へば、藤本氏を聯想するかも知れないが、今は兩者何等の關係もないのである。たゞ藤本氏と關係を斷つたにも拘らず、今日尙「藤本」たる名を稱へてゐる所以のものは、當行の創業者たる氏を永く紀念せんが爲めに外ならぬのである。



同行本店全景

大阪市東區北濱五丁目三〇

株式會社 **藤本ビルブローカー銀行**

（藤本ビルブローカー銀行證券部）

同行支店所在地

東京　京橋區北槇町一八

名古屋　西區玉屋町一ノ一八

神戸　榮町通二丁目四九

門司　東本町二丁目三一〇二

横濱　本町一丁目一〇

京都　烏丸通蛸藥師南入

金澤　上堤町三九

福島　福島市榮町一二

岡山　西中山下四二

廣島　塚本町四八

福岡　下小山町三〇

熊本　中唐人町一七

新しい使命を帶びて生れた

相互主義の貯蓄銀行

利子の外に利益配當をする

資本金貳百五拾萬圓

株式會社 日本相互貯蓄銀行

頭取取締役 小西新右衛門 主事 堀勘一郎
專務取締役 岸田杢 主事 今西政二
取締役 橋本重幸
監査役 男爵 近藤滋彌
監査役 宮本利右衛門

相談役
（イロハ順）

伊藤長兵衛　奥田吉右衛門　田村市郎　兒玉一造
伊藤萬助　嘉納治郎右衛門　田村駒治郎　阿部市太郎
伊藤忠兵衛　河崎助太郎　竹尾治右衛門　阿部彦太郎
原彌兵衛　横江萬治郎　竹村清次郎　尼崎伊三郎
原田六郎　高砂長兵衛　竹原莊治郎　宮崎彌三郎
大橋彌一郎　田代重右衛門　野瀬七郎平　下郷傳平
岡橋治助　田附政次郎　福本元之助　廣海二三郎
森平兵衛

本店　大阪市東區備後町三丁目（三休橋筋東入）（電話本町一六三三番）
島之内出張所　大阪市南區八幡筋心齋橋東入（電話南二六〇四番）
天滿出張所　大阪市北區鳴尾町鳥居筋天神橋筋西入（電話北一二八九番）
平野出張所　大阪市住吉區平野本町四丁目（電話平野一八番）
伊丹出張所　兵庫縣川邊郡伊丹町本町（電話伊丹三三番）
神戸出張所　神戸市兵庫柳原通神明町三七（電話兵庫三〇一五番）
西野田支店　大阪市此花區玉川町二丁目戎神社前電車道（電話土一二三七番）
京都支店　京都市下京區寺町通佛光寺上ル中之町（電話下三五三七番）
尼崎支店　尼崎市中在家町戎橋筋（電話尼崎二二八番）
住吉支店　兵庫縣武庫郡住吉村阪神新國道千歳道角（電話御影二一九番）

株式會社 古河銀行大阪支店

本店　東京市日本橋區瀬戸物町
頭取　男爵　古河虎之助

大阪市東區今橋三丁目
電話本局　一四二三・一四二四
二二八四・五九七六

株式會社 大阪貯蓄銀行

（大阪市東區伏見町三丁目）

美に慣りた當座は、脣をも吹く昨年四月の經濟界大動亂前後に於ける、世人の對銀行神經は、說敎といふよりも一時は寧ろ病的を帶び瓦石混交、全く悒々たるものであつた。

漸く、冷靜に還へると共に、銀行といふものゝ鑑別に目が向けられて來た。

尨大な建築物や、金看板よりも業體の內容……といふ一步刻劾な方面へ注意が注がれる。

こうした取捨撰擇に目の肥へて來たことは、將來の吾國財界安定の上に、誠に嬉ぶべき現象であつて、盛衰自然の鍵は、矢張り自然法則の手で支配されて行く。

現に、之れ等の適切な實例の中の一ツとして、大阪貯蓄銀行がある。

資本金に三倍近くの積立金を擁して內容の固めを築き、最近の預金總額一億三千餘萬圓は、僅々四ケ年間に於て倍額の增加を示してゐる。

此預金額に對して、實に九割二分強を、公債其他の有價證券にて備へた堅實味は、巍然として一寸他に類例を見る事が出來ない。

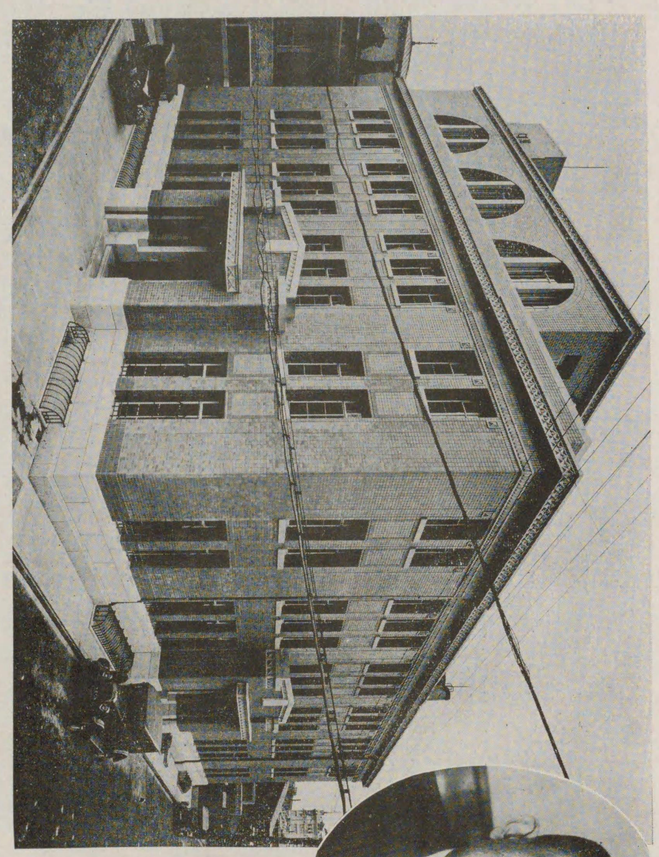
預金及證券擔保の貸金と手許現金を加ふれば、優に、他行への預け金—土地建物との財產價格千參百餘萬圓を算盤の桁から控除しても尙且、預金總額の支拂準備に餘りがあるとは、驚くの外はない。

動搖時にも超然として、悠々と伸びて行く同行の發展の反面には世人の對銀行智識の發達したことが窺はれる。

目の寄る處に玉ありとは誠に至言である。

役員

頭取	山口吉郎兵衞	
專務取締役	山口竹治郎	取締役 坂野兼通
常務取締役	外山捨造	監査役 宅德平
		監査役 野々村政也



大阪貯蓄銀行全景及 專務取締役 山口竹治郎氏

不動貯金銀行頭取

牧野元次郎氏

本行の特色

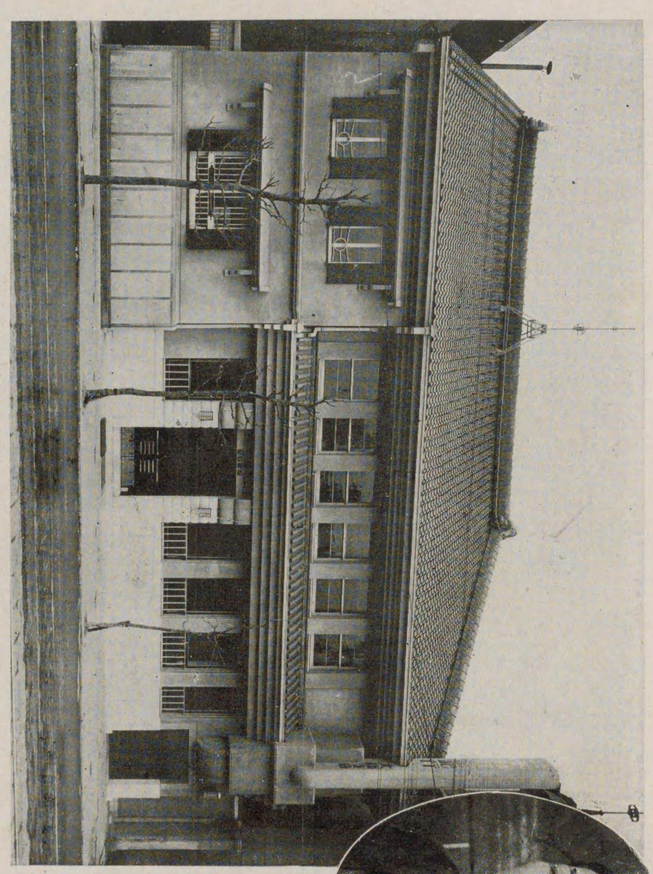
一、本行の役員は一人一業主義を奉じ一切他の事業に關係致して居りません。

一、本行は貯金者の銀行として利益の大部分を貯金者に配當し又御貸付は貯金者に限つて居ります。

一、本行獨特の名譽貸金は中商工業者の爲には唯一の金融方法でありまして現に其の御利用者は四萬千八百人の多きに上つて居ります。

一、本行はニコ〳〵主義を奉じ毎月の集金または御貸付に對しては最も親切に且つ御便利に取扱つて居ります。猶貯金者には毎月「貯金月報」を差上げて居ります。

一、本行株主は殆んど全部が本行の貯金者でありまして現に一萬二千九百八十七人の多きに達して居ります。



不動貯金銀行大阪支店
支配人
黒野德三郎氏

店支阪大行銀金貯動不
（目丁二町木區東）

株式會社 不動貯金銀行

創立　明治三十三年九月

重役
- 取締役頭取　牧野元次郎
- 取締役　牧野司郎
- 同　安樂兼道　同　川口彦治
- 同　牧野太郎　監査役　三上進
- 同　梅小路定行　同　久保田堅次
- 同　木村靖　同　中鉢美明
- 同　柳井信治　同　小野寺瀧次郎

營業種類　定期積金、定期預金、普通貯金

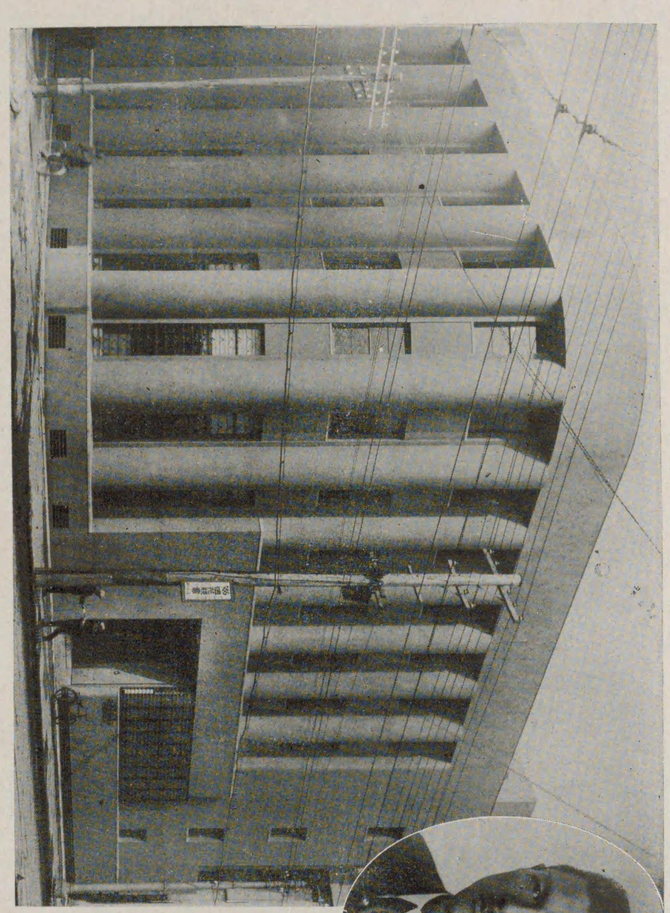
内最も定期積金に重きを置き、昭和六年には預金總高五億圓に達せしむる目的を以て行員全部精進しつゝあり

大阪西支店

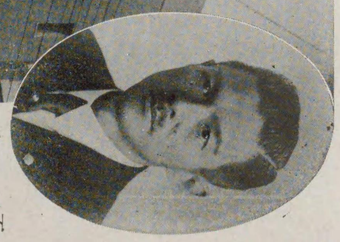
開業　大正十五年十一月一日

擔當區域　大阪市西區、港區、此花區、西淀川區、兵庫縣尼崎市

支配人　前田正利



不動貯金銀行大阪西支店全景（西區京町堀角）



支配人　前田正利氏

營業は前支配人　近藤誠吉氏（轉任）

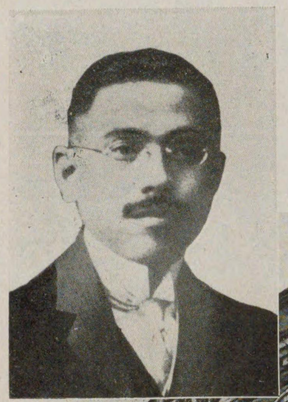
株式會社 東京貯藏銀行

本　店　東京市日本橋區萬町十一番地
支店及代理店　東京　横濱　京都　大阪　神戸　鳥取　三十一ケ所
大阪支店　大阪市東區平野町二丁目十二番地（元濵花橋筋角）
電話本局一六八一番

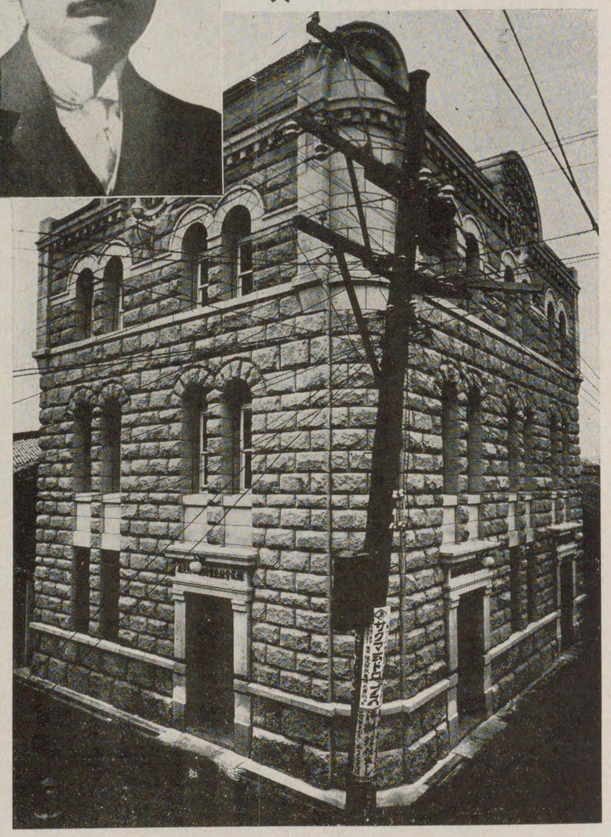
本邦にかける貯蓄銀行の鼻祖にして同行は實に今より四十八年の昔に於て創立された我國最初の貯蓄銀行である。當時西南戰爭の餘響を受け物價騰貴し輸出入ハ平均の聲高く所謂不景氣の際原六郎氏の主唱せしものにして其後銀行經營者として非凡の手腕を有した池田謙三氏時代に萬代不易の業礎を築き同氏の歿後原氏の嗣子原邦造氏に於て經營せらる先年東都大震災に於て多額の支拂をなせしため預金二千萬以上減少せしも基礎堅實漸次復興しつゝあり

創　立　明治十三年六月廿一日
資本金　貳百萬圓
拂込資本　百貳拾五萬圓
諸積立金　貳百四萬千餘圓
諸預り金　參千八百九拾九萬貳千餘圓（昭和二年六月三十日）
總人員　四十八萬九千九百餘人

頭取　原邦造
專務取締役　北岡晴次郎
常務取締役　本庄忠治
同　本城郡治郎
取締役　小倉清男
同　町田德之助
常任監査役　奥田操
監査役　青木鐵太郎
相談役　原六郎
大阪支店長　山崎弘



同行頭取　原邦造氏



東京貯藏銀行大阪支店全景

銀行の内容

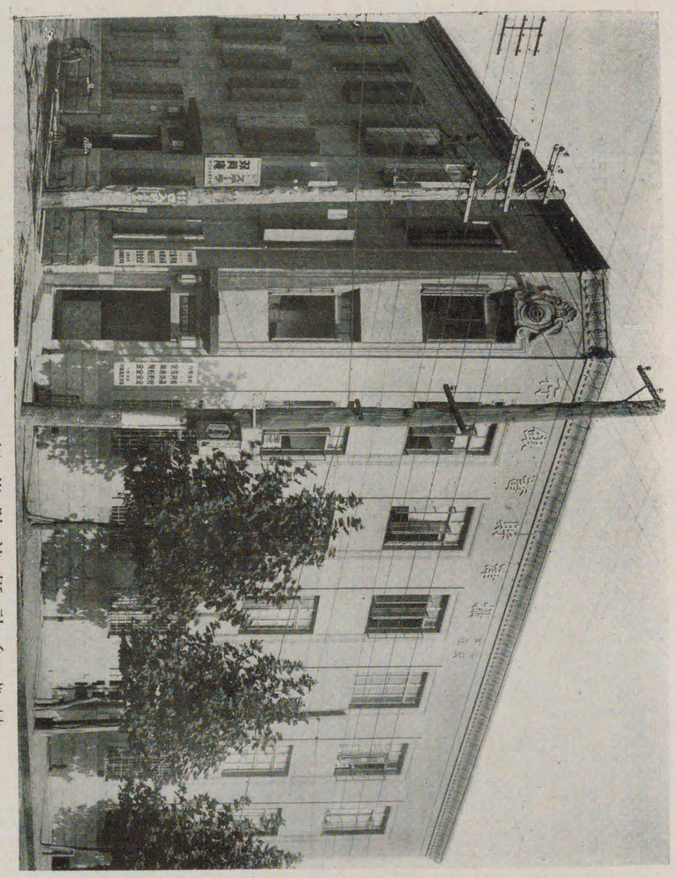
今迄資本金とか積立金或は預り金の多いものが堅實な銀行の様に早合點せられる方が往々ありましたが其等の金額の多いもの必しも堅實な銀行とは云はれないのであります。殊に貯蓄銀行は普通銀行と異り重役は法律上預り金に對しては絶對に無限責任と云ふ連帶保證をして居るのでありますから重役の信用とか人格即ち投機癖や山氣のある人達か或は堅實一方の人達であるか及び資産狀態や關係諸會社の狀態竝に社會的地位などは資本金、積立金以上其銀行の信用を御鑑識になる上に大切であります。

又お預り金を如何なる方面に運用投資して居るかと云ふ點即ちお預り金が右から左に不堅實な事業會社の資金となつて居ないか或は回收不能や無價値の株券擔保などの貸金が多額にあるかどうかと云ふ事を詳細に御觀察になることは其銀行の預金が安全確實か否かを御判斷せられる上に極て必要であります。

重なる株主

（イロハ順）

稻村重兵衞　岸本茂
猪飼九兵衞　岸本ヒイ
西村孝三郎　貴田治兵衞
大西外一郎　篠崎悟三郎
川畑清藏　庄野滿平
吉田長敬　廣海四郎
與澤庄兵衞　田熊熊藏
岸本貞次郎　田誠三
岸木兼太郎　肥田美治
右近權左衞門　肥田三郎
岸本鑑之助　肥田三郎
間得輔
池合名會社
野々村政也
安宅彌吉
櫻井宇兵衞
岸本五兵衞
岸本郁之助
岸木貞次郎
岸木兼太郎
岸本鑑之助
理事



（池だみね江堀北區西市阪大）　行銀蓄貯津攝社合式株

圓萬百參金本資

所張出店支

此花區	南區高津上町	堀江日吉橋北詰北ノ辻	西區京町堀上通三丁目
此花區	南區赤手拭稻荷神社前	南區四貫島停留所前	天王寺區上本町六丁目（大軌前）
西區江戸堀上通三丁目	南區天王寺前詰	北區天神橋筋六丁目	天王寺區大道町
南區堺筋	北區曾根崎中二丁目	東成區玉造稻荷神社前	天王寺區上本町六丁目（大軌前）
南區堺筋	北區曾根崎中二丁目	東成區玉造稻荷神社前	天王寺區大道町
南區堺筋	北區曾根崎中二丁目	東成區玉造稻荷神社前	天王寺區大道町

大正五年創立　資本金壹百萬圓　重役ハ主トンテ山陰道地方ノ大地主、多額納稅者、知名實業家ニシテ行風自然質朴實直營業振リ地味堅實、貯蓄機關トシテ信用スルニ足ル、本行ハ月掛貯金ノ外他行ニ類例ナキ獨特ノ日掛貯金ヲ取扱ヒ大阪全市公私設市場等堂固ナル營業地盤ヲ有シテ居ル。

長期積金（利益配當付）

この貯金は御家庭の貯金として非常に御有利で最も御樂しみの多いもので御座います。

（誕生記念貯金、教育資金、結婚資金、祝壽資金）

御指定の日と場所に集金人を差上ます。

この貯金は中途拂戻しを致しません。但天災其他銀行にて止むを得ずと認めました時は特別の御取扱ひを致します。

この貯金が滿期となれば元利配當金共普通貯金に振替へて置きますから御請求次第御支拂ひ致します。

この貯金を擔保として別に定めた規則に依り至極簡易に貸金致します。

この貯金は期日遲滯なく御拂込の時は滿期の時左の特別配當金を御添へ致します。

特別配當金壹千圓ニ付

（一ケ年滿期　拾圓
二ケ年滿期　拾貳圓
三ケ年滿期　拾六圓
五ケ年滿期　貳拾六圓）ノ割

（三百日滿期）

短期積金

この貯金は本行獨特のもので極短期間に一定の金額を得らるるに至極御便利です。

例へば十口に付一日金壹圓の御拂込を願ひ三百日で參百圓となれば二十日間据置き滿三百二十一日目に參百六圓を御支拂致します。

五口以上御加入の方に限り日掛の便利を計るため體裁のよい丈夫な金庫を御貸しいたします

其他御取扱ひは長期積金と同樣で御座います。

据置貯金

この貯金は一定の預入期間内に二回以上何回にも、何圓宛でも御預入れになり其れを六ケ月なり一ケ年なり据置いて頂くもので所得稅、資本利子稅のかゝらぬ事と、六月、十二月の兩度に複利計算を致します事とは定期預金よりはるかに御有利です。

普通貯金

この貯金は金壹錢以上何程でも御有利に御預り致し御出入れは御隨意です。

定期預金

三ケ月以上特に御有利に御預り致します。

代表取締役　門脇孝一
專務取締役　上田善次郎
常務取締役　山根宏
取締役　森田準一郎
同　武信謙治
同　原秀
同　眞先啓太郎
支配人　谷口顯昌
監査役　渡邊慶治
同　森啓藏

株式會社日本產業貯蓄銀行（大阪市東區今橋二丁目七番地）

創立　大正十二年三月二十七日

趣旨

凡そ金融機關と申せば誰しも銀行と直感致しますが事實は正反對で銀行は只だ金銀の預所で之が融通は特殊關係者又は少數の事業家に限られて居るのが今日の現狀であります、故に事業家の蹉跌は延いて銀行の破綻となり銀行の破綻は多數預金者の迷惑となるのであります。

政府は此社會的欠陷を補救すべく產業組合法を制定せられ眞に國家の中堅たる中產階級の金融を圓滑ならしめ以て經濟の利便と產業の發達を計り一面貯蓄を奬勵して生活の安定を保護せんと企劃せられたのであります。本組合は此趣旨に基き設立したのであります從て此組合を精々御利用願ひます。

加入と出資

大阪市内にお住ひの方は理事の承認を經て何時でも御加入が出來ます、但し加入金が要ります。出資一口の金額は貳拾圓で第一回拂込は拾圓であります。

監督と保護

當組合は產業組合法に準據して設立した公益的社團法人で大阪府知事及大藏、農林兩大臣の嚴正なる監督と保護を受けて居ります。

免稅と特權

當組合は營業稅、所得稅、登錄稅の免除あるのみならず、本組合の預金に對しても一切稅金を免除されます。

低資と親銀行

當組合は政府の低利資金貸下げを受くるのみならず產業債券參億圓發行の特權を有する資本金參千萬圓の產業組合中央金庫が親銀行として組合を援助して居ります。

相互と平等

當組合は相互平等主義でありますから一組合員で五拾口以上を持つ事が出來ません、從て一般營利會社の如く大株主の專橫は許さぬのであります。

貸付と制限

當組合の貸付は毎年總會で一組合員に對する貸付限度を定めますから銀行の樣に不意の破綻を招く樣な事は絕對にありませぬ。

供託と保證

當組合は法定の拂戻準備金を供託局に供託せるのみならず組合員は其持分の二分の一に相當する金額の保證責任がありますから組合員も預金者も至極安全であります。

組合員に限る

信用貸付　對人本位、信用貸付
擔保貸付　有價證券及不動產擔保
手形割引　商業手形と否とを問ひませぬ

廣く一般に預ります

定期預金　利率年七分
小口預金　一回拾錢以上日歩壹錢參厘
當座預金　小切手取引を致します日歩七厘
積立貯金　毎月集金に參ります

組合長理事　深川重義
常務理事　糸長萬次郎
理事　松本甚之助
理事　小野眞美
理事　鍵山武雄
理事　奥西篤三
監事　田中文七
監事　仙波哲夫
監事　西山修

組合長理事　深川重義氏

保證責任　大阪府產業信用組合事務所

（大阪市西區土佐堀通二丁目）

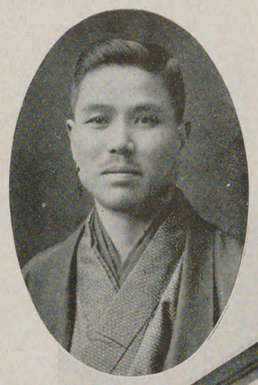
匿名組合上田商店ノ創立ハ大正七年六月廿日ニシテ最初東區淡路町五丁目ニ事務所ヲ設ク、

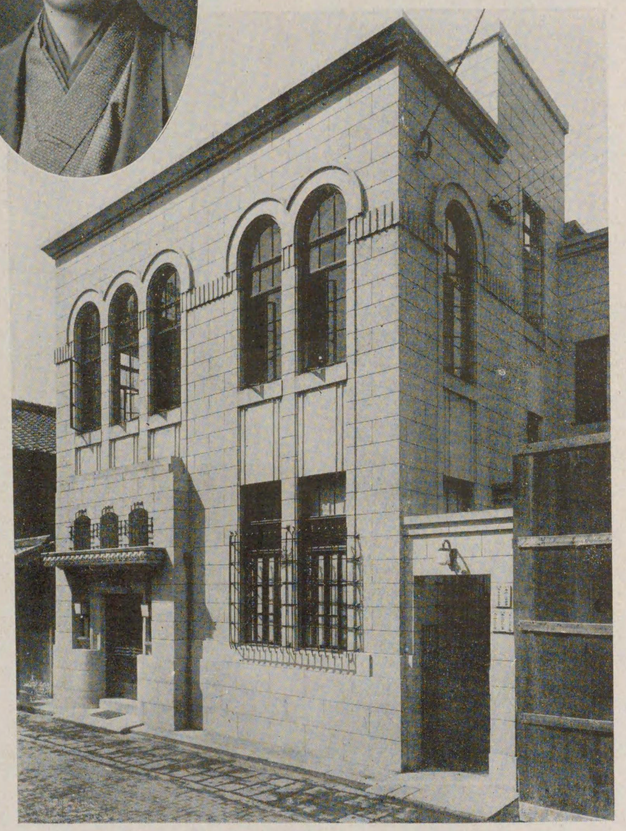
營業主上田要氏ハ元名古屋銀行大阪支店次長タリシガ辭職ノ上本業ヲ開始セラレシモノニシテ當時**ビルブローカー**業ハ未ダ不振ノ時代ナリシ故只管事業ノ開拓ニ專念シ併セテ穩健着實且敏捷ナル營業振ト相俟テ取引量ヲ激増セシメ良ク遊資ノ疏通ヲ便ナラシムルニ至ル大正拾年參月大阪組合銀行ヨリ特定**ビルブローカー**ニ認定サレ更ニ信用ヲ高ムルト共ニ營業ノ發展ニ促サレ大正拾參年拾壹月東京市日本橋區檜物町九番地ニ東京支店ノ開設トナリ東京市場ニモ雄飛シ大正拾五年參月東區高麗橋貳丁目ニ本店ヲ新築移轉シ現在斯界ノオーソリチートシテ東西兩市場ニ於ケル活動振ハ目覺シク財界ニ隱然タル大勢力ヲ有シ本邦金融界ニ貢獻シツヽアリ就中大正九年ノ恐慌關東大震災、昭和貳年ノ財界動亂等ニハ何等ノ影響ナキノミナラズ寧ロ事アル毎ニ益其信用聲望ヲ高メツヽアルハ刮目ニ價スル所ナルベシ

營業ノ種類

コールマネー、コールローン取扱、
商業手形、擔保附手形賣買、
一流證券ノ投資、
公債、社債賣買昏借仲介、
不動產賣買仲介、
其他大口金融ノ仲介、

營業主　上田　要氏





匿名組合　上田商店全景

當社の地位　創業以來四拾九年の歴史と壹億圓以上の資産を持つ世界有數の會社であります、如何なる大火があつても當社も驚かず御客樣は無論此上なき御安心と存じます

營業の方針　どんな小額でもどんな巨額でも親切丁寧に引受け損害發生の場合は出來るだけ公正に査定して極めて迅速に支拂を致します營業開始以來支拂つた保險金は實に參億餘萬圓に上つて居ります

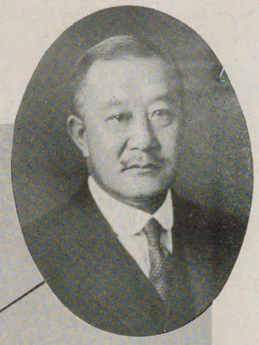
保險の目的　住宅、店舗、事務所、倉庫、官公衙、社寺、病院、學校、諸工場、機械、器具、原料、製品、商品、貨物、衣類、家具、什器、建築中の建物及材料等何でも御引受致します

保險の料率　保險の目的の所在地、構造、使用者の職業、四隣の狀況等により一樣ではありませんん御容赦なく御照會を願ひます

契約の手續　契約の御申込は電話、口頭、ハガキ何でも結構です早速參上して極めて御便宜に御相談申上げます

其他の營業　當社は永年火災保險の外世界各地に於て、海上保險、運送保險、自動車保險を營み大正十五年より盜難、傷害、硝子、森林火災の諸保險を始めましたが更に色々新らしい損害保險を始める準備中でありますから火災　險同樣御用命を願ひます

取締役會長　各務謙吉
專務取締役　木村林次郎
取締役　末延道成
取締役　平生釟三郎
取締役　桐島像一
取締役　間島與喜
取締役　串田萬藏
取締役　木村久壽彌太
取締役　鈴木祥枝
監査役　堀達



明治廿九年同社が大阪支店を開設と同時より三十年勤續の歴史ある

支店長　原幸衞氏

東京海上火災保險株式會社大阪支店

東區高麗橋四丁目

△銀行でも保險會社でも、お取引なさるのには、その選擇が何より大事です、『太平火災』は安田系で經營する最も堅實な保險會社であります。
大正八年の創立でありますが、資本金五百萬圓、火災保險の契約高も既に參億五千萬圓に達して居り、内外に多大の信用を有して居ります。

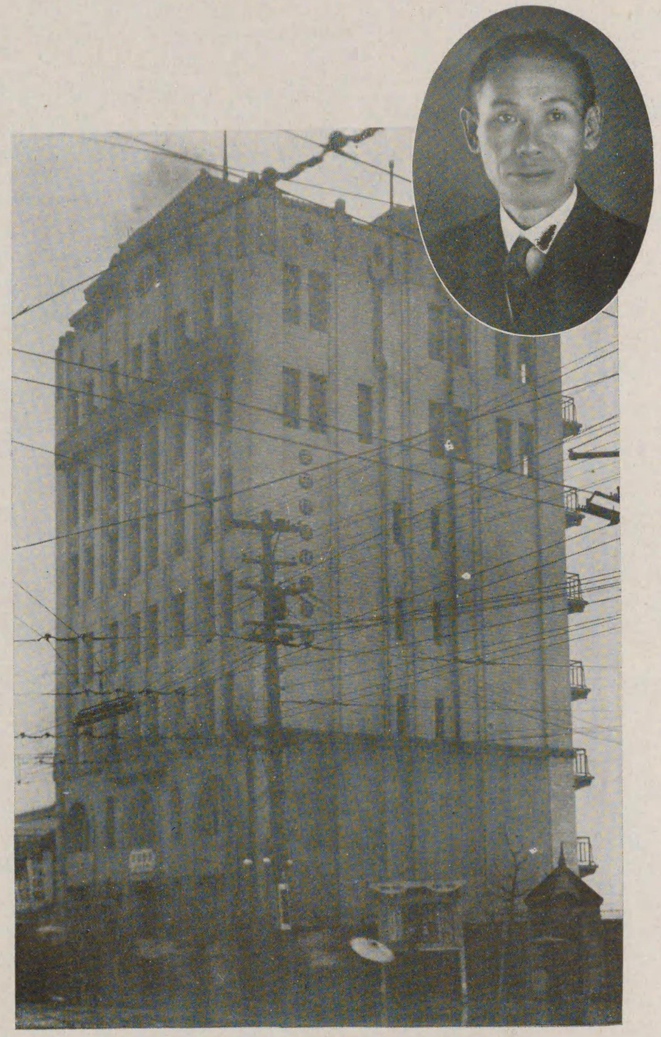
△保險金　は自火の場合でも、類燒の場合でも、又他人から放火せられた時でも、落雷、漏電、瓦斯の爆發に因り出火した場合でも、全燒は勿論、偏令一部分の燒失でも、夫々損害程度に應じて支拂を致します。

△保險料　は被保險物の所在地、構造、職業、四隣の狀況などに依り一樣ではありませんが、實地調査の上、出來得る限り御便宜の御取扱を致します。
他の諸物價などに比べますと、火災の保險料は極めて低廉です、僅かの料金で確實に財産の保護も出來、第一安心して眠られます。

△燒けた時　の火災保險であります、支拂が不確實であり不敏速であるなら保險會社は役に立ち兼ねます。
支拂の確實と敏速は『太平火災』の特色です、損害の査定なり、支拂なり、『太平火災』は必ず被保險者各位の御滿足を買ひ得ること、信じます。

△太平火災　は海上保險、運送保險をも兼營して居りますから、火災保險同樣に御用命を願ひます。

取締役社長　安田善五郎
取締役　男爵　松篤棐
取締役　小松林藏
取締役　南莞爾
取締役　岡本次三郎
取締役　田村新吉
取締役　青木鎌太郎
取締役兼支配人　安東貫一
監査役　安田善助
監査役　望月軍四郎
監査役　岩崎恒二郎
監査役　石井正城



支店長　眞名子眞隆氏

大平火災海上保險株式會社大阪支店
（東區北濱二丁目）

◇本社の創業　は明治四十二年五月であります。爾來加入者の利益と社會の福祉を本位として努力して居ります。

◇その組織　は相互會社と株式會社との長所を採り入れた最も特色あるもので、會社がどんなに儲かつても定款に定められた株主配當金以外の利益金は之れを加入者の利益配當金として分配するばかりでなく、若し假りに會社が損をした場合でも、加入者には一切御迷惑をおかけしないで、その損は株主が負擔することになつて居ります。

◇保險金　は獨特の新施設によつて、被保險者に萬一の事がありました場合には、全額を無調査即時に支拂をして居ります。之れは當會社の最も誇りとする所であります。

◇加入者配當金　は會社の決算利益の中から所定の積立金と、年六分の株主配當金を差引いた殘りの九割を分配します。而かも會社の不斷の努力に因りまして毎年の利益金が漸次增大して居りますから、從つて加入者への配當金額も增加して居ります。

◇資産狀態　は、常に之れを廣く公開して皆樣の御批判に供へ、その運用は公益を主眼として、都市或は農村に偏すること無く、細心の注意を拂つて居りますから、皆樣の御安心を願ふことが出來ます。

◇保險料　は精確な數理と統計を基礎として出來る限りお安くなつて居ります。その上前述のやうな利益配當金が附きますから一層低廉になる譯であります。猶又、當會社の保險約款が極めて寬大になつて居りますことは、その上にも益々保險料の低廉を意味するものであります。

◇利益配當附養老保險　に毎年配當附契約、と滿期配當附契約、との二種があります。前者は利益配當金を、年々の累加計算によつて增加しお支拂ひするものであります。後者は毎年の利益配當金をその儘利息を附けて積立て置き、滿期の際お支拂ひするもので、夫れに中途で死亡された方や解約者の分を滿期まで繼續されたお方の分に加算しますから多額の配當金になる譯であります。

取締締役會長　石井徹
專務取締役　塚本明籌
取締役　井坂孝
取締役　鶴見左吉雄
取締役　中村靜嘉
取締役　内野五郎三
取締役　前川善平
取締役　金平豊次郎
取締役　折戸太市郎
監査役　望月軍四郎
監査役　潮田方藏
監査役　中田敬義

大平生命保險株式會社大阪支店
（北區梅田新道）

支店長　大川敲三郎氏

東洋生命保險株式會社

一、堅實第一

東洋生命は我國實業界の元勳澁澤子爵の指導の下に、財界の重鎭第一銀行頭取佐々木勇之助氏を相談役とし、木村雄次取締役社長の任に就いて最も堅實に經營致して居ります。

二、契約者本位

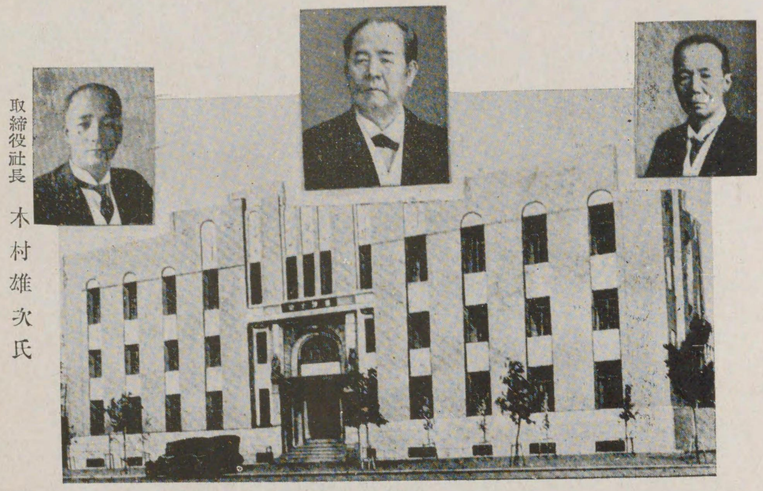
東洋生命は契約者皆樣の世話役を以て自ら任じ出來るだけ親切に契約者皆樣の立場になつて萬事の御取扱を致して居ります。保險料は至つてお安くその上定款で定まつた確實の配當がございます。

三、共存共益

東洋生命は相互組織と株式組織の粹を採り最も確實な混合組織の制に據て居ります。そして何方樣の御希望にも副ふやうに多種多樣の保險種類がございますから保險の效用を十分に發揮することが出來、從つて共存共益の精神に最もよく觸れて居ります。

保險種類

二人保險	定期配當保險
利殖保險	滿期配當附保險
長壽保險	一年保險
	月掛保險



澁澤子爵

相談役　佐々木勇之助氏

取締役社長　木村雄次氏

東京市麹町區永樂町二丁目二番地
東洋生命保險株式會社
大阪支店長　村山惣平氏

埃及の神話で、フヰニックスといふ東洋でいふ鳳凰は、五百年目に一度づゝアラビヤからヘリヲポリスへ飛來し、祭壇の神火に身を投じ灰中より身を起せば、更生して若き美しき鳥となると傳へられる。卽ち鳳凰は永生の象徴である。

生命保險を最も精神的に見れば、それは親の子に對する愛の具象化されたものである。若し哲人達の說くが如く、人は良き子孫を通じて鳳凰の如く幾度か更生するものであるならば、鳳凰は卽ち生命保險の象徴であり、生命保險は又實に吾人の永生を確保し培養するものでなければならぬ。

社長　木村雄次

（壽陽禮讃ノ一節）

◇火災保險の必要は今更事新らしく申すまでもありませんが、

◇建　物　一寸した火災でも、直ぐ延燒する木造の住宅店舖は素よりのこと、石造煉瓦の建築でも仲々油斷が出來ません、大火となれば鐵骨、鐵柱も飴のやうに溶けて仕舞います、土藏は安全だと云ひ來つて居りますが、窓や戸前から火の入ることも決して少なくはありません。

◇商　品　商家では商品は資本の大部分であり、殊に多くは防火設備の無い店頭に積まれますから、若し火災保險に付けてでもなかつたら、何時すつかり無資本になるやうな、大損害が來ぬとも限りませぬ。

◇家　財　家具什器や衣類、夜具蒲團、書籍なども、罹災後新調すれば、意想外に金の掛るものです、火災保險さへあれば、何の憂も無く原狀に復します。

◇金融物件　建物の抵當貸附は、昔から最も確實の金融方法のやうに見られて居るのですが、保險を付けずに捨て置いては最も不確實な放資となります。

◇工場、倉庫　工業會社の資本は、殆んど全部建物と機械や原料に投下されますが、工場の火災は住宅、店舖などよりずつと度數が多く、何時燒けるか全く油斷が出來ません、若し無保險でどもあれば、事業の安全は到底期し得られませぬ。

倉庫會社の保管貨物なども、荷主からの預り品であると云ふ本來の性質から火災保險とは離れられぬ關係です。

◇公有物件　此節では國有財産でも、段々保險を付けるやうになつて來ました、市町村有の公舍、學校、病院なども一朝罹災の場合は、再築も仲々六つかしく、居住者も又一時に重稅の負擔となります、それを緩和し調節するのは、火災保險の外にはありません。

相談役　安田善五郎

取締役社長　柳莊太郎
常務取締役　安藤眞雄
取締役　志賀直溫
取締役　伊東要藏
取締役　南莞爾
取締役　三宅龜三郎
監査役　竹村良貞
監査役　小野哲郎
監査役　高山長幸
監査役　鈴木梅四郎

支店長
望月一實氏

第一火災海上保險株式會社大阪支店
（東區高麗橋二丁目）

東洋海上火災保險株式會社沿革

（大阪支店東區瓦町二丁目）

明治四十一年六月十日開業

帝國帆船海上保險株式會社ト稱シ當時海上保險ハ汽船船體及汽船積貨物ノ海上保險アリシノミナルヲ以テ當社ハ帆船船體及其積荷ノ海上保險引受ヲ目的トシタルヲ以テ帆船保險ノ開祖タルノミナラス漁船船體ノ引受ヲモ併セテ始祖タリ。

同四十三年八月四日商號ヲ東洋海上保險株式會社ト改ム。

資本金ヲ壹百萬圓ニ增額ス。

汽船々體及其積荷保險ヲ加ヘ一般海上保險業ヲ營ム。

大正二年六月廿八日資本金貳百萬圓ニ增加ス。

大正五年一月資本金參百萬圓ニ增額。

此ノ時東京海上火災保險株式會社ハ總株數ノ三分ノ一ヲ引受ケ同時ニ事業經營ノ委任ヲ受ケ同社員ヲ營業ノ樞要部ニ据エ以テ特ニ密接ナル關係ヲ結ブニ至レリ。

大正七年十一月營業ノ種類、一般火災及運送保險ヲ加フ。

大正十四年十月廿六日稱號ヲ現在ノ東洋海上火災保險株式會社ト改ム。

取締役社長　下坂藤太郎

常務取締役　日向利兵衞

取締役　土屋豐吉

同　永井好信

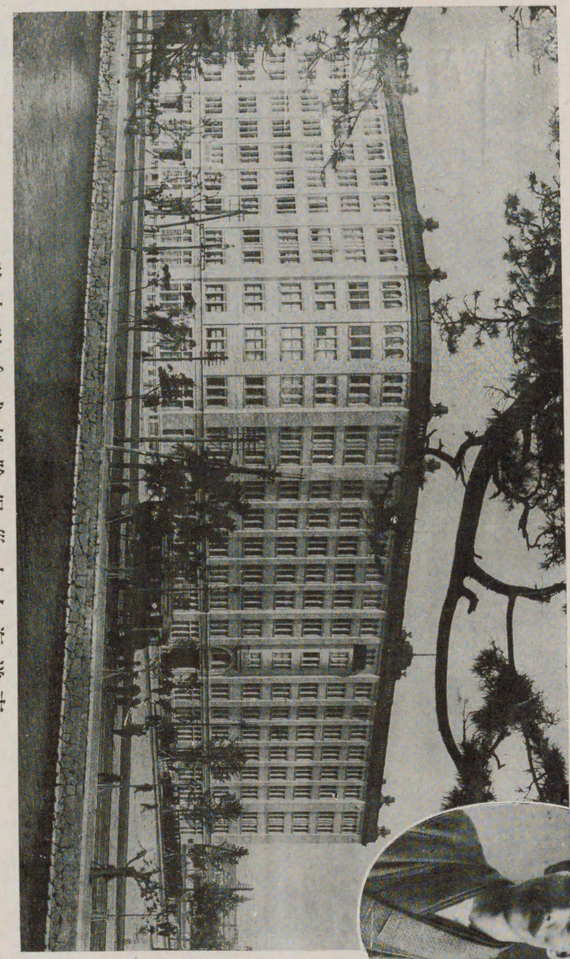
同　松方五郎

局乘支配人　石井良一

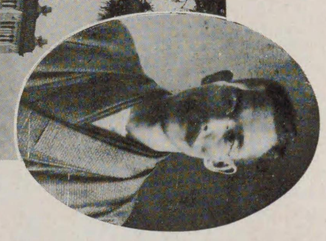
監査役　岩田宙造

同　增澤有

相談役　各務鎌吉



東洋海上火災保險株式會社本社



同社大阪支店長　瀨上弓之輔氏

創　立　大正九年三月北海道拓殖銀行に依り資本金四百萬圓を以て小樽市に生れ同十一年內國通運會社の姉妹會社として現社長中野金次郎氏の就任と同時に本店を東京に移しました

關東大震火災助成金　大正十二年の關東大震火災で諸會社の損害は實に莫大なものでしたが幸に吾社は極僅少で從而助成金も同業社中最少額(二六萬壹千圓で)あります

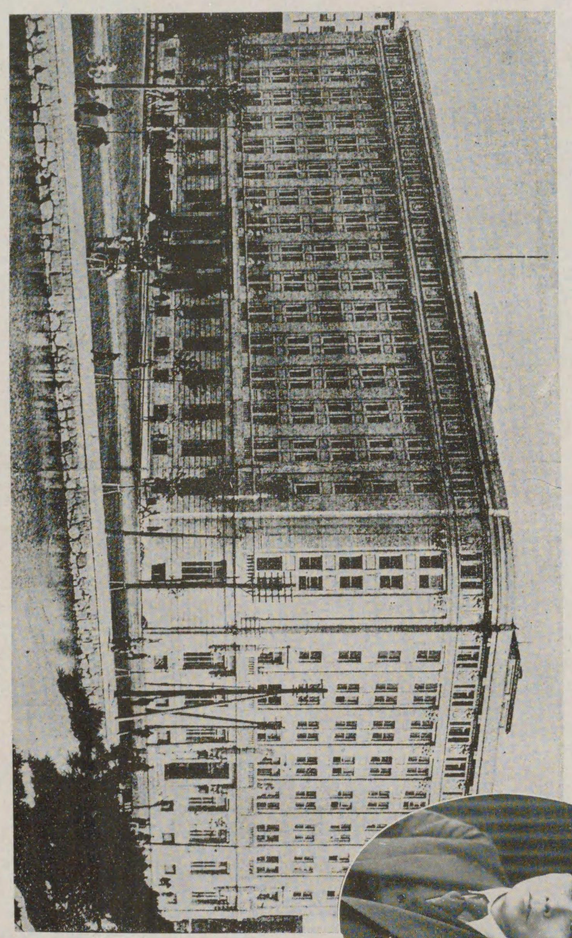
姉妹會社と營業方針　從來は消極的方針の下に經營して居りましたが今回斯業界の形勢に鑑み一方に全國唯一の國際通運會社の地盤を背景とし他方には本邦火保界第一の稱ある日本火災保險會社と姉妹關係を結び社基は益々鞏固となりましたので、愈々積極的に業務の擴張發展を期する事になりました

社　是　是を更新機として取扱懇切、支拂迅速、華客本位を社是として益々奮勵努力以て皆樣の御滿足と御期待に背かぬ事を誓ひます爰に大方各位の御愛顧と御指導を切に御願する次第であります

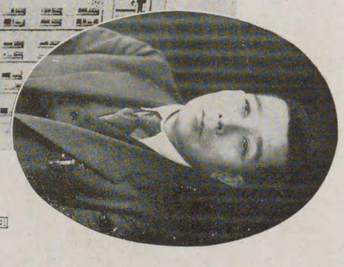
保險の必要　各位の日夜御油斷なき火の用心に拘はらず恐るべき火災度數は容易に減りません、各位は第二の生命たる貴重の財産を一日も不安の狀態に放任せず速に火災保險をお附けなさることを御勸め致します

（大阪支店東區北久太郎町三丁目）

取締役社長　中野金次郎
常務取締役　中川銑三郎
取締役　男爵　中島久萬吉
同　岩倉具光
同　吉村佐平
同　小畔四郎
同　合川豐三郎
同　松崎時勉
監査役　小林清一郎
同　小幡鐵介
大阪支店長　武田正弘



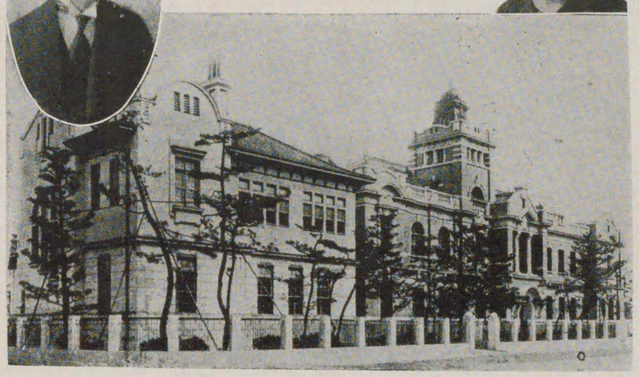
社會式株險保送運上海災火北大



同社大阪支店長　武田正弘氏

社長 男爵 藤田平太郎氏

専務取締役 寺田四郎氏



富士生命保險株式會社全景
（大阪市北區堂島北町）

△當會社の特色　は保險契約者に利益分配を致します。

當會社は、保險契約後滿二年以上を經過した保險契約者に對して、利益分配を致します。其の利益分配は、營業年度五个年毎に、之を取纏め、現金で御支拂致します。

保險契約者の御利益が、大切でありますから、保險料の御拂込が滯つても、保險契約の效力を失はない方法を採つて居ります。

當會社は、保險契約者の御利益が大切でありますから、保險料拂込の猶豫期間内に、保險料の拂込の無かつた場合でも、直ちに、其の保險契約を失效とせず、解約返戻金を、保險料に振替へて、保險契約の效力を繼續さして居ります。例へば、契約年齡三十五歲の方が、五十歲請取養老保險で、請取年齡迄拂込の契約をせられて、五个年間、保險料を拂込になれば、其の後二个年間は、保險料の拂込無くとも、契約の效力があり十个年間掛け續けになれば、其の後は、全く、保險料の拂込が無くとも、契約の效力があります。

取締役社長 男爵 藤田平太郎　監査役 藤田彦三郎
專務取締役 寺田四郎　監査役 日吉平吉
取締役 藤田德次郎　法律顧問 法學博士 岩田宙造
取締役 田中隆三　醫事顧問 醫學博士 南大曹
取締役 鈴木庫太郎　相談役 各務鎌吉

△富士生命の首腦者　「藤田」と言へば、恐らく、何人も、日本屈指の大富豪、大實業家であることを知らない者は無いであらう。此の大實業家「藤田組」社長、「藤田銀行」頭取、「藤田鑛業株式會社」取締役、其他諸會社の重役であり、「恩賜財團濟生會」評議員であり、又、貴族院議員である男爵藤田平太郎氏が、當會社の社長である。又、東京帝國大學の法學部を卒業し、後、海上法を專攻し、海上法研究の爲め、海外にあること約九箇年、獨、英、米、佛、伊、西、瑞等の諸國に遊び、我國、法學界の一權威として認められ、曾ては、對獨對墺講和條約締結の際には、特に、交通委員會及戰前契約委員會等の委員を仰付けられ其の功に依り、叙勳の光榮に浴した「藤田組」理事寺田四郎氏が、專務取締役である。其他、取締役には、「藤田組」副社長、「藤田鑛業株式會社」社長、「藤田銀行」監査役其の他諸會社の重役として、關西事業界の重鎭藤田德次郎氏あり、又、曾て、農商務次官として令名あり、現時、衆議院議員にして、「藤田組」總務理事として、大阪實業界の巨頭たる田中隆三氏あり、又、「藤田組」理事、「藤田銀行」常務取締役として、大阪金融界に於ける一巨星鈴木庫太郎氏があり、又、監査役としては、「藤田組」取締役、「藤田鑛業株式會社」及藤田銀行の取締役たる藤田彦三郎氏あり、又、曾て、官界に在つて、簡易生命保險法創始に參與した斯界の權威者、「藤田組」理事、「藤田鑛業株式會社」の取締役たる日吉平吉氏がある。

△富士生命と藤田組との關係　當會社の重役は、悉く、「藤田組」に屬し、藤田家の經營する「藤田組」、「藤田鑛業株式會社」、「藤田銀行」とは、姉妹會社として、相競つて、業績の發展に努めつゝあることを見ても、如何に、當會社と、藤田家と密接なる關係にあるか、又、如何に、當會社の經營が確實であるかゞ判るであらう。

當會社の本店は、從來、東京市に在つたが、大正十四年四月、「藤田組」の重役であり、又、資本は、殆んど全部、「藤田組」に屬し、藤田組」、「藤田鑛業株式會社」、「藤田銀行」其他同家經營の諸事業と相協力して、愈々、會社の基礎を固め、益々、事業の擴張を計り、且つ、相互扶助、共存共榮の精神を旗幟として、保險契約者及被保險者の利益を、保障せんが爲めに、外ならない。當會社は此の意氣を以て、勇往邁進せんとして居るのである。

東洋の紐育―日本第一の經濟市場―此の大阪の堂島の一角に、富士の靈峯の如く巍然として聳ゆる建物こそ、我「富士生命保險株式會社」である。

△營　業　科　目　住宅、商店、事務所、倉庫、工場等の諸建物、商品、家具、什器機械仕掛品等の諸動産並に建築中の諸材料等に對する一切の**火災保險**、船體並に積荷に對する一切の**海上保險**、陸上運送荷物に對する一切の**運送保險**

△保　險　金　の　支　拂　自家の過失でも、類燒の場合でも、又他人から放火せられた時でも、落雷漏電瓦斯の爆發に因り出火した時でも、全燒は勿論假令一部分でも燒けましたら夫々損害の程度に應じて最も迅速に御支拂致します。

△保　險　料　は契約物件の所在地、構造、職業四隣の狀況に依りまして一樣ではありませんが、出來得る限り御便宜の御取扱を致します。

△保　險　の　申　込　御用の節は、はがき、又は電話等で御申聞け下さいましたら、金額の多少に拘らず、直樣店員御伺ひ致させます。

△**燒けた時の火災保險**　でありますから、支拂が不確實であり、又不親切であるなら保險會社は何んの役にも立ちません。

支拂の確實と、敏速は「朝日海上火災」の特色です。

損害の査定なり、支拂なりは「朝日海上火災」は必ず被保險者各位の御滿足を得ること、信じます。

火災保險の御用なら是非「朝日海上火災」に御用命の程御願ひ致します。

專務取締役　草場茂一
取締役　岡崎忠雄
同　小曾根貞松
同　榎並充造
同　山田實史
同　平出定吉
支配人　犬塚兵次
監査役　八馬兼介

支店長　志野覺治郎氏

朝日海上火災保險株式會社大阪支店
（東區今橋二丁目）

△當社は英斷を以て比類なき低廉有利なる新種配當附保險を創めました。これ當社が多年眞摯に保險の使命を全うし社會に奉仕せむと努力し來りたる成果であります。

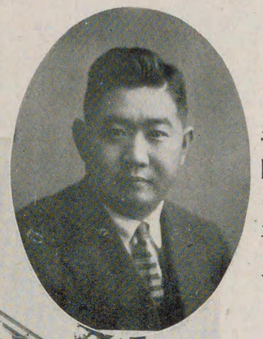
△利益配當附新種養老保險　此の契約の利益は別に積み立て置き其の十分の九を加入者各位に分配致します。利益金は契約後四年目（年掛にて保險料拂込第五回）から分配致します。分配金の支拂は之に相當する額だけ毎年保險料を減少する方法に依りますが若し分配金か保險料より大なるに至れば其の分は現金を以て支拂ひます。契約滿期の後尙ほ三年間は利益金の支拂を致します。分配金は極めて豊富なる計算になつて居りますので保險料は年々減少し滿期までに御拂込になる保險料平均年額の僅少なること他に類を見ざるところであります。

△契約者本位創立四十年の經驗を積み營業方針の確立と資金の充實とは相俟つて益々當社の信用を鞏固に致します。契約條件の寬大、取扱の親切、保險金支拂の迅速、利益配當の豊富なるは勿論其の他種々なる御便益があります。

社長　朝吹常吉　同　福原信三　同　城谷忠三郎

專務取締役　名取夏司　同　鈴木恒三郎　監査役　小西喜兵衞

取締役　矢野義弓　同　鈴木太郎　同男　醫學博士　高木喜寬



支店長　北岡呑平氏

帝國生命保險株式會社大阪支店

（東區今橋一丁目）

△出　世　保　險　はお子さん方が御成長なさるに連れて夫に似合ふ衣服が必要である以上に必要なものであります。其仕組は各種生命保險の粋を抜き、特長を蒐めた全く新らしい試みで、可愛いゝお子さんの立身出世を期待しながら樂しく易々と掛けとふせる愛の象徴保險とも云ふべきもので左の通りの保險種類が有ます。

△此保險の特長　以上の保險は世間に多くありきたるものと異り、總て父兄が被保險者となつてお子さん方をその受取人と定める仕組であります から萬一被保險者に御不幸があられた場合は、爾後保險料のお掛續けが無くとも滿期には御約束の保險金を一時にお支拂ひも致します。

△當會社の特長　經營の目印を加入者本位に置き、組織は株式、相互兩者の特長を採り入れて毎年營業利益の九割以上配當いたします（契約後四年間配當致しません代償は滿期後にお埋め合せ致します）殊に川崎銀行を背景とし、日本火災とは姉妹關係にありまして、その發展振りは實に斯界の驚異とされて居ります。

△教　育　資　教育資は滿期と同時に月割支拂額の札の付いた學資年金割賦證券をお渡し致しますから、この證券一枚お持ちになれば安心して修學の目的を遂げる事が出來ます。尙この保險は契約者の御便利を圖り甲、乙の二種類に分けました。

甲種の保險金額は一千四百圓で專門學校程度の學資金、滿期から三ケ年間每月參拾六圓宛支拂ひ最後の時に卒業後のお仕度金の意味をも含めて別に二百二拾圓お支拂ひ致ます。

乙種は二千八百圓の御契約、高等學校程度以上の學資金で滿期から三ケ年間每月參拾六圓宛四年目は四拾四圓、六年目は五拾圓、六年目は五拾圓宛の學資金を支拂ひ最後の時に別に卒業後のお仕度金として四百圓お支拂ひ致ます。尙以上は御研學上の御都合を御考慮下さいまして甲乙兩種又は各別に二口以上御契約下さるとも御隨意であります。

△事業資、結婚資　事業資保險は世の中へ若々しい第一步を踏み出す時の基礎となり成功の基となる保險であります。また結婚資保險は御愛孃がその全生涯を通じての晴れの御祝に、立派なお仕度が自然に出來、新らしい家庭生活の幸福を握る鍵として是非必要なものであります。

△利益配當附養老保險

此の養老保險は利益配當率の多い點に於て一般の保險より優越した特色があります、加入者本位と堅實な經營方針と相俟つて他の追隨を許さない所であります、其の要領を申上げますと

取締役社長　川崎肇
常務取締役　河合良成
取締役　藤山雷太
取締役　小林作五郎
取締役　安藤浩
取締役　茂木啓三郎
取締役　喜多又藏
常任監査役　後藤國彥
監査役　宇佐美敬三郎
監査役　飯村丈三郎
相談役　川崎八右衞門

△所　得　稅　免　除

生命保險は社會施設として缺く事の出來ない制度であるとの見地から國家は奬勵策として保險料年額貳百圓迄は所得稅を課せない事になつて居ります。

支店長　一色熊太郎氏

支店次長　野崎勇二郎氏

日華生命保險株式會社大阪支店

（西區新町南通四丁目）

一枚の保險證券……夫れ老後の慰安も子孫の計も包まれて居ます

我社は明治二十七年の創立にかゝり爾來堅實を主義とし契約者本位の下に穩健なる發達を遂げ現今其保有する保險契約金額は壹億參千萬圓に達し契約者人員は實に十七萬五千を算するに至りました而して昭和二年十月に於ける諸積立金額は貳千八百餘萬圓を計上し今日迄既に支拂を了したる保險金額は壹千九百萬圓に達して居ます、營業機關として は裏面記載の通り全國に拾貳ヶ所の支部と貳千の代理店を有し如何なる陬僻地に於ける契約者に對しても何等の不便なきを期して居ます。

契約者本位　我社は株式會社と相互會社の長所を採用し凡て契約者本位の組織であります、保險料は最低廉なるを特色とし何事も簡便迅速に御便宜の御取扱を致します。

保險金支拂迅速　保險金の支拂は最迅速にして且確實なる事は過去に於ける事實か之を證明して居ります。

貸金制度　契約者の御希望によりては保險證券を擔保として低利に御融通致します。

拂濟證券　中途御都合で保險料の拂込を中止御希望の場合は拂濟證券の發行も致します。

契約の復活　猶豫期間を過ぎて契約が失効となりましたものでも善意に契約者に對しては契約復活の御取扱を致します。

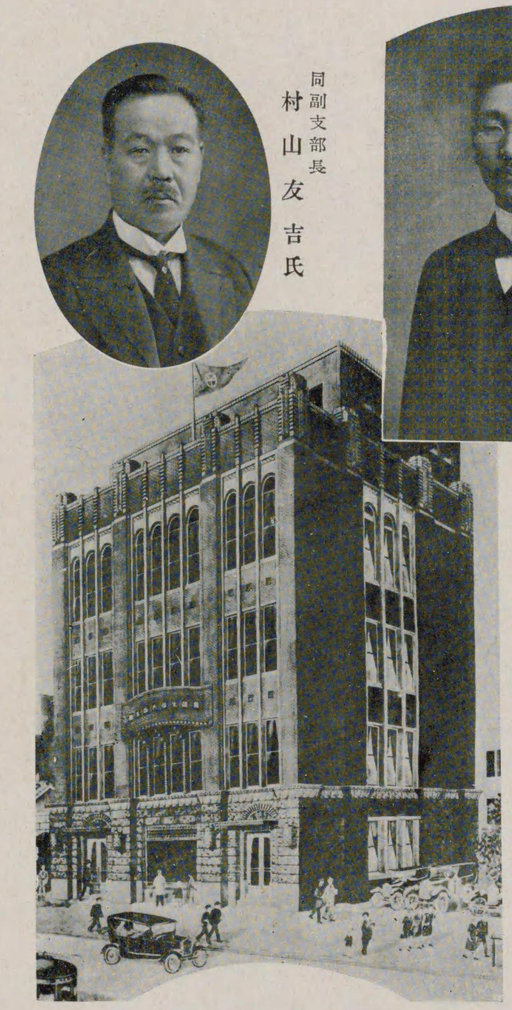
訂正變更　保險證券の訂正、保險料拂込方法又は保險金受取人の變更等總て簡便に御取扱致します。

契約加入年齡　割增金付養老保險、養老保險は滿九歳七ヶ月から教育結婚資金は一歳から御契約致します。

取締役社長	飯田延太郎
常務取締役	宇井孝三
取締役兼支配人	大村信善
取締役	平野次郎
取締役	木村淺治
監査役男爵	平野長祥
同	高梨博司

保險の種類

割增金附養老保險
養老保險
教育結婚資金保險



同副支部長
村山友吉氏

支部長　富本保一氏

有隣生命保險株式會社大阪支部

常盤生命の營業方針「常盤(時は)保險の時代なり」

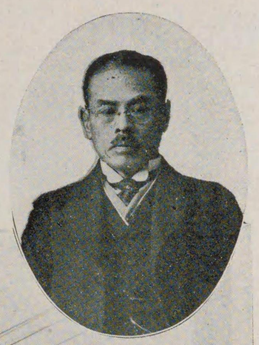
躓ざる程度に休まず走る。吾社の保險を御利用下さい。あなたの事業安固と信用增進のために。相續稅準備のために。公益財團寄附のために。恐慌時代用意のために。老後安泰のために。子女資金供給のために。

生命保險は以上の如く利用せらるゝものなれば國家は其保險料に對し所得稅を**免除して之れが發達を奬**勵して居ります。

本社の重役

取締役社長	大谷嘉兵衞
專務取締役	關本英作
取締役支配人	吉田榮右
取締役	若尾謹之助
同	堀田金四郎
監査役	安藤浩
同	相澤喜兵衞
同	矢島榮助

同社大阪支部長
堀江勇太郎氏



常盤生命保險株式會社大阪支部
（大阪市西區立賣堀南通一丁目）

徴兵保險に就いて

（附、斯業の開祖第一徴兵保險株式會社）

徴兵保險の目的は國民兵役義務の均等を計り之れが服役すべき者を奬勵し以て精勵忠勇の實を揚げしめ家族の生計を安全にし併せて勤儉貯蓄の美風を養成するものである、則ち帝國男子の丁年に達し兵役に服する時の爲めに設けたるものにして身體檢査を要せず當歳より拾歳迄の男子は何人にても被保險者たるを得る最も斬新なる方法に依り目的を達し得る樣立案されたり然して之れが創始以來年を閲すること三十餘年社を數ふること四、業績日に進み信用月に揚り今や總契約高四億九千九百三十五萬三千四百八十五圓總加入件數九十五萬七千三百九件（昭和三年十月末現在）を數ふるに至れり。回顧すれば明治六年に徴兵令が公布せられて萬國に誇るべき徴兵制度の樹立を見たり即ち男子丁年に達すれば徴兵檢査を受け榮譽ある國家の干城となる制度である乍然此制度の結果は合格者と不合格者とを生じ合格者は軍務に服するも不合格者は此義務を免るゝため當然其歸結として事實上義務の不平等を招來するに至れり即ち明治二十七八年の戰役に於いて我忠勇義烈なる軍人は海に陸に遺憾なく大和魂の精華を發揮し遂に皇軍の大捷を博し以て東洋の無名一島帝國をして一躍世界的たらしめたりとは謂へ此名譽ある軍人の中には本人の出征により忽ち一家の生計を失ひ「妻は病床に喘ぎ子は飢に泣く」等の悲慘事も亦事實不勘現出したのである、然るに一方不合格者は入營せざりしの故を以て安閑として家業に從事する者有る等の實情に鑑み之が義務を平等たらしめよとの問題は當時より喧しく論議せられ其中に特に有力なる一策として徴兵義務平等稅賦課案が帝國議會に提出せられたのであるが

苟も男子の面目とし且つは國民として當然の義務であり權利である國家への奉公を金錢に代へることは日本古來の武士道の精神に反すると謂ふ反對論者が出でゝ、遂に否決の止むなきに至つた、乍然問題の重大なるを看取した時の政府當局は人を海外に派して之に關する實狀を調査せしめた處獨、墺兩國に徴兵保險なるものゝあることを報告した之れが動機となりて研究を重ねた結果僅少なる保險料を拂込みて入營の際に多額の保險金を受取ると謂ふ貯蓄を加味した然かも他外國と國情を異にする本邦傳來の國民性とも言はるゝ義勇奉公の精神に合致し且つは國民兵役義務の平等を計り得る合理的のものが考案せられた之れ即ち我國の徴兵保險の濫觴である之れより先き前述の如き公平ならざる我國徴兵制度の缺陷を補ふ救濟機關の創設こそ國家的必須の急務として政府の施設計畫に先き立ち前社長岡田治衛武氏は故山縣公爵を初め朝野諸名士贊助の下に故伯爵松浦詮、有島武、若宮正脊、三宅豹三諸氏等を糾合し是等の諸氏又發起人となり唯一意義勇奉公の主旨を奉じ以て彼我長短相裨補し最も我國情に適合せる方法に據り徴兵保險會社を創設すべく明治三十年七月發起認可を得翌三十一年一月創業總會を開き諸般の準備を整へ同年四月所管裁判所の登記を了し同年五月一日を以て營業を開始したるもの即ち第一徴兵保險株式會社の前身たる徴兵保險株式會社にして斯業の嚆矢なり然して同三十七年には前赤十字社副社長男爵小澤武雄閣下が岡田社長に代るべく總裁として迎へられ明治四十二年には更に現貴族院議員太田清藏氏入りて專務取締役の要職に就くや極力冗費を節約し專ら加入者本位たらんとし遂に大正十一年五月利益配當金付を發表し明治四十一年五月以降契約に迄遡及之れが均霑せしむる樣實施を計り合

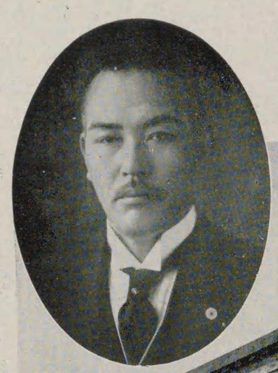
格入營者は勿論不合格者に對しても利益配當し株式組織にして然かも相互組織の長所を併用し尚保險料拂込完了の上は希望に依り保險證券擔保の低利貸付をする等好個の利殖機關たらしむる等鋭意社業の改善伸展を圖りつゝ信用と實力を昂上せしめ遂に今日の大をなしたのである乍然我社の盛運に倣ふて其後同業會社日本徴兵、國華徴兵、富國徴兵の出現するに至れるを以て我社は彼我混同を避くる爲め大正十四年一月社名「徴兵保險株式會社」の上に新たに「第一」の二字を冠して「第一徴兵保險株式會社」と改稱し彼の帝都未曾有の大震災に逢着しながらも何等損害なく本社經營「銀座ビルデイング」の竣功成るに及びて社屋を之れに移し一層社業を擴張することゝなり現に東京、大阪(寫眞參照)其他八支店一支部及四十餘出張所三千に餘る代理店と呼應して全國に張りたる募集網は間然する處なく同業他會社の追蹤を許さゞるは勿論契約高の巨大、資產の充實は一般生命保險會社間に伍してすら嶄然一頭地を抜き第一流に屬するに至れり越へて我社の雄大さは言を俟たず大正十五年一月小澤總裁薨去せられし爲め總裁制度を廢し太田專務が社長となり益々縱橫の腕を振ひて斯業の覇者たるに恥ず社業彌隆昌となり逐年劃企的驚異の成績を擧げて今日に至る今之れが自負を具體的數字によりて示さば如左、

總資產　五千八百十七萬四千餘圓　(昭和二年九月末現在)

保險契約高　二億四千六百六十五萬二千餘圓　(昭和二年十月末現在)

保險加入者　五十四萬六千餘人　(同)

支店長
栗山善一氏



第一徴兵保險株式會社大阪支店
(東區博勞町)

吾社の組織　普通の株式組織は株主の利益に偏重し、又相互組織は加入者に會社の損失負擔の義務がありますが、吾社は此兩者の長所を採り短所を補ひまして、株式組織でありながら相互組織の如く利益金の大部分は加入者に分配致しますから契約者には頗る有利で且つ安全なる理想的の組立であります。

吾社の保險種類利益配當附養老保險　は契約滿期の時と中途で御不幸がありましたときとに保險金を支拂ひまする契約ですから老後の慰安と遺族の保護とを兼ねた一擧兩得の保險であります。保險料は保險期間中拂込むものと一時拂のものとがあります。

利益配當附終身保險　は被保險者に御不幸がありました時に保險金を支拂ふ保險であります。夫れ故、遺族の保護と相續稅の準備には最も適當して居ります。

保險料の拂込期間は十年、十五年、二十年と一時拂とであります。御生存中限りなく拂込むのでありませんから、勤勞所得の御生活をなさる方にも相應しいと思ひます。

萬壽賦金附養老保險　は利益配當附養老保險と同樣に保險金の支拂をなすは勿論萬壽賦金として保險契約日から滿五年目毎に保險金の一割を現金にて支拂ひ又契約滿期の時には保險金の半額に當る金額を保險金に添へて支拂ひますから老後の慰安及遺族の保護と貯蓄の精神とが巧に含まれたる嶄新有利にして趣味の最も深い保險であります。

幸福生存保險（利益配當附）　將來の御幸福を唯一の目的とする十年、滿期十五年滿期、二十年滿期の貯蓄生存保險であります。お生れ立ちの赤ちやんから御壯年の方も、御老年の方も男女一樣に御加入が出來て、身體檢査の必要もなく、至極簡單な御契約でありますから御加入に便利であります。夫れ故御兄樣方の學資金や結婚費の御用意事業上の資金其他御家庭の貯金等には最も重寶であります。普通銀行の貯金よりは非常に有利であります。

月掛保險（滿期配當附）　十年滿期、十五年滿期、二十年滿期の養老保險であります。

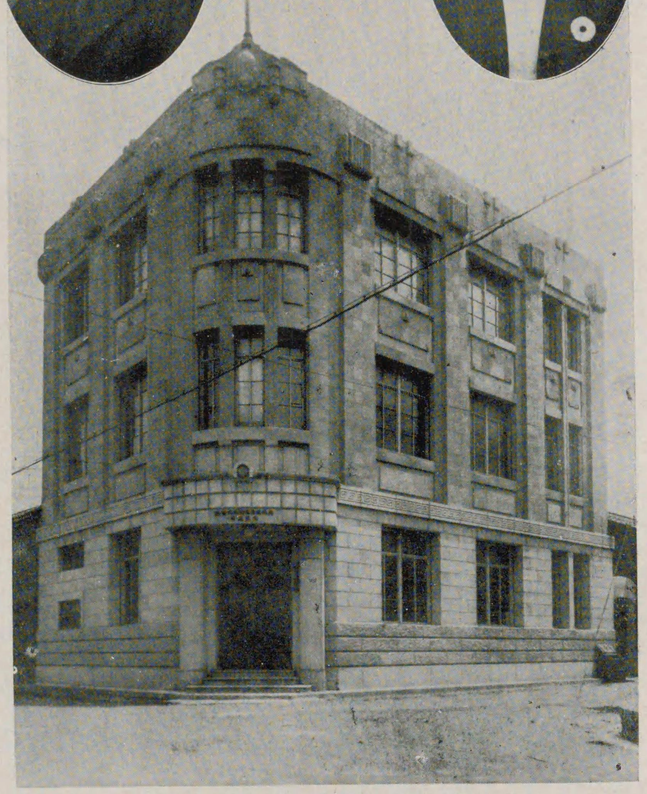
保險料は三圓、五圓、十圓、二十圓（以上十圓宛を增す）の月掛ですから、皆樣が少々御注意になれば樂々と掛込の出來る御便利な保險であります。

それに保險金は非常に割合よく計算されて居りますのみならず契約滿期の時に利益配當がありますから、實に民衆化せる點に於て、將た最も有利なる點に於て、月掛保險では日本一であります。

取締役社長　藤田政輔
專務取締役　山田敬亮
取締役　鈴木茂兵衞
取締役　日比谷祐藏
取締役　花田凌雲
監査役　伊藤長次郎
監査役　若尾鴻太郎

取締役社長　藤田政輔氏

大阪支店長　西川亥吉郎氏



共保生命保險株式會社大阪支店
（東區大川町御靈筋角）

國光生命保險相互會社

本　社　東京市京橋區銀座尾張町二丁目二十三番地
大阪支部　大阪市東區京橋三丁目七十八番地（新築中）
（假事務所）東區北濱一ノ六野村ビルデング三階
支部所在地　東京、大阪、廣島、福岡、名古屋、仙臺、札幌
出張所　全國樞要ノ地四十一ケ所
代理店　二千餘ケ所全國各地ニアリ

昭和二年十一月末現在
契約件數十二萬七千餘件
契約保險金額一億四百萬圓

社長　伯爵　中川久任
副社長　男爵　佐竹義立
取締役　子爵　阿部正寛
專務取締役　岩間六郎
常任監査役　榊田清兵衞
監査役　小坂順造
大阪支部長　安倍清三郎

大阪支部長
安倍清三郎氏

國光生命保險株式會社本社
（大阪支部新築中）

太陽生命の營業方針

◇本社の營業方針は、生命保險業者としての社會的使命を果すといふことを基調として定められて居る。

◇生命保險業者の使命とは相互扶助の精神に基き、生命保險の利益を成るべく多數の人に最有利に、最親切に提供することによつて社會に貢獻することである。

◇故に本社の保險は加入者の利益を本位として工夫してあり、又契約に關する取扱は叮嚀親切を旨として居る。特に保險契約の最終目的たる保險金支拂の如きは最も迅速だといふ定評を得て居るのである。

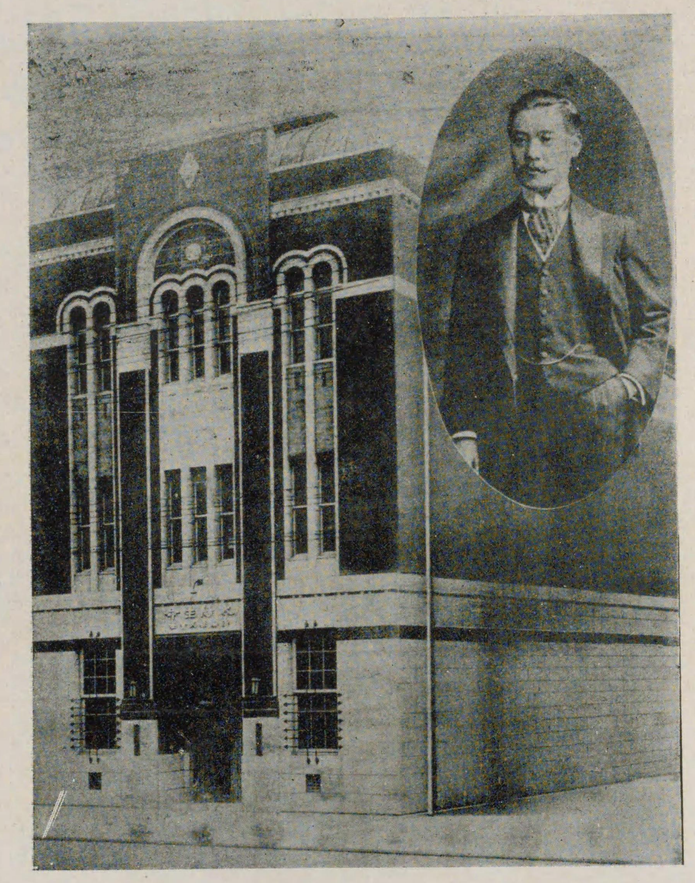
◇資金運用の點に於ても、資産の大部分は契約者からの預り物であるといふ觀念を以て非常に愼重なる注意を拂つて居る。

◇資産の運用に注意すると共に、一方に於ては大に經費を節約し、契約者に對する利益配當の益多からんことを努めて居る。

太陽生命保險株式會社々長
西脇銀行頭取
國際信託株式會社取締役
新潟農工銀行取締役
小千谷銀行取締役

西脇濟三郎氏

氏は新潟縣多額納稅者にして明治十三年十二月を以て生まれ、夙に學習院に學び後英國ケンブリツジ大學に遊學し明治四十一年に卒業歸朝、西脇銀行を創設し傍ら前記銀行會社の重役を兼らる。斯界に活動せる氏は又近來稀に見る篤志家にして官立學校在學者中有爲の青年を選び學資を給與せらる。現に社會に立てる人尠からず、又先年四萬餘圓を以て小千谷尋常高等小學校の校舍を町に寄附し、又本年に於て參拾餘萬圓を投じ小千谷女子小學校を新設最近其竣功式を擧げらる。姻戚は伯爵酒井忠篤、男爵上田宗雄、子爵稻葉順通、安田善之助



同社取締役社長　西脇濟三郎氏と同本社　（東京市京橋區南傳馬町）

生命保險は長期間の契約なれば加入は堅實なる會社を選ぶの要ある可し、會社を選擇するは經營者を第一とす、如何なる大會社も經營者其任に非されば安心ならず、西脇家は十一代連綿たる越後の富豪にして一代の成金者流に非ず太陽生命は西脇一家の經營なり。

社　長　西脇濟三郎
專務取締役　清水文之輔
取締役　西脇健治
取締役　伴野乙彌
取締役兼支配人　洲戸吉漸
監査役　柴田極人

日本海上保險株式會社

資本金壹千萬圓・諸積立金六百貳拾八萬餘圓

取締役社長	右近權左衞門
取締役副社長	右近和作
常務取締役	右近福次郎
常務取締役	八十島五郎右衞門
取締役	八木千之助
取締役	川口義宏
取締役	中村泰藏
監査役	早瀨完二
監査役	川畑清藏

支店出張所所在地

東京支店	東京市麹町區永樂町一丁目
大阪支店	大阪市西區江戸堀上通一丁目
神戸支店	神戸市榮町通二丁目
横濱支店	横濱市本町二丁目
上海支店	中華民國上海漢口路A九號
名古屋出張所	名古屋市西區東柳町
福岡出張所	福岡市片土居町
金澤出張所	金澤市片町
内國代理店	小樽、函館、新潟、四日市、門司、長崎、基隆、釜山、仁川、外樞要地一七四個所
外國代理店	桑港、紐育、倫敦、馬車塞、ゼノア、シドニー、孟買、香港、漢口、大連、營口、浦鹽斯德、外樞要地八三個所

日本海上保險株式會社全景

（大阪市西區江戸堀上通一丁目）

支店　東京支店　東京市麹町區内幸町一丁目三番地
神戸支店　神戸市海岸通五番地
出張所　横濱出張所　横濱市山下町七十番
名古屋出張所　名古屋市中區新柳町五丁目一番地
金澤出張所　金澤市十間町九番地
九州出張所　福岡市橋口町四十一番地
仙臺出張所　仙臺市國分町一番地
京城出張所　京城府永樂町二丁目七十八番地

駐在員　倫敦、上海、天津、門司、長崎、京都、豐橋、岡山、廣島

代理店　内外樞要ノ地ニ壹千五百店設置

歐洲總代理店　セドウイツク、コリンス商會（ロンドン）

海上保險◇火災保險

社長　多羅尾源三郎
專務取締役　伊賀歌吉
取締役　喜多又藏
同　木村清
同　松本與一
同　新庄清一
同　廣岡久右衛門
監査役　南鄉三郎
同　瀧川儀作
同　竹原友三郎

運送保險◇傷害保險

大阪海上火災保險株式會社
大阪市北區堂島濱通二丁目二番地

創立明治廿六年
資本金壹千萬圓
諸積立金六百六十萬圓
契約高貳拾七億圓（昭和元年度中）

△火災保險の必要は今更申すまでもありません、如何に自分が用心しても他から類燒する事もあり、又自分とても間違から大事に至らぬとも限りません、一朝火災に罹れば如何に立派な建築物も灰燼となります、又衣類、家具、什器等の家財は日常缺く事の出來な、財產ですから不慮の災難に用意する事は是非共必要であります、或は商品を有する方が火災に罹つて營業資本の大部分を失ふ事はよくある例です、これに備へるには、火災保險を附けておくより外に良策はありません、一刻も早く火災保險契約をお勸め致します。

△保險金は自火、類燒又は他人から放火せられた場合でも、落雷、漏電に因りて出火した場合でも全燒は勿論假令一部の燒失でも、夫々損害の程度に應じて支拂を致します、當社の支拂確實と迅速とは必ず被保險者各位の御滿足を買ひ得ること、信じます。

△當社は岸本一族の經營せる最も確實なる會社でありまして岸本汽船會社、攝津貯蓄銀行、壽生命保險會社等は當社の姉妹會社であります。

當社は關東大震災に際し政府より助成金を借入るゝことなく自力で出捐金を支拂ひました。

當社役員の關係諸會社

社長	岸本五兵衞	株式會社攝津貯蓄銀行頭取 鴻池信託株式會社取締役
專務取締役	岸本正清	日本タンカー株式會社々長 壽生命保險株式會社取締役
取締役	岸本鑑之助	鴻池信託株式會社監査役 攝津商船株式會社取締役
取締役	猪飼九兵衞	壽生命保險株式會社專務取締役 株式會社攝津貯蓄銀行取締役
監査役	岸本兼太郎	岸本汽船株式會社々長 株式會社三井銀行取締役 阪神急行電鐵株式會社取締役 神戸海上運送保險株式會社取締役
同	貴田治兵衞	丸赤醬油株式會社々長

神國海上火災保險株式會社
（西區土佐堀船町）

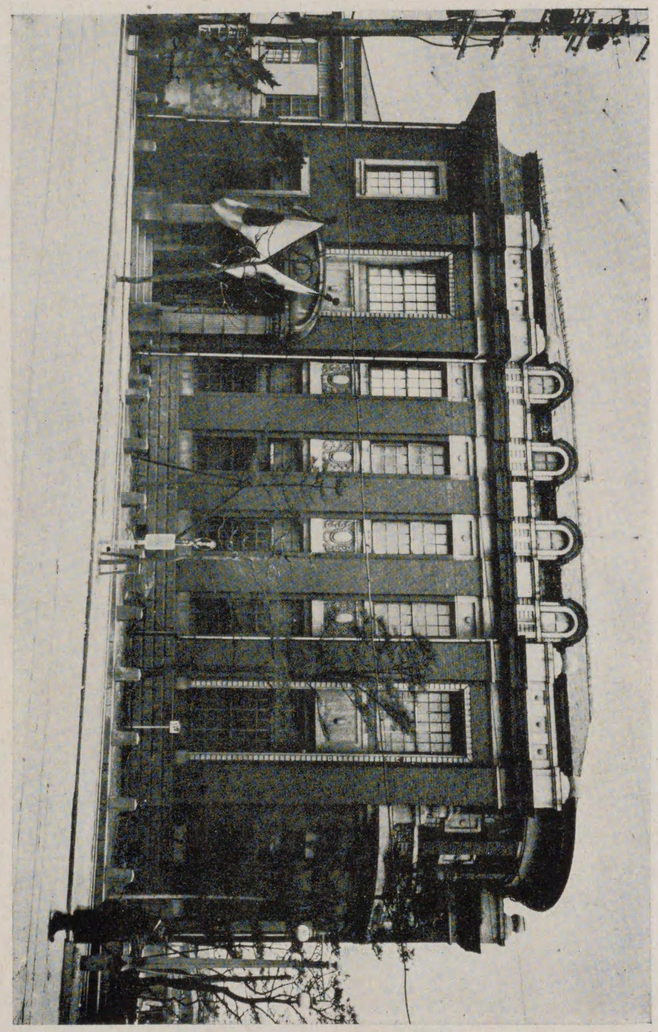
△火事は何時あるか決して油斷出來ません自分が要愼しても他から類燒することもあり自分としても疎忽をせぬとは限りません是に備へるには火災保險を附けて置くに限ります例へば如何に壯麗にして宏大なる住宅並に工場と雖も火災保險を附せざれば一朝火災に遭遇するときは灰燼に歸するを以て常に之を確實なる財産とすることを得ざるべく殊に貸家は他人が使用するものなれば自然火氣の注意粗略に流れ易く其の他商人の營業資本たる商品並に一般人の衣類、家具、什器等に僅かの保險料をお拂ひになつて火災保險をお附けになれば火事で燒けても直ぐに保險金が受取れますから年中安心して居られます。

△保險料の割合は保險にお附けになる物件の所在地、建物の構造、職業及四隣の狀況等に依りて異りますから實地拜見の上ならでは一樣に申上げ兼ねますが出來得る限り低廉の保險料にて御引受け致します　保險料の割合は內外同業會社何れも同一であります、保險契約が成立すれば不取敢火災保險料の「領收書」を差上げ後より保險證券を作製してお送り致します、尤も一旦契約の後繼續の場合には「繼續保險料領收證」を差上げます。

△當會社の保險したる物件が火災の爲めに損害を受けたる場合には直に社員を差出し速かに保險金支拂の手續を致しますが土地遠隔又は小火等の爲め心附かざる場合なしとも限りません から萬一罹災の場合にはお手數にても電話又は電信等出來る丈け早き方法にてお知らせ下さる樣願ひます。

保險金は類燒の場合、他人より放火せられたる場合、過失に因り自家より出火したる場合又は漏電、落雷等に因り出火したる場合に支拂ふことは勿論ですが其他消防の爲め損害を受けたる場合にも夫々損害の程度に應じて支拂を致します。

取締役社長　大谷順作
專務取締役　中田英太郎
取締役　島德藏
取締役　尼崎伊三郎
取締役　阿部彥太郎
取締役男爵　前島彌
販締役　平生釟三郎
監査役　濱崎健吉
監査役　小林利昌
支配人　中島好太郎



豐國火災保險株式會社
（北區曙橋新地三丁目）

△當會社は、明治二十五年の創立に係り、本邦火災保險會社中最も古きもの、一つであります
當會社の營業方針は、始めより堅實と懇切とを旨とし、今日に至るまで少しも變ることはあ
りません、而して營業の狀態は、幸に大方各位の御眷顧によりて年々發展し、現在にては、
支拂資金として備ふるもの、約貳千四百拾餘萬圓の巨額に上り、其基礎の鞏固、內容の充實
せることは、我國同業者中一頭地を拔いて居る次第であります、故に當會社は震災以外今後
如何なる大火の場合に於ても決して契約者各位の御信賴に背かざる確信を有して居ります。
△營業振の事　凡そ商賣上、顧客に對して親切を旨とするは、寧ろ當然の務めで、事新しく吹
聽する程の事ではありませんが、當會社は役員始め一般社會に至るまで、特に嚴重に之を體
して、苟くも保險に係る事柄は、大小輕重の別なく、萬事親切叮嚀に取扱を致して居ります
から、契約上の事に就ては勿論、契約後の異動や、保險金の支拂等に就ても、少しも御面倒
や御不便をかけることはありません。
△當會社は、火災保險の外に海上保險、盜難保險及傷害保險（怪我の保險）をも兼營して居り
ますから、火災保險同樣御用命を願ひます。

取締役社長　川崎肇
常務取締役　山崎清
同　黒澤次久
取締役　藤山雷太
同　佐久間心一郎
同　河合鉄二
同　喜多又藏
監査役　高橋熊三
同　小林作五郎
同　安藤浩
相談役　川崎八右衞門

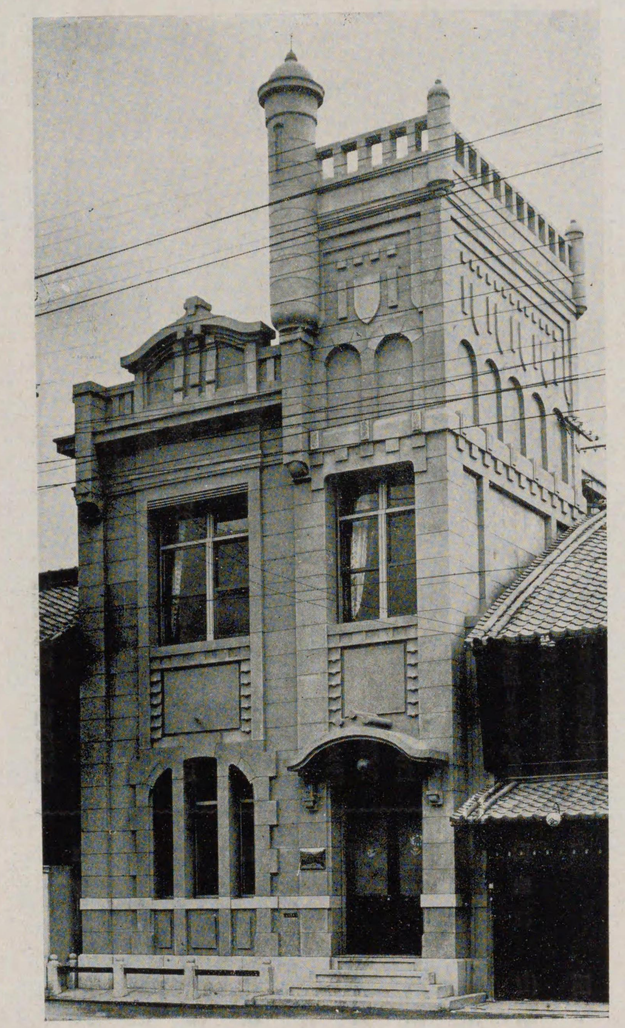
日本火災保險株式會社大阪支店

（大阪市西區京町堀上通）

苟モ金錢ヲ以テ評價スルコトノ出來得ル財産ニ對シ火災保險ノ御契約ハ一刻寸時モ猶豫スルコトハ出來マセン、電話ナリ葉書ナリ又ハ口頭デ御申付ケニナリマスレバ早速最寄ノ店ヨリ係員參上致シマシテ御契約ヲ頂戴イタシマス、何卒火災保險ノ御契約ハ一モ帝海二モ帝海ト言フ樣ニ我社ニ御用命ヲ願ヒマス、敏速ニ且確實ニ萬一ノ場合ニハ必ス御滿足ヲ得ル樣ニ致シマスコトハ今更申上グル迄モアリマセン海上保險モ運送保險モ同樣ニ御愛顧ヲ願ヒマス。

創　立　明治二十六年
資本金　金壹千萬圓
諸積立金　金五百拾五萬餘圓
火災保險契約高　金拾億餘圓

取締役社長　安田善五郎
取締役副社長　長松篤棐
常務取締役　岩崎恒二郎
常務取締役大阪支店在勤　三宅龜三郎
取締役　古門林太郎
取締役　千々岩英一
取締役　安田善衞
取締役　相川義太郎
監査役　大谷嘉兵衞
監査役　南莞爾
監査役　中川銑三郎



帝國海上運送火災保險株式會社

（大阪支店　大阪市東區本町四丁目）

△當會社は在記種類の動産不動産に對して火災保險の御契約を致します。

一、建物の保險　住宅、商店、事務所、倉庫、官公署、工場、社寺、病院、學校、其他一切の建物及建築中の建物及材料

一、貨物、家具の保險　商品、衣類、什器、其他一切の貨物

一、機器、製品の保險　機械、器具、材料、製品及半製品等

△保險料は被保險物の所在地、構造、御使用者の御職業、四隣の狀況等によりまして異つて居りますが最も低廉な料率により御契約申上げます。

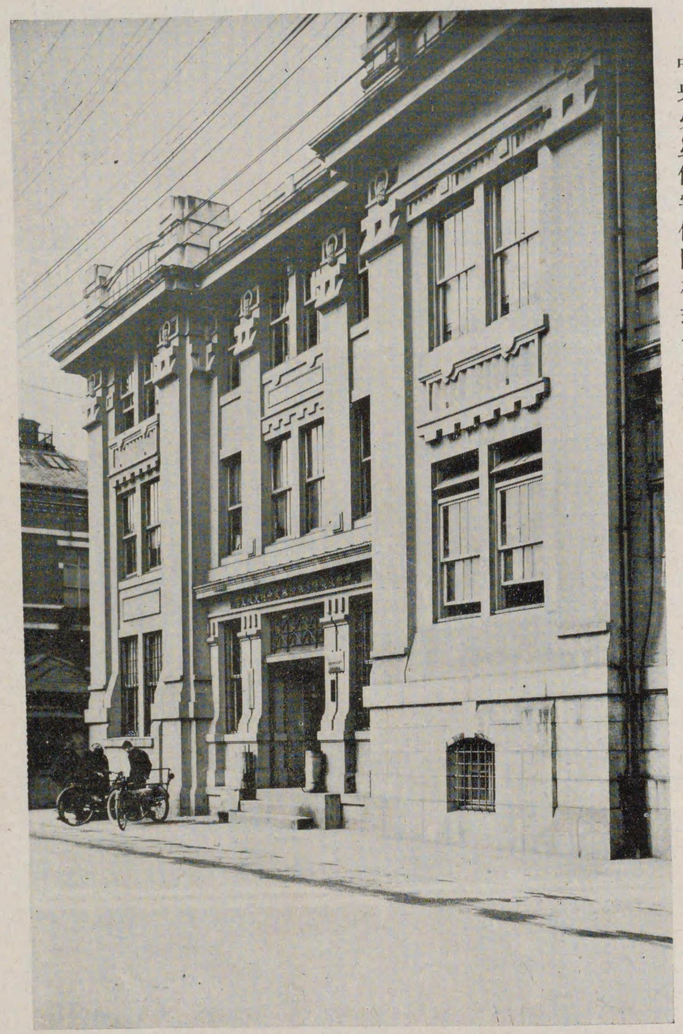
△**御罹災の際**は最も迅速に損害の調査を致し保險金を御支拂申上げます。

傷害保險　は一口に申せば怪我の保險であります。汽車、電車、自動車等の顚覆、汽船の沈沒、炭坑の爆發落盤、狂犬の咬傷、毒蟲の刺傷、劇毒藥の中毒、瓦斯の爲め窒息、感電、火傷溺死又は機械から受けた怪我等皆此の保險で云ふ所の怪我でありまして、畢竟病氣以外偶然の出來事の爲に身體の內外に傷害を被り、之が爲に死亡するとか、不具癈疾になるとか、又は負傷の療養の爲に業務に從事する事の出來ない狀態になつた場合に其々定めの保險金（治療費）を支拂ふのが傷害保險の目的であります。

沿革　此保險は西洋でも海上保險に次で夙に行はれたものであると云はれて居りますが今日の仕組を以て最初に現はれたのは西曆千八百四十九年に開業しました倫敦の鐵道旅客保險會社であります我國では明治四十四年五月に設立せられた弊社（其當時日本傷害保險株式會社と稱し後に現今の商號に變更）を以て嚆矢と致します。

弊社では傷害保險を普通傷害保險と旅行傷害保險とに別けて居ります。

取締役社長　森本邦治郎
取締役　鮎川義介
同　藤田政輔
同　飯田新七
同　日比谷祐藏
同　貝島太市
同　神谷千別
同　芦田雪雄
同　白山等
監査役　山田敬亮
同　田中市藏
同　赤松治部



中央火災傷害保險株式會社大阪支店（大阪市北區中之島二丁目十四番地）

△銀行でも保險會社でも、御取引なさるものには、その選擇が何より大事です。『東京火災』は安田家の經營する堅實無比の保險會社であります。

明治二十年の創立で、火災保險としては日本の開祖である上資本金壹千萬圓、諸積立金八百四拾貳萬圓、火災保險の契約高貳拾億參千六百萬圓、創業以來支拂つた保險金丈でも四千四百八拾貳萬圓に達して居り、内外に絶大の信用を有して居ります。

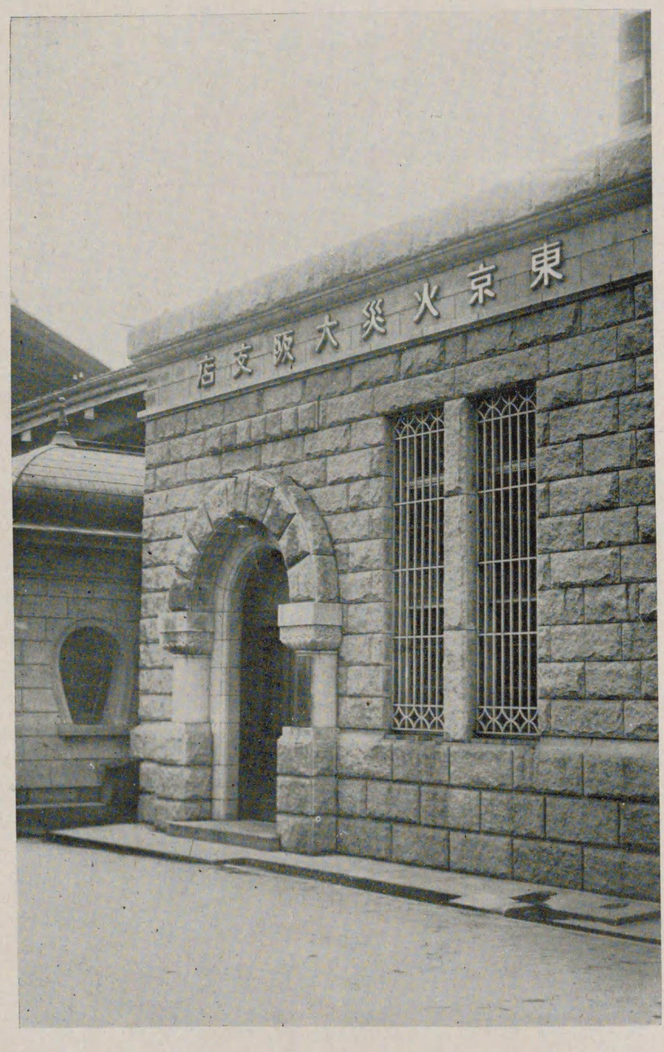
△保險料は貨物の種類、運送の道筋、季節の善惡、荷造の良否などに依り一樣では有りませんが、出來得る限り御便宜のお取扱を致します。殊に運送保險料は火災、海上の保險料よりも遙に低廉で、僅かの料金にて確實に貨物の保護も出來、取引上何よりの安心です。

△損害のあつた時の運送保險であります。支拂が不確實であり不敏速であるなら保險會社は役に立ち兼ねます。

支拂の確實と敏速は東京火災の特色です。損害の査定なり、支拂なり、東京火災は必らず被保險者各位の充分なる御滿足を得る事と信じます。

△**東京火災**　は火災保險、海上保險、運送保險を營業して居りますから、夫れ〳〵同樣に御用命を願ひます。

取締役社長　安田善五郎
取締役副社長　男爵　長松篤棐
常務取締役　小松林藏
常務取締役　南莞爾
取締役　安田善助
取締役　新井智三郎
取締役　松本佐藏
取締役　古門林太郎
監査役　佐々田懋
監査役　大橋新太郎
監査役　三宅龜三郎
評議委員　安田善次郎
評議委員　渡邊福三郎
評議委員　大谷嘉兵衞



東京火災保險株式會社大阪支店（大阪市東區高麗橋三丁目）

△常に火災保險をけいやくしておけば、いつ火事にあふてもその損害はすぐに保險會社が支拂ひますから、うちに居つても、旅に出てゐても、年中安心して活動することができます、火災保險はつまり一つの財產の保證（安心）を委托すところでありますから、そのけいやくをするには何をいふても、一ばんたしかな、信用のある保險會社をえらぶことが最もだいじなことであります、幸ひ當會社は前記のやうに資本金も積立金も相當に充實してをりますし、又從來

△保險金の支拂ひについては、迅速と確實とを旨として、しかも取扱ひが簡易であるといふことをほこりとしてをります、それですから今まで保險金の支拂ひについては、かつて問題をおこしたことがありません、それにけいやくの手つゞきはまことに簡單で御用がありましたら、電話か「ハガキ」で會社か或は代理店へ御申しこみ下さいましたならば、すぐに社員又は係員がまゐりまして、最もていねいに簡單にお手續をいたします當會社で保險をお引受けする物件の種類は、住宅、倉庫、工場其他各種の建物、商品、家具、什器、衣類、機械、器具又倉庫內の保管貨物、建築中の建物材料等であります。

△なほ當會社は火災保險のほかに一般の海上保險及び運送保險も世界各國にわたつて營業してをりますから、船舶、貨物等の保險も多少にかゝわらず御用命を御願ひいたします。

社長	岡崎忠雄
常務取締役	三木三郎
取締役	伊藤長次郎
同	吉田長敬
同	辰馬吉左衞門
同	岸本兼太郎
同	百崎俊雄
同	小島豐俊
同	芥川順治
監査役	小曾根喜一郎
同	八馬兼介
同	菊地吉藏
同	山內卯之助
同	石丸忠實

神戸海上運送火災保險株式會社大阪支店（北區中之島四丁目）

△國定教科書（高等小學讀本卷ノ三、廿六課）保險の一節抄錄

かぐつちの火の荒び、科戸の風のすさみ、陸に海に人命を危くし財産を滅すこと日としてこれ無きはなし、（中略）人の世に避け難き是等の禍少からざればこゝに保險事業の經營あり（中略）火災保險加入者は火災の爲に財産を盡盡するの災難を免るゝを得べし。（中略）如何なる人も常に其の收入の幾分を割きて（中略）保險契約を爲し置くことなり是れ文明國民として安心して世に處し事を成す所以の道なり

△當會社は　大正生命、日本教育生命の姉妹會社にして著名なる實業家の創立に係り最も堅實なる經營を致して居ります

△保險の物件　建物、機械、商品、家具等の動產、不動產

△保險の申込　口頭、電話又は端書等にて御申込あらば直に直に社員參上簡便に御契約致しますす

△保險金の支拂　は最も簡便且迅速に御取扱致します

新日本火災海上保險株式會社大阪支店（全景）

取締役社長 伯爵	柳原義光
專務取締役	金光庸夫
取締役支配人	田村周藏
取締役	横山正躬
取締役	大松幸吉
取締役	磯田正朝
取締役營業部長	矢次健吾
監査役	榎本藤次郎
評議員	奥平昌國
大阪支社長	朝日敬之助

△當會社は明治參拾年の創立に係り、創業以來皆樣の御引立に依り異常の發達を遂げまして、大正拾四年末に於ては資本金壹千貳百五拾萬圓、諸積立金八百貳拾六萬餘圓を有し火災保險契約高は約拾五億萬圓に達して居ります、危險の分布に關しては殊に細心の注意を拂ひ慮理して居りますから今後如何なる大火が起りましても契約者各位の御信賴に背く樣な事は斷じてありません。當會社は營業上常に新機軸を樹て皆樣の御要求に應ずる樣に努めて居りますのは勿論今後も新しき時代に適應する種々の保險を營む考へであります、恒に華を去り實に就き專ら內容の鞏固を謀る事は當會社が創立當時より今日迄終始一貫して變らざる特色でございます。

△保險の引受　當會社は左記の動產、不動產に對して火災保險を引受け最も懇切に取扱ひます。

一、住宅、店舖、事務所、倉庫、官公署、學校、病院及社寺其他一切の建物。
一、工場の建物、機械、器具、原料品、仕掛品、製作品、其他。
一、商品、其他一切の貨物、家具、什器、衣類等の家財品、其他の動產。
一、建築中の建物及材料。
一、船渠內に在る船舶及其積荷。

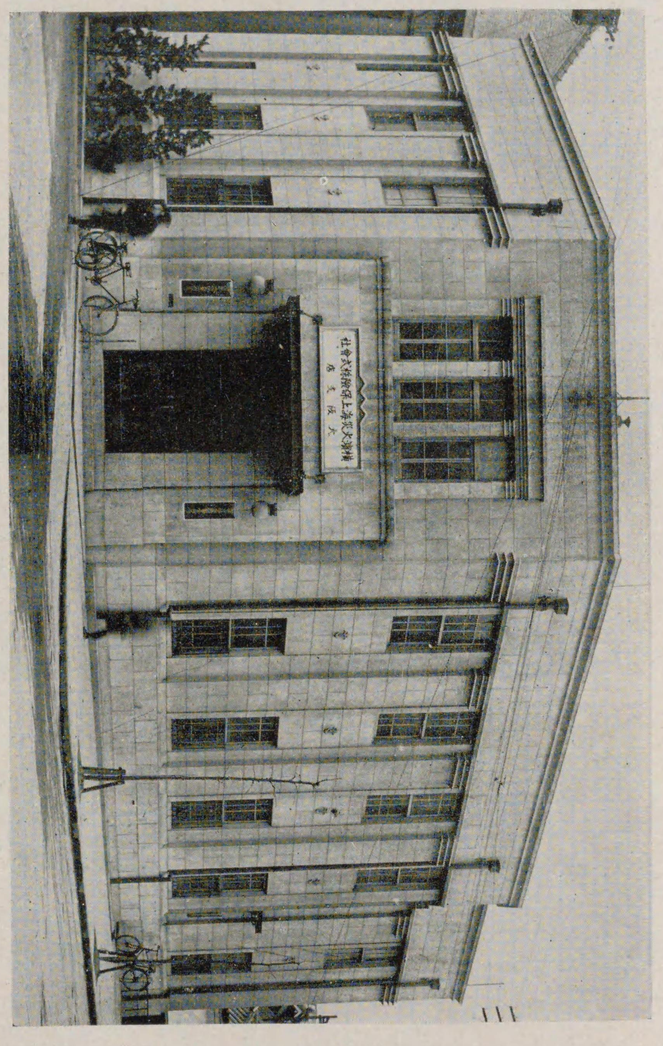
△火災保險以外の營業　當會社は火災保險の外に海上、運送、信用の各保險を營業して居りますから火災保險同樣御用命を願ひます。

海上保險　船舶、貨物等の財產が海難の爲め損害を被りたる場合に其損失を塡補致します。

運送保險　鐵道又は荷車等にて貨物を運搬する間に損害を生じたる時は其損失を塡補致します。

信用保險　銀行、會社、商店等の雇人が勤務中不正行爲をなし雇主に與へたる損失を塡補致します。

取締役社長　井坂孝
專務取締役　錦戶右門
取締役　若尾幾造
同　原富太郎
同　澁澤義一
同　小野哲郎
同　杉田六藏
同　吉井桃磨呂
監査役　石川德右衞門
同　渡邊文七



（目丁一通北堀戶江區西）店支阪大社會式株險保上海災火濱橋

千代田火災保險株式會社

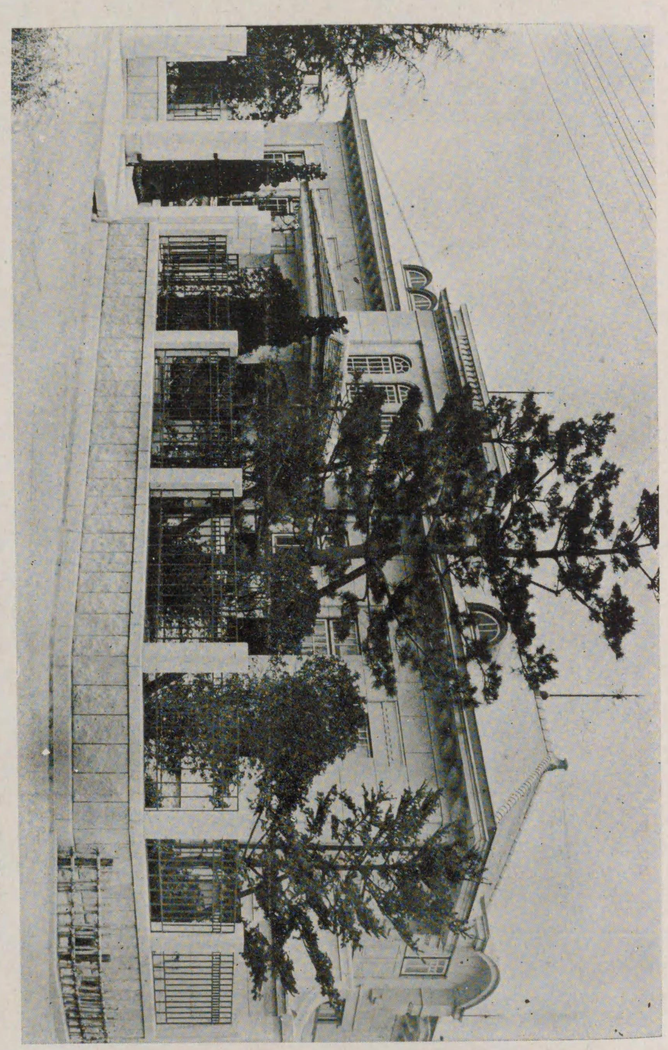
社長　門野幾之進

當會社は資本金壹千萬圓、生命保險界に令名ある千代田生命の姉妹會社として生れ、而も最健全なる姉妹會社として、眞に名實相叶ふ發達を遂げました、創業後十四年間に保險金として壹千六百十九萬圓餘を支拂ひ、手許に參百萬圓の積立金を有して居ります。

當會社の營業振りは堅實一點張り、平凡にして何の奇もありません、只萬事に懇切鄭寧たること。損害査定の公正妥當なること。保險金支拂の迅速確實なること。是れが千代田火災の標語であり營業方針の全部であります。

當會社は下記の動產、不動產何れの火災保險をも御引受けいたします。一住宅、店舗、倉庫、事務所、官公舍、學校、病院、社寺等の建物。一諸工場の建物、機械、諸裝置、原料、製品等。一商品、家具、什器、衣類、書籍其他の物品。一建築中の建物及諸材料等。是等御引受けした物件が萬一火災に罹りますれば、當會社はこゝに御約束の保險金を支拂ふのであります、近所からの類燒、他人の放火、御家族雇人杯の粗相から火を出した場合、其他落雷漏電、瓦斯の漏洩等の原因から出火した場合、丸燒けは勿論のこと、いかな小火の小損害でも、更にまた直接消防の爲めに受けたる破損、濡損、汚損等に對しても、夫々損害の程度に應じて保險金を支拂ふのです、支拂保險金額の決定や、拂渡しの手續等は店員が伺ひまして、篤と御相談の上充分御滿足のいくやうに取計らひます。

大阪支店大阪市東區今橋二丁目



常務取締役　三宅新郎氏

社長　辰馬吉左衛門氏

(四六五・六九四話電)　社會式株險保災火上海馬辰

(濱園櫨香)町原葭中市宮西縣庫兵

大正海上火災保險株式會社

大阪支店　大阪市東區北久太郎町二丁目

△當會社は大正七年十月本邦財界の有力者により設立せられたるものにして營業の方針は着實鑿切を旨とし損害發生の場合保險金の支拂は公平且敏速に取計ひ眞に保險業者たる使命を全うせんことを銘記致居候間被保險者にとり最も信賴し得る保險會社として偏に大方各位の御愛顧を希ふ次第に御座候

△海上保險　一、船舶及　一、內外航路の汽船其他の船舶による輸移出入貨物及之に附隨する運賃諸費用、稅金、利益金、等に對し海上一般の危險を擔保す

△運送保險　一、河川港灣內に於ける汽船、帆船、艀舟積、貨物の水上に於ける各種の危險及　一、汽車其他の車馬により運搬せらる、貨物の陸上運送中並に鐵道構內上屋等に於ける火災其他の危險を擔保す

△火災保險　左記の動產不動產に對して火災危險を擔保す

一、住宅、店舖、倉庫、事務所、社寺、學校、其他の建物
一、諸工場、建物及機械器具
一、衣類、家具、什器、商品其他の貨物
一、建築中の建物及其材料

取締役會長　南條金雄
專務取締役　飯沼剛一
取締役　平生釟三郎
取締役　原富太郎
取締役　小田柿捨次郎
取締役　山本悌二郎
取締役　齋藤浩介
監査役　加地利夫
監査役　三上勝

東邦火災保險株式會社

本社　東京

支店所在地

東京支社（東京市麹町區永樂町一丁目一番地本社內）
關東支社（東京市麹町區永樂町一丁目一番地本社內）
札幌支店（札幌市大通西八丁目一番地）
仙臺支店（仙臺市大町二丁目七十番地）
橫濱支社（橫濱市住吉町三丁目四十六番地）
靜岡出張所（靜岡市兩替町六丁目六番地）
名古屋支店（名古屋市西區傳馬町四丁目四、五番地）
京都支店（京都市下京區三條通柳馬場東入仲町九番地）
大阪支店（大阪市東區瓦町二丁目五十五番地）
神戸支店（神戸市元町通五丁目七番屋敷）
九州支店（福岡市渡邊通五丁目六十一番地）
朝鮮支社（京城府永樂町二丁目二番地）

常務取締役　瀨尾時憲
取締役　小原達明
取締役　林千八
取締役　齋藤義太郎
監査役　黑田馨介
顧問　馬越恭平
大阪支店長　荒井仲衞

扶桑海上火災保險株式會社

大阪支店　大阪市東區高麗橋二丁目

取締役會長	平生釟三郎	
專務取締役	三倉　滋	
取締役	小倉正恒	（住友男爵家代表）
取締役	坂野鉄次郎	（藤田男爵家代表）
取締役	島村淺夫	（近海郵船社長）
監査役	增田明六	（澁澤子爵家代表）
監査役	山下龜三郎	

東京營業部	東京市麹町區永樂町一ノ一（郵船ビルヂング）
神戸支店	神戸市榮町通三丁目六
横濱出張所	横濱市辨天通四丁目六四
名古屋出張所	名古屋市中區南大津町一丁目一〇四
京都出張所	京都市下京區烏丸通高辻上ル東側
金澤出張所	金澤市殿町一四
福岡出張所	福岡市天神町三七番地ノ二
京城出張所	京城府黄金町二丁目一九九
大連出張所	大連市山縣通五五
上海出張所	上海九江路第五號（住友銀行ビルヂング）

外に内地樞要の地に駐在員を置く

内外各地代理店　九百六拾箇所

平和海上火災保險株式會社

契約引受の物件

一、建物の保險

店舗、住宅、事務所、倉庫、學校、病院、官公舍、工場、社寺、其他建築中の建物及材料等

二、物品の保險

（イ）諸工場内の機械、器具、材料、製品、半製品等

（ロ）商品、家具、什器、衣類、書籍、其他家財一式

契約の手續

御契約　の時は電話なり葉書たり、其他御便宜の方法で最寄の本社支部代理店等へ御通知下されば直樣係員を伺はせます。

保險金高　は最低五百圓から何程でも御引受致します。

保險料　は御附けになる物により一樣でありませんから實地拜見した上で出來るだけの御便宜を計らひます。

大阪支店
大阪市東區今橋二丁目

當會社の役員

取締役社長	久米良作
常務取締役	磯部英一郎
取締役	若尾鐵之助
同	渡邊六藏
同	馬場崎治
同	八十川定
常任監査役	磯部保次
監査役	中西吉之進
相談役	若尾謹之助

海上—火災—運送

東洋火災保險株式會社

大阪支店　大阪市東區高麗橋一丁目

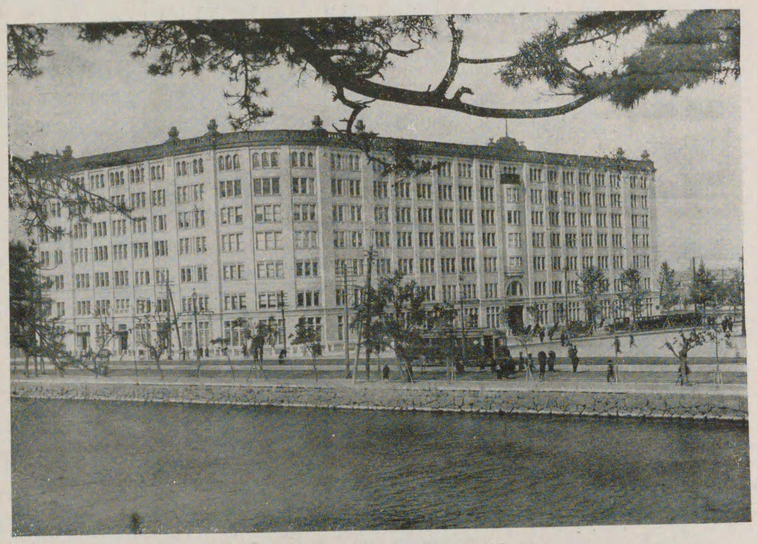
△銀行でも　保險會社でも、御取引なさるのには、その選擇が何より大事です、『東洋火災』は、東京火災の姉妹會社として、安田系の經營にかゝる最も堅實な保險會社であります。

大正九年の創立ではありますが、資本金五百萬圓、諸積立金壹百貳拾五萬餘圓、火災保險の契約高も既に貳億八千餘圓に及んで居りますし。殊に大正十二年の關東大震災に對しては同業者の殆んど全部が政府の援助を受けて、出捐をしましたのに『東洋火災』は他から聊かの援助も受けず出捐金全部を自力で支拂ました。

△保險金　は自火の場合でも、類燒の場合でも、又他人から放火せられた時でも、落雷、漏電、に因りて出火した場合でも、全燒は勿論假令一部分の燒失でも、夫々損害程度に應じて支拂を致します。支拂が不確實であり、不敏速であるなら、保險會社は役に立ち兼ます。

『東洋火災』の支拂確實と敏速は必ず被保險者各位の御滿足を買ひ得ることゝ信じます。

取締役社長　安田善五郎
常務取締役　中島惣次
常務取締役　新井智三郎
取締役　安田善助
取締役男爵　長松篤棐
取締役　小松林藏
取締役　岩崎恒二郎
監査役　加藤久四郎
監査役　熊谷直太
監査役　中村惣三郎
相談役　安田善次郎
相談役　大谷嘉兵衞
相談役　渡邊福三郎
相談役　佐々田懋
相談役　大橋新太郎



明治火災保險株式會社

大阪支店　大阪市東區高麗橋四丁目

△當會社は明治二十四年二月の創立に係り營業方針は着實と堅固とを旨とし幸に皆樣の御眷顧により計運年を逐ふて發展し基礎益鞏固となり今日の盛況を見る事となりました、創立以來今日迄三十五年間の。支拂準備補金總額參千貳百參拾七萬圓、現在契約高拾五億貳千萬圓、資産總額參千壹百萬圓と云ふ狀態でありまして如何なる大火災の場合と雖も決して皆樣の御信賴に背かざることを期して居ります。

△保險料率卽保險料の割合は建物の構造、所在、職業及周圍の狀況等によりて多樣に岐れ一々爰に記載するを得ませぬ、御申込の際個々のものに付き調査の上申上ぐる外ありませぬが出來る丈け低廉を旨とし御便宜に取計ひます

△保險に附したるものが罹災したる場合は爰に保險の効力の顯はるゝと共に會社の信用を實際に證明するときであります、當會社は皆樣の御滿足を得らるゝ樣直ちに調査を遂げ出來る丈け支拂を公平敏速にして平素の御眷顧に酬ゆる覺悟で居ります。

取締役會長　各務鎌吉
取締役　末延道成
取締役　平生釟三郎
取締役　押本重平
取締役　木村林次郎
取締役支配人　高木馨
監査役　堀達
大阪支店長　押本重平

中外海上火災保險株式會社

社長　尼崎伊三郎

大阪市此花區安治川上通一丁目

火災保險の御勸め

火災保險の必要は事新しく申上ぐる迄もありませんが未だ火災保險の御契約をなさらぬ御方も隨分ある樣に思ひます

皆樣が御宅で如何に御注意が行屆きゃしても御近所からの類燒又は放火等の危險が御座いますから是非保險は御契約に成る事を御勸め致します

火災の場合に商品家財等を持出す際もなく僅に身を以て御避難になつた場合に保險會社は直に罹災の損害を塡補致しますから何時火事がありましても誠に安心です殊に御旅行勝の御方は御旅行先にて火災程氣にかゝるものはありませんが火災保險の御契約さえゃれば夫等不安なしに安心して御旅行が出來るのです

當社は工場倉庫及一般住宅店舗其他各種の建物は勿論特に皆樣と密接の關係ある商品衣類家具什器其他の家財の火災保險は保險金の多寡に不拘極めて懇切に御取扱致します

當社の特色　當社は先年の關東地方大震災に際し政府からの助成金を受けて居りませんから他の各保險會社の樣に政府に對し年々多額の償還金を要しない事は當社の他社に比し最も安全堅實なる事を證するものです

當會社　は大型汽船船體及び其積荷に對しては可及的先進諸會社の再保險を引受け主として小型汽船船體及小口汽船積荷の元受及び現今最も必要に迫られつゝある帆和船船體及其積荷に對し特に便宜の取扱を爲す。殊に漁業用發動機船、船體保險は當會社が率先して契約を開始したる所にして料率最も低廉なり

尙當會社は動產及不動產等一般の火災保險及汽車積貨物其他の運送保險をも兼營し手續簡易にして支拂迅速なり

海上——火災——運送

東京動產火災保險會社

火災保險の效能

財產の保護　家屋、商品、家財等貴家の大切の財產を、火災の時完全に保護する方法は火災保險の外ありません。

平素の安心　火災保險があれば萬一の場合の心配が無く其日〳〵を安心して生活の保證と

生活の保證　心丈夫に暮す事が出來ます。

信用の增加　萬一の場合直ちに復興が出來ます、妻子家族一同の生活保證として火災保險は是非必要です。

社會の爲め　火災保險のある人は萬一の場合親類や世間に迷惑を掛けず從つて自分の信用を增し幸福の基となります。

保險は相互扶助の制度ですから自分が燒けない時でも他の不幸の羅災者を救助して社會公共の爲となります。

東京動產保險の特色

保險料は月掛で集金に參上　月拂で直ちに契約が成立致します、御都合でお宅へでもお勤先へでも集金に參ります。

年拂保險料は割引致します　年拂の御契約には特に一ケ月分を割引致します。

無事配當金は半金返戻　月掛と同額をお戻し致します。

保險料の拂込は一週間の猶豫　一ケ年間火災に罹らず無事に過ぎました時は保險料の半額を無事配當金としてお戻し致します。

猶豫の外にまた效力の延長　月掛保險料の拂込には特に皆樣の便宜を計りまして七日間の猶豫期間を設け此間全額の責任を負ひます。

猶豫期間後尙七日間は拂込をお忘れになりましても、特に保險金の半額の責任を負ひます。

家は燒けても保險は燒けぬ
備えあれば憂ひなし

當會社の役員

取締役社長	根岸錬次郎	
專務取締役	反町茂作	
取締役	內山敬三郎	
取締役	鍵富三作	
取締役支配人	伊原全郎	
取締役支配人	佐田新三	
監査役	守屋善兵衞	
監査役	神谷忠雄	

橫濱支部　仙臺支部
札幌支部　京都支部
神戶支部　名古屋支部
金澤支部

本店　**東京日本橋區檜物町**
大阪支店　**大阪市東區今橋東詰**

大東海上火災保險株式會社

大阪市北區絹笠町

本社重役

取締役社長	右近和作
專務取締役	北田彦三郎
取締役	八十島五郎右衞門
取締役	鈴木庫太郎
取締役	奥田穰
取締役	谷川義男
取締役	中原健一
監査役	渡邊孝平
監査役	早瀬完二
監査役	木間瀬策三

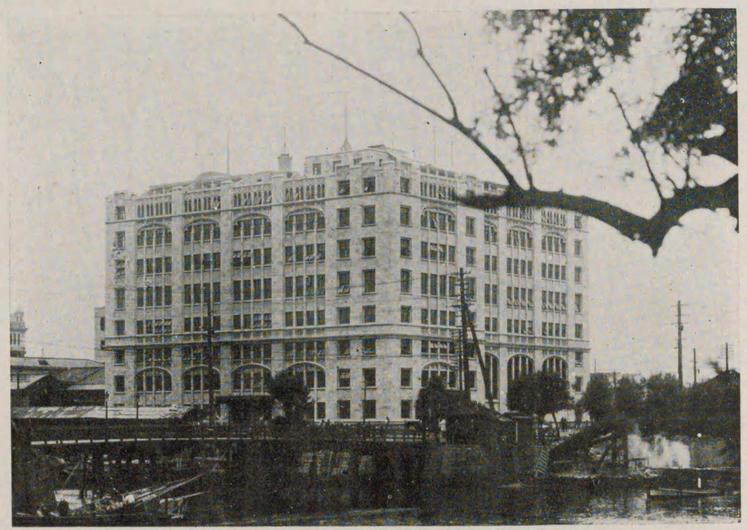
大洋火災保險株式會社大阪支店　(大ビル)

當會社　の資本金は五百萬圓でありまして株主は全國各地の有力者を網羅し會社役員も亦我實業界に於て最勢力あり最信用ある人々でありますす營業方針は堅實主義と契約者本位の二大綱領を經緯とし所謂虛名を避けて實質を尊び名實共に全からんことを期して居ります其基礎の鞏固確實なることは聊當社の自負する所であります

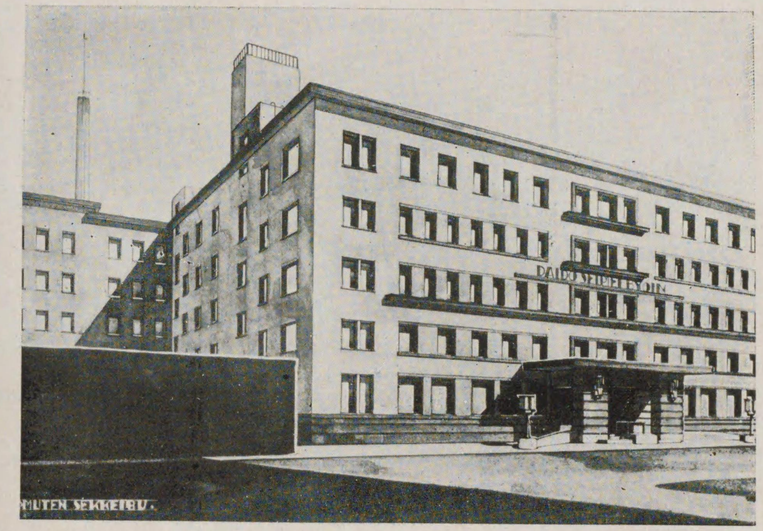
保險申込は　口頭、電話、書面其他御便宜の方法にて當會社本支店、出張所又は最寄の代理店へ御用命下されば直ちに係員參上簡便懇切に御取扱致します

罹災の際は　自火と類燒とを論ぜず又全燒と半燒とを問はず直ちに損害を調査し最迅速誠實に保險金を御支拂致します

取締役社長	永橋至剛
常務取締役	大西竹二郎
取締役	三浦大五郎
取締役	伊臣眞
取締役	千頭茂壽
取締役	若尾鴻太郎
取締役	宇田友四郎
取締役	後藤秀治
取締役	畔道文藝
取締役	寺田省歸
取締役	淺野泰治郎
常任監査役	大島長十郎
監査役	小平三郎
監査役	岡野昇
監査役	青山祿郎



（大阪市土佐堀）　大同生命保險株式會社



（北區曾根崎中一）　大同生命保健會　大同病院

△あなたの良心に滿足を與へ、あなたの不安を除き後顧の憂を去り、人間一生の重荷を背負つて、あなたの老後の愉快と慰安の椅子を提供し尙ほ其上に一大記念塔を建てゝあなたの生命を永久的ならしむるものが生命保險でありますあなたの名譽と地位と、財產を子々孫々に傳ふるため、速かに生命保險に御這入りなさい、大同生命保險株式會社は貴家の萬福を永久に保障致します。

△**吾社の保險料**　の廉い事は世間既に定評があります。一度掛けて濟す場合にしても滿期迄掛け續けるにしても廉いに越した事はありません。兎角配當金を呼び物にする者は豫じめ保險料に加算して拂込ませるから高くなりますが、吾社では一切そんなものを加へない正味の保險料より頂きませんから廉いのです。

△**創業以來廿有五年**　年毎に加はる著しい發展は廿有餘萬の加入者を確實に保護するに充分な基礎が出來た上に將來も引續き配當をするだけの餘裕が出來ました。それで吾社は最小限度百廿圓（滿期千圓ニツキ）を確定配當金として御契約の其の日から御約束して居ます。從つて高額の豫想配當金を掲げるものとは大分趣が違ひます。

△**加入者が**　日に加はるにつれ其の集積される巨額の金は愈々安全有利た投資となり一面の經費の割合は勘くなり利益も段々增加致します此の利益金は其の都度加入者に配當するのが妥當であるとの考へから毎五周年目の大決算期にもさらに配當して居ります。之が卽ち吾社の特別配當で本大決算期（昭和貳年度）には壹百萬圓を配當致す事になりました。

（大阪市土佐堀）　大同生命保險株式會社

社長　廣岡惠三

△**混合組織**　損益ともに加入者が分擔するのが相互組織で投資として經營されるのが株式組織であります。前者に損失負擔の苦痛があり後者に利益配當の遺憾があります。卽ち兩者の長を採つた吾社の混合組織は加入者に利益のみの優先權を認める……卽ち加入者に充分な利益配當額を差引いた後尙剩餘のある場合にのみ株金に對し年八步以下を限度に株主配當をなすもので資本金其のもの、利廻り丈けしか配當しないから資本金は損失のあつた場合に支拂準備にこそなれ加入者の利益を削くものでなく眞の社會奉仕の組織を吾社に採つてゐるのであります。

△**病院の設置**　若しもの時を完全に保護するのが保險會社の使命でありますが進んで加入者並びに一般國民の保健衞生を計る事は大會社として忘れてならない事と存じます。保健の御相談無料診査季節毎に流行病豫防の小册子配布等は從來も實行して參りましたが、更に今回大同生命保健會なるものを組織し、同會の計畫にかゝはる各種施設に基本たるべき病院經營を最先に實行する爲、當市北區曾根崎中一丁目に大同病院を建設致しましたのも全く奉仕の一端に過ぎません。

日本生命ノ特色

日本生命ノ保險料ハ最モ低廉ニシテ而モ五ケ年目毎ニ大決算ヲ行ヒ一口五百圓以上ニシテ滿四年以上繼續ノ保險契約者ニ對シ毎年多額ノ準備金ヲ積立テ之ヲ各契者ニ分配シテ拂込濟契約保險料ニ充テ增加保險證券ヲ交附シ一層契約者ノ利益ヲ確保ス大正拾貳年末ニ行ヒタル第五回決算ニ於テハ保險契約者ニ對シ六百七拾六萬圓ヲ配當シ壹千萬餘圓ノ增加保險證券ヲ交附セリ而シテ同配當準備金トシテ優先ニ積立テタル金額ハ昭和元年末既ニ壹千九拾萬圓ニ達セリ株式會社ニシテ相互組織ノ長所ヲ併有シ契約者ノ利益ヲ本位トスルハ本社ノ最モ特色トスル所ナリ本店、支店、出張所ニハ常ニ數名ノ醫員在勤シ尙全國到ル所ニ醫員巡回スルヲ以テ被保險者ハ何時ニテモ無料診察ヲ受クルノ利便アリ保險契約者ニハ保險約款ニヨリ低利ノ貸附ヲ爲スベシ

東宮殿下御成婚記念事業

事業ノ目的

一國民保健
一結核防遏
一乳兒保護
一兒童敎養

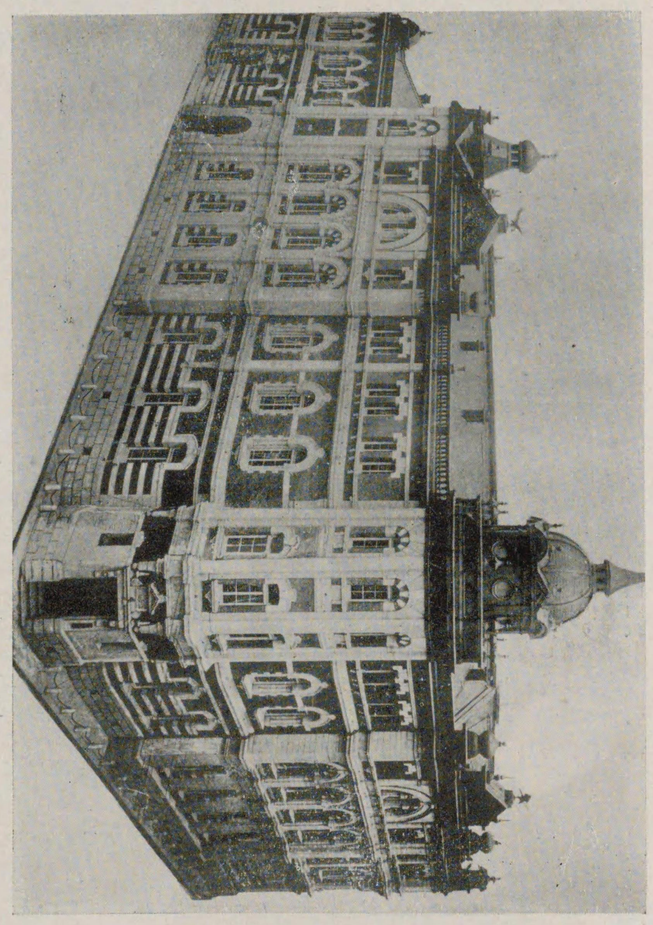
健康增進ノ爲續々御來臨ヲ希フ

財團法人
日本生命濟生會
健康相談所

理事長　手塚太郎
理事監督　醫學博士　楠本長三郎
理事部長　醫學博士　中田篤郎
內科擔任　醫學博士　池口武夫
內科擔任　醫學博士　福島寬四
小兒科擔任　醫學博士　小西巳代次
レントゲン擔任　醫學博士　長橋正道

取締役會長　山口吉郎兵衞
專務取締役　弘世助太郎
取締役　岸田李
取締役　阿部彥太郎
取締役　片岡安
取締役　田中弟稻
取締役　松原並枝
監査役　坂野兼通
監査役　肥塚源次郎
監査役　西村輔三

一總資產　壹億四千六百余萬圓
一諸準備金　壹億四千百九拾余萬圓
一保險契約高　六億余萬圓
一契約件數　五拾九萬余件



日本生命保險株式會社
本店　大阪市東區今橋四丁目

△堅實なる愛國生命保險株式會社　生命保險は二十年三十年先き迄の御契約をなされるのでありますから、營業振の堅實な會社を選ばなければなりません、我が社は營業振の堅實と資産内容の充實とを以て大なる誇とすることは既に定評であり且確信があります。

△新種養老保險　此保險は契約者を本位として仕組まれた日本で一番低廉な保險料で其上に利益の配當もするのですから契約をなさる方に之れほど有利なものはなく一般社會の驚異となつてゐる種類であります。

△保險料遞減　利益金は五年以上繼續の契約者に出來るだけ多くの記當金を分配し保險料と差引きますから低廉な保險料は益々低廉となつて行きます。

△保險金支拂　保險金は保險期間滿了の時か又は中途で被保險者が死亡せられた時速に支佛ふのであります。

△契約年齡　種類によつて多少違ひますが滿十歳から六十歳までの方は御契約が出來ます。

△保險金額　被保險者御一名に付御引受け致します保險金額は千五百圓以上八萬圓迄であります。

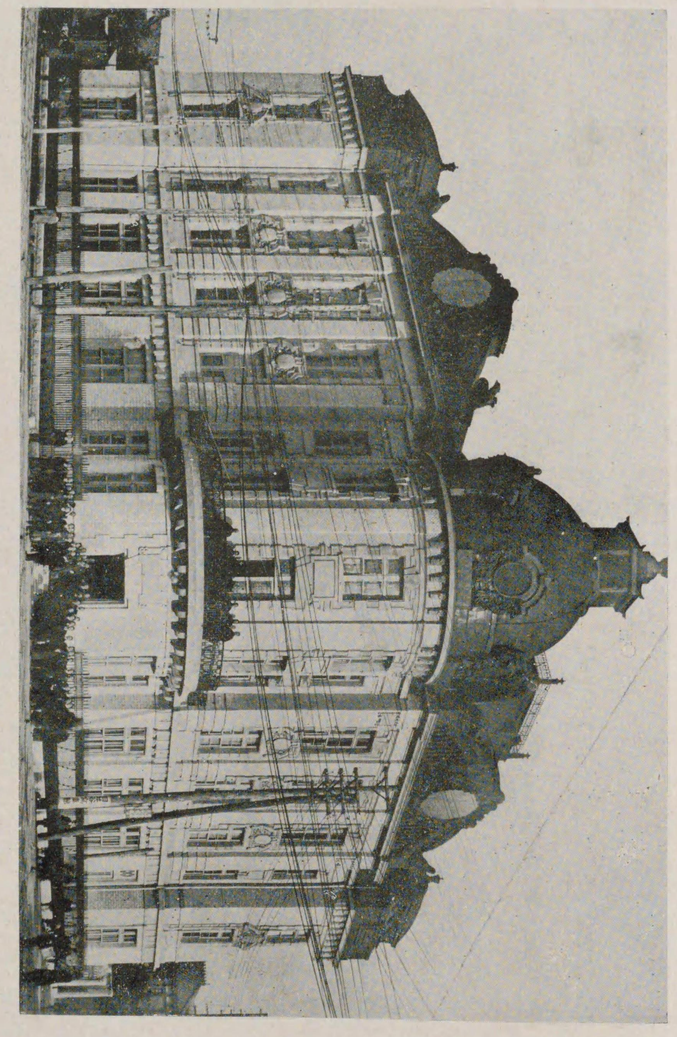
△解約拂戻金　三年以上「十年滿期は二年以上」保險料を御拂込になつた方に對しては解約拂戻金として其契約のために積立てゝある責任準備金を返還致します、其金額は保險證券の裏面に書いてある通りです。

△低利融通　保險契約者には保險證券を擔保として何時にても低利で御融通致しますが、此場合でも保險契約の效力には少しも變りありません。

生命保險の御利用は

家庭の圓滿
老後の慰安
子女の學資
事業の資金
信用の增進
店員の慰藉
遺産の一部
銷却の資金

のために
- 保險料の一番安い
- 堅實第一の愛國生命に
- 親切第一の愛國生命に
- 利益配當の多い



（目丁—橋麗高區東市阪大 — 店支阪大）　社會式株險保命生國愛

△**現代生活の安全瓣**　世の中が進むに伴れ、社會生活は却つて難しくなる傾向があります。この不安な日常生活の上に溫き情味と、多分の潤を與へ、力強い人生の安全瓣となるものは相互扶助を目的とする生命保險を措いて外にはありません。

△**一家繁榮の最良策**　凡そ人の命と此世の富ほど恃み難きものはありません、親として愛兒の行末に幸福を希ひ一家の繁榮を望まれる以上、健在の日に於て、子女の教育、結婚の資金等遺族の保護に「萬全の備へ」を講ぜねばなりません、終身保險は萬一の場合、御家族にまとまつた財産を殘されるのですから、大きな慰安となります。

△**保險料極めて低廉**　元來、終身保險は保險料の低率を以て其特色としますから、相續稅の準備とか、或は財產保管の方法としても最良の保險です、殊に保險料引下げの先驅者として定評ある我社の保險は此點から申しても決して他社に劣らないことを確信して、御加入を御勸め致します。

△**最良堅實なる會社**　我社は岸本家一族が代表經營せる最も確實なる會社で、保險料が極めて安い上に利益金の半以上を加入者に配當し、株主には其の殘りの中から僅かな配當をするに止ると云ふ株式、相互兩組織の各長所を採用した加入者利益本位の最良堅實なる會社であります。

本社

大阪市東區北久寶寺町堺筋角

壽生命保險株式會社

取締役社長　岸本兼太郎
專務取締役　猪飼九兵衞
取締役　田所美治
取締役　岸本五兵衞
取締役　岸本鑑之助
取締役　岸本正清
監査役　兒玉益彥
監査役　貴田治兵衞
支配人アクチユアリー　鴻田秀一
總務兼經理課長　川合喜一
料金課長　東與三郎
業務課長　松田收平
醫務局長　馬場康雄
統計課長　豐田文一郎
會計係長　德田高二
宣傳係長　中村幹治郎
調査係長　塚田昇治
東京支店長　岡田淳司
大阪支店長　福井發太郎

△二重配當附養老保險　配當附養老保險は被保險者が契約年限迄生存せられた時は被保險者に其以前に死亡せられた時は受取人に保險金の全額を支拂ふものであります。

一、**保險期間**　十年滿期　十五年滿期　二十年滿期　二十五年滿期　三十年滿期の五種があります。

一、**契約年齡と金額**　滿十歲以上六十歲迄被保險者一名につき金五萬圓迄契約致します。

一、**利益分配**　會社の利益の大部分は三年以上繼續した契約の契約者に保險料と繼續年數に比例して分配致します。

一、**生存分配**　被保險者が一定の時期に生存せられて居る場合には左の二種の方法によつて生存分配金を支拂ひます。

第一種は滿期の時

第二種は保險料表記載の通り五年目又は十年目毎

一、**振替貸付**　保險料の拂込がなくても解約返戻金のある場合には之を振替へて契約の效力を持續させる便法があります。

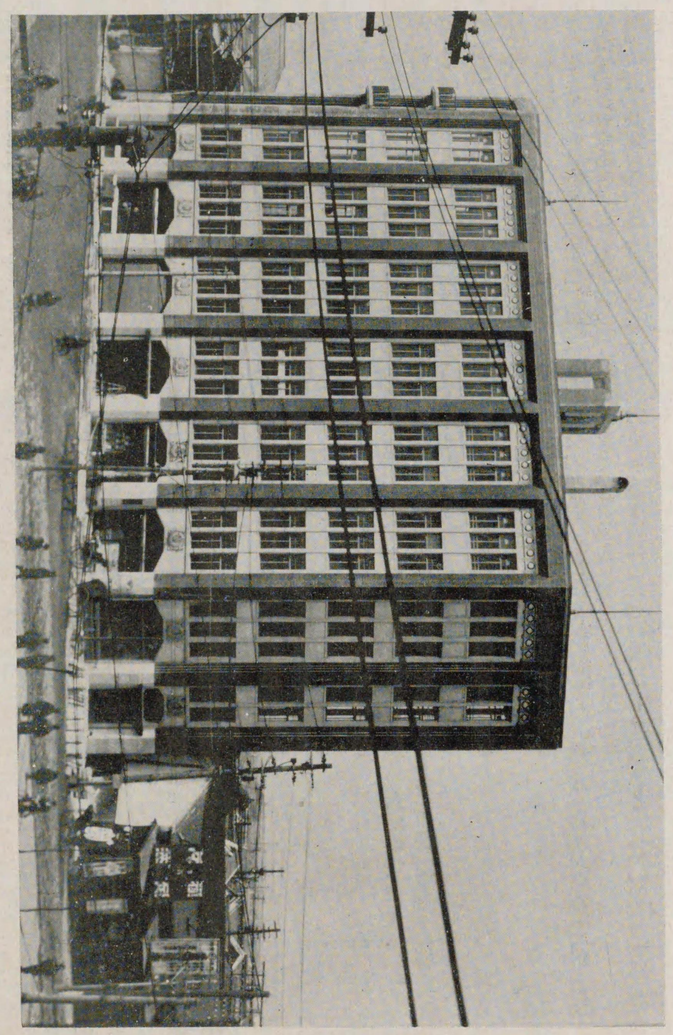
一、**解約返戻金と拂濟證券**　中途解約の場合に一定の期間を經て居れば返戻金を支拂金ひ又契約者の希望によつては將來の保險料を拂込む必要のない拂濟保險證券に致します。

一、**貸　付**　解約返戻金が五十圓以上ある時は保險證券を擔保として簡單に低利に貸付を致します。

一、**保險金支拂**　保險金は最も迅速に支拂ひます。

本會社の創立者

池田龍一	男爵	山口玄洞	
石川德右衞門		故前島密	法學博士
故鳩山和夫	法學博士	故増田義一	
故麥生彭		故増田藏	
故大隈重信	侯爵	故吳藤原忠一郎	
故小野光景		故錦堂	
故大濱忠三郎		故島惟謙	
故渡邊和太郎		故兒玉德則	
上達野富之助	法學博士	淺田爲之	
故金澤種次郎		故安部幸兵衞	
故宅德平		故相馬永胤	
高田早苗	法學博士	故佐竹作太郎	
田中穗積	法學博士	故左右田金作	
故田中唯一郎		齋藤忠太郎	
故土子金四郎		齋藤喜十郎	
坪谷善四郎		三枝守富	
根津嘉一郎	男爵	澁澤榮一	子爵
故中野武營		白井遠平	
故村井吉兵衞		故樋口登久治郎	
故牟田口元學		故茂木保平	
浮田桂造	男爵	森村開作	
久米良作		鈴木寅彥	
故來栖壯兵衞		杉村正太郎	
故山田英太郎			



（點又茨橋濃信）　社支阪大社會式株險保命生清日

△生命保險會社選擇の標準千代田生命の四大特色　生命保險は長い年月掛金するのですから、十分信用のある會社と契約しなければ安心が出來ません、それには大體左の要件を具へた會社を選ぶ事が肝腎です。

一、會社の經營方針が契約者本位なる事　一、會社の財產狀態が確實安全にしてどんな事變が起つてもビクともせぬ事　一、滿期が來ても死亡した時でも契約通りサッサと保險金を支拂ふ事　一、契約者に對し會社の利益金を多く配當し結局保險料の安くなる事　扨て千代田生命保險相互會社は果して此四要件を具へて居りますかどうかは、次の各項を御覽下さればよく解ります。

△相互會社　は株式會社のやうに營利を目的とするものではありません。當會社と保險契約を結ばれた方は總て社員と稱へまして、會社の共有者の一人となるのです。從つて評議委員を選んだり、又評議委員に選ばれたりするの權利を有し、剩餘金（株式會社で云ふ利益金の事です）の分配に與る事が出來るのです。

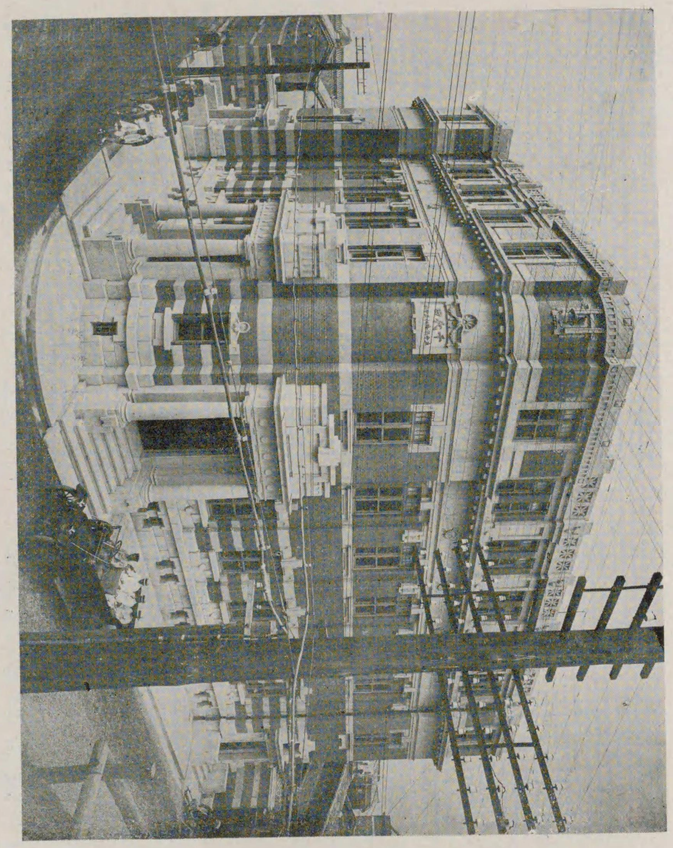
△評議委員　契約者即ち社員の中から百五十名の評議委員を選びまして、是等の委員は重役を選擧し、會社の決算其他大切な事柄を決める仕組で、眞に契約者本位の會社でありますから、少數株主の營利を目的とする會社の如く營業收益稅がからゝないのです。

△基金と資本　相互會社には株式會社のやうに資本金と云ふものがないのです。其代り基金と稱へまして丁度社債のやうな金を集めて會社を設立するのです。當會社は最初三十六萬圓の基金を以て事業を始めましたが、此基金は大正五年度に於て全部償却して仕舞ひましたから、今は基金者もなくなり會社の財產全部は契約者の共有物であります。從つて年々の剩餘金は大部分契約者に配當せられ他に類例なき好成績を擧げて居ります。

△相互會社中の一位　財產狀態の內容は每年度の事業成績及び決算と共に契約者に報告して居ります。創業以來當會社は急がず休まず發展して、現在では我邦相互會社中の第一位であります。

しかも昨年度は收支決算に於て我邦保險界稀有の好成績を擧げ、剩餘金は五百二十四萬餘圓に達し資產も亦之につれて增加しました。そして是等の資產は總て銀行預金、金錢信託、貸付金、有價證券、信託有價證券、不動產等に按配して最も確實なものになつて居りますから、どんな事變に遇ひましてもビクとも致しません。

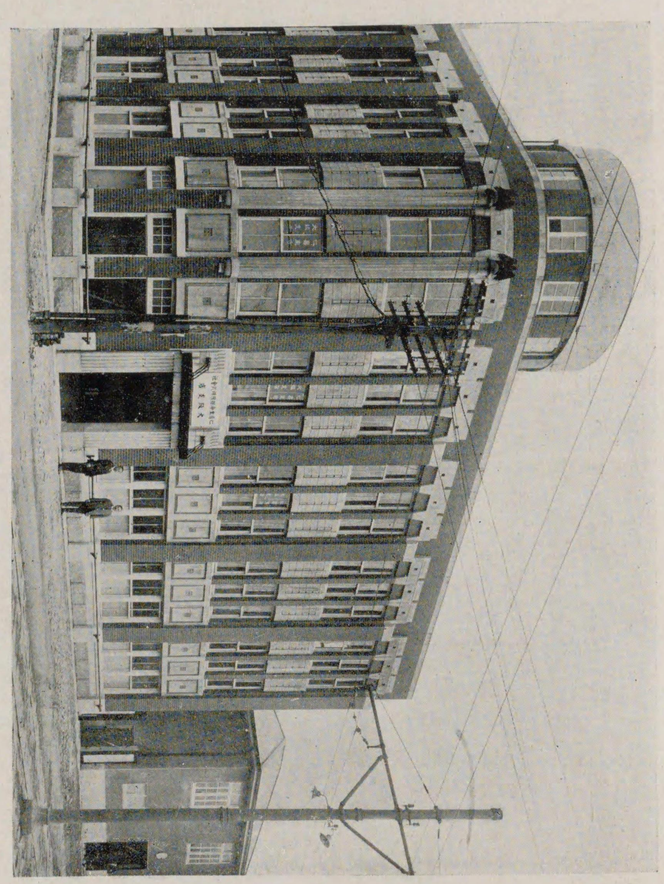
△社員配當金　相互會社では年々の利益金を剩餘金と申します事は前に述べた通りです。詳しく云へば收支決算の殘金を、株式會社では利益金と稱へて大部分を株主に配當しますが、相互會社では剩餘金と稱へて大部分を保險契約者に配當します。之を社員配當金と申しまして、當會社では終身保險、甲種養老保險及び乙種養老保險の三種に分割して處理されるのです。



大阪支部（東區高麗橋三丁目）

千代田生命保險相互會社

現在契約	剩餘金（昨年度）	五百二十四萬圓
新契約	資產（昨年中）	一億五百餘萬圓
現在契約	資產（十二月）	七千八百萬圓
現在契約	資產（十二月）	五億三千萬圓



大阪市西區靱上通二丁目三十二番地

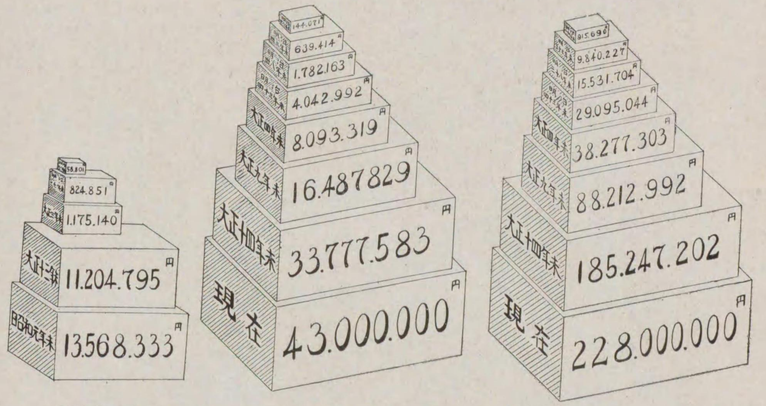
仁壽生命保險株式會社大阪支店

電話土佐堀(三)二五三番 特別室(三)二六三番 大阪五八八番

仁壽生命

大阪府と仁壽生命との關係は次の圖が示す通りに、昭和元年末に於ては、保險契約高壹千三百五十萬圓以上に上り、實に密接な關係があると云はねばなりません。

同社は今から三十三年前、丁度、日清戰爭の初期に、多くの現存同業諸社に率先して、創立せられたことは、我國生命保險發達史上、明らかな事實であります。その中心は元支部次官、辻新次男爵でありました。



頗來、社會の變遷は、幾多の同業諸社に陶汰を加へたのでありますが、同社は益々其基礎を鞏固にし、日清、日露、近くは歐洲大戰、大正七年の全國的流行性感冒、大正十二年の關東大震災、其他數次の地方的大震災等種々の社會的自然的大事變それに織り込まれた幾度かの經濟恐慌に遭遇して、克くその共存共榮、相互扶助の生命保險本來の職能を發揮して、その社會的奉仕に遺憾なかつたのであります。

又常に契約者諸氏の福利に專念し、多年の經驗上、契約者に最も有利とせられる利益配當附養老保險のみを營業して、其利益の八割を毎年、契約者に配當するなど、斯の如き貢獻の結果は、現在保險契約二十有餘萬件を抱擁し、契約金高は實に二億二千六百萬圓、資産總額四千萬圓、收入保險料一ケ年一千萬圓を突破する有樣であります。又支店は當大阪市を初めとして全國十七の首要都市に設置せられ、本社の方針を體して、保險思想の普及、宣傳に努力して居るのであります。試みに同社創立以來の業績を五年毎に圖示しますと上圖の如くであります。

本　店　東京市麹町區内幸町

大阪支店　大阪市西區靱上通り一丁目

共濟生命保險株式會社

本　店　東京市日本橋區鎧河岸
大阪支店　大阪市西區江戸堀上通一丁目

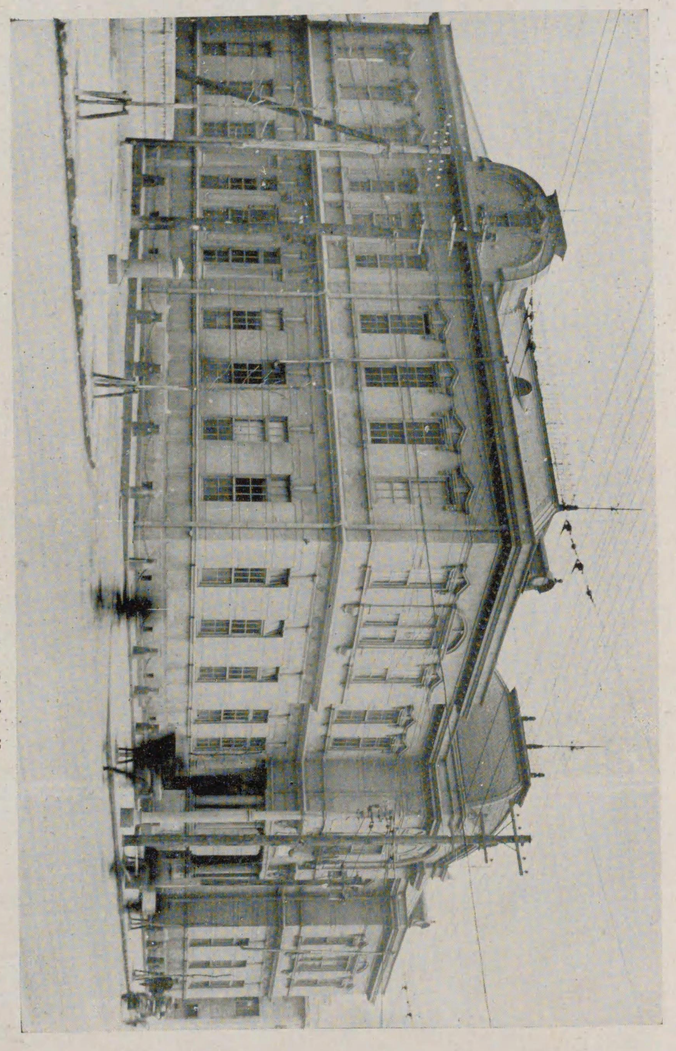
〔沿　革〕　同社は安田家の直營に係り其創業は遠く明治拾參年壹月にして實に本邦保險業の開祖である。當初は共濟五百名社と稱したる相互險保團體であつたが明治貳拾七年四月之を會社組織に改め汎く世の需要に應ずる事となり現に當支店（明治貳拾八年四月開設）の外全國樞要の地に十二支店三出張所を擁し創業以來光輝霜々爰に五十星霜を迎へんとして居る。

一般の定評に依れば同社の特記すべき

〔特　色　の　一〕　は加入者本位の非營利主義にして如何に利益金が多く共株主配當は年六分（拂込資本金七萬五千圓に對して）以内に限定し通常準備金は利益金の百分の十五以内とし殘額は全部契約者に分配せられて居る。然して利益金は年々遞增の趨勢を辿りつゝあるが故に契約者に對する分配金も逐年累增の結果を見せつゝあり現に昭和元年度末に於ては總利益金の九割貳分六厘を契約者に配當して居る次第である。

〔特　色　の　二〕　は堅實主義にして同社の總契約高に對する積立金の比率を他の夫と比較するに同社の如く其割合多き會社は他に類例を見ない次第である。更に其資產狀態を精査するに内容充實・投資方面の確實なる點は斯業稀に見るの事實にして寔に堅實其ものゝ觀がある。然して近時同社の底力ある積極的發展の大勢に徵するなれば此二大特色は益々其本領を強調發揮し得る事推察に難くない次第である。

社　長　安田善五郎
常務取締役　柳谷巳之吉
常務取締役　佐々木秀司
取締役　安田善四郎
取締役　甲能順
監査役　安田善兵衞
顧　問　安田善次郎



株式會社共濟生命保險會社　大阪支店

福壽生命の特長

△契約者の優先權　株式と相互兩組織の長所を併有し契約者の利益分配は株主より優先權があります

△利益分配の實蹟　契約者に對する利益分配金は會社創業の時から五年目毎に毎年積立てゝある利益金を分配して保險金額を增加して居ります既往の實蹟は年額保險料に對して左の割合に毎回累進して居ります

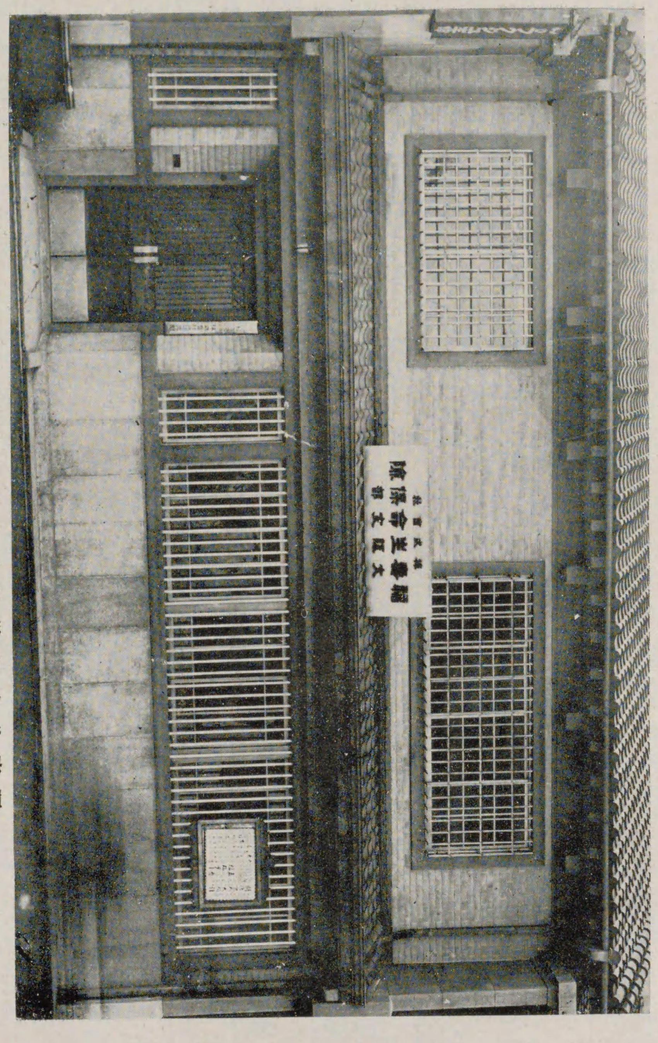
第壹回（大正元年末）は滿五ケ年經過分壹割五分、第二回（大正六年末）は滿五ケ年經過分壹割七分五厘、滿拾ケ年經過分、三割五分第三回（大正十一年末）は滿五ケ年經過分貳割參分五厘、滿十ケ年經過分四割七分、滿十五ケ年經過分七割五分

△嶄新の種類　永壽保險です此の保險は年々保險料を低下し尙且つ利益配當を致します契約者に於ては二重の配當を受くる一新機軸の極めて有利な種類であります

△自動的契約の延長　大體に於て三ケ年以上の繼續者に對しては拂込期日後二ケ月間の猶豫期限を經過しましても其契約は有効に取扱致しますそれゆゑに其間御不幸がありましても保險金を支拂ひ致しますそれらか拾年滿期養老にありましては六回最も長期の三十年滿期養老にありましても十八回御拂込になれは爾後御拂込にならずとも契約の効力を自動的に延長して保險金の支拂を致します

△其他の長所　保險料が低廉であり保險證券擔保の融通は低利で御需めに應じます旅行や職業に對しては無條件であります殊に吾社の信條は最大會社たらんよりも最善良の會社たらん事の方針にて資產運用の堅實と保險金支拂の迅速確實とは常に好評を受けて居るのであります

社長	富田重助
專務取締役	近藤德治郎
取締役	伊藤次郎左衞門
同	岡谷惣助
同	渡邊喜兵衞
同	糟谷縫右衞門
同	神野金之助
同	瀧定助
監査役	春日井丈右衞門
同	伊藤由太郎
同	鈴木摠兵衞
相談役 子爵	瀧脇宏光
相談役	藤田四郎
同	安樂兼道
支配人	寺木喜三次



（目丁二町後備區東）　部支阪大社會式株險保命生壽福

（目丁二町津大南區中市屋古名　社本）

横濱生命保險株式會社大阪支店
（西區江戸堀北通一丁目）

我社の保險は、生存分配金附養老保險、毎年配當附養老保險、普通養老保險、有限掛金終身保險の四種共、利益配當金の多い事と保險料の安い事が、我社保險第一の誇りであります

生存分配金附養老保險は、株式、相互兩組織を組み合せた我社の特色でありまして、會社の利益の有無にかゝはらず別表の生存分配金を、利益配當金と共に二重に分配する、老後のお樂しみには一番いゝ御有利な保險であります

毎年配當附養老保險は、契約初年度から利益配當のある、他に類のない我社自慢の種類でありまして、年々利益配當の增加する、保險と貯蓄の兩特色を兼備した、我社の社會奉仕の現れであります

普通養老保險の保險料が、大變お安くしてある事は、別表の我社保險料を、他の會社のそれとお比べ下されば、直ぐお解りになる事と思ひます、此保險にも利益配當金がつきます

有限掛金終身保險は、一定の年數（十年、十五年……など）だけ、保險料をお拂込みになれば、あとはもう其必要はありません、此保險にも利益配當金がつくのは勿論であります

保險の道は幸福に通ず——保險料は幸福の代價なり

保險金卽時持參拂——橫濱生命保險株式會社

△保險の必要な事は　申上げる迄もありません　若いうちに保險にはいつて置けば　僅かな保險料を段々拂込んで居るうちに　老後を樂しむお金の準備と　萬一の場合には家族へ殘される財産が　知らぬ間に出來て居るのですから　不安や苦勞ばかりが殖えて行く私達の心に　どれ程大きな　安心と慰めを與へて呉れるか知れません

△自分の力で貯金する方が　一見保險よりお德なようにも思はれませうが　皆さんもよく御承知の通り　それはなか〳〵むづかしい事でもあり　いつ迄も今の通り達者で働いて貯金する事が出來るかどうかとお考へになる時　そこには　不安の大きな暗い影が現はれませう

△夫の身に萬一の事があつても　子供の教育や自分の生活に差支への起らぬやう、夫を勸めて保險に入れるのは妻の第一の務めではないでせうか

△信用が生命である商人の方々には　生命保險にはいつて對人信用を確實にする事が成功と失敗の別れ目になります

△使用人を保險に入れて　考後の生活と家族の安全を保證してやれば　自然と能率も增進し　容易に　勞資協調の實が擧げられませう　相續稅の用意として　生命保險にはいつて置くのも文化的な考へです　何萬圓の保險でも　保險金に相續稅はかゝりません

△これ程有利で必要な生命保險が　英米程盛んに我國で行はれなかつたのは　昔からのしきたりに影響されやすい我國民性に原因した事と思はれますが　十數年來の急激な發達から考へると　英米の現狀を日本に見るのも　近い將來の事と思はれます

△新しい時代には　新しい必要なものが生れます　それが何であるかを見定めて　躊躇なくそれを利用するのが　賢い方法ではないでせうか

『保險にはいるのは死ぬ支度をするようなものだから……』

『保險なんて緣喜でもない……』何んというよりどころの無い愚かしいお言葉でせう　保險にはいつて行先きの心配が無くなつていつも春のようなのどかな心持で日を送る事はこれこそ一家圓滿、健康長壽、國家富强の道ではありませんか

△ほんとうの樂しい生活、文化的な生活は、生命保險の土臺の上にこそ　始めて立てられる事が出來るのであります

日本醫師共濟保險相互會社

（大阪支部大阪市西區西長堀北通二丁目）

自愛と他愛とを融和せる制度！

お互の安心 ——健康の表現、信用の保障とも、老後の慰安萬一の用意ともなる

お互の幸福 ——子女の教育、結婚の費用とも、事業の資金慈善の淨財ともなる

お互の貯金 ——安全確實、便益有利なる貯金法で相續稅所得稅免除の特典もある

名實共に契約者の相互會社！

社長子爵　寶吉安純

專務取締役　八木逸郎

取締役　金杉英五郎

取締役支配人　岡田久男

監査役　笹川三男三

監査役　林曄

相談役　男爵　北里柴三郎

△**理想的組織**　全國醫師會の後援に依つて生れた相互會社で保險契約をされた方は總て我社の社員でありまして重役の選擧會社の財政其他の重要事項は悉くその社員の中から互選した社員總代會で決議する仕組になつて居ります、即ち名實共に契約者本位で政府からも收益稅免除の特典を與へられて居ります、而かも社員の義務としてはただ約束の保險料を御拂込みになる丈であります。

△**基礎の確實**　基金五拾萬圓で全額拂込濟ですから宛も四分の一の拂込で營業する貳百萬圓の會社と匹敵する譯であります、尙ほ保險業法に依り政府へ供託金がしてありますから保險契約に利害關係を有せらるゝ方には何よりの保證力であります、每年度の事業成績及び決算報告は社報へ記載して社員各位へ報告致して居りますが現在資産は不動產、有價證券、貸附金、銀行預金等に適當に按配されて最も確實なるものとなつて居ります。

△**契約者の利益**　我國に生命保險會社の數が現在四十有餘ありますが大抵は代理店を置いて保險料の徵收及募集機關として保險料の約一割に相當する費用を費して居ります、然るに我社は代理店を全然置きませぬから之れに關する營業費を要しませぬ、從つて商工省で認可する最低限度の保險料の御拂込を受けた丈で多額の配當を社員即ち契約者の方へいたして居ります。

△**契約者の利便**　保險金の支拂　契約者即ち社員の方が直接會社へ保險料を御拂込みになる仕組で、保險料金の取扱仲介者に依る爲めに繼續期間の事なので兎角起り易いごた〳〵が起りませんから保險金の支拂も他に類のない迅速なる取扱を致して居ります。契約持續の便法　保險料延滯の爲め失效となつた時滿一ケ年以內ならば簡易な方法で復活します、又た保險料拂込上中途で御都合によりましては御請求下されば解約返還金を以て振替拂込の方法により保險契約を有效に存續する便宜をも計ります。拂濟保險　加入者の方が將來保險料を拂込まず然かも既に拂込まれた保險料を損せずして保險契約を有效に存續する便法もあります。貸附金　契約者即ち社員の方には保險契約の効力には少しも關係せずに保險證券を擔保として解約返還金で低利の貸附を致します。

△**保險の種類**　終身と養老と二種類ありまして、滿九歲六ケ月以上滿六十歲六ケ月以下の方はどなたでも御加入を歡迎致します、養老保險は十年滿期、十五年滿期、二十年滿期　二十五年滿期の四ツに分れ、契約滿期の際又は其以前に死亡された時どちらでも保險金の支拂を致します、終身保險は一時拂込、五年拂込の外五種でいづれも非常に保險料が低廉であります。

日本教育生命保險株式會社

大阪支社（東區高麗橋通三丁目）

本社は畏くも小松宮殿下より奬勵の御令旨を賜りたる光榮ある會社なり

本社は明治二十九年の創立にして我國に於ける生存保險會社の嚆矢なり

本社の保險は身體檢査を要せず出生の時より十四歳迄契約を爲す保險なり

當會社の特長

一、此保險は無診査ですから手續は最も簡便であります

二、此保險は男の子でも女の子でも出生から十四歳迄加入することが出來ます

三、此保險は十六歳、十八歳、二十一歳、二十三歳、受取の四種でありまして子女の教育、結婚の資金として最も良い保險であります

四、保險料拂込方には一時拂と五年拂と滿期拂との三種がありまして保險料は至つて低廉であります

五、保險金の支拂は最も簡便で且つ迅速であります

六、被保險者が滿期の年齢に達しないで死亡せられた時は拂込まれた保險料全部を御戻し致します

七、會社は契約者の御便宜の爲に保險證券を擔保として低利にて貸付を致します

取締役社長　伯爵　柳原義光

專務取締役　金光庸夫

取締役　奥平昌國

監査役　鈴木岩治郎

同社大阪支社全景（東區高麗橋通三丁目）

東京市麹町區有樂町二丁目

大正生命保險株式會社

取締役社長　伯爵　柳原義光

專務取締役　金光庸夫

組織斬新　當會社は株式組織と相互組織の各長所を採用せる最も進歩したる混合組織であります相互會社に在りては不幸損失の場合は加入者其の損失を負擔する事となり利益ある場合にても基金の利子を支拂ひ且元金償却の爲め積立金を爲し尙剩餘金ある場合にのみ加入者に配當しますが當會社は加入者に損失を負擔せしむる等の事絶對に之なきのみならず利益金の大部分は株主配當に先ち之を保險契約者に現金にて配當致します其他苟も契約者に利益なる點は細大となく之を採用し生命保險界に於て一新機軸を出して居ります

基礎確實　當會社は拂込資本金の大部分を政府に供託してあります其上保險料積立金は主として確實なる公債證券等を買入れ日本銀行に保管を託しますから確實なること此上はありませぬ

大阪毎日新聞社

組織

我大阪毎日新聞社の事業上の組織は編輯局、營業局、印刷局の三大係から成立ちその編輯局は更に整理、內國通信、外國通信、聯絡、社會、經濟、學藝、校正、運動の各部及び二三の課に分課されこたが主幹及總務によつて統一されてゐる各部課には夫々部課長及副部長がある。

營業局は販賣、廣告、會計、庶務の各部に區分され營業局長の下に各部課長及び助彼が配置されてゐる。

印刷局は活字場、鉛版場、印刷場及び寫眞場に分れ印刷局長統率の下に次長主務並に各場長があり又技術の指導者としては技師長がある支店東京日日新聞社の組織も大同小異であるそして此本支店事業經營の衝に立ち万般の社務を統裁してゐるのは社長であるが其下は東京には副社長があり又常務取締役は社長を輔佐して東西に分在して日常の社務を處理して居るのである。

沿革

我大阪毎日新聞は最初大阪日報と稱し明治九年に創立され同十四年に立憲政黨新聞と改稱してから號數を起算し更に廿一年に大阪毎日新聞と改題したのである。

その發展の端緒は明治廿二年故渡邊治水氏が本山彥一、高木喜一郎諸氏と謀つて大阪屈指の實業家數十氏を出資者として合資組織に改めた以來の事である、其後台水氏逝き高木氏之に代り明治三十年原敬氏を社長に迎へて一段と信望聲價を高めたが、三十三年原氏去つて小松原英太郎氏之を繼ぎ三十六年現社長本山彥一氏が就職してから時勢の進運につれ各方面に改善と刷新が行はれて一層目覺しき發展を見るに至つた大正八年組織を株式會社に改め資本金は漸次增加して目下は實に五百万圓を數へてゐる、新聞の頁數も古き以前は微々たる四頁に過ぎなかつたが次第に擴大し大正四年十月からは夕刊を發行して十二頁とし更に十四年四月から二頁を增加して現在の十四頁となり世界有數の國際的大新聞として雄飛することになつたのである。

一方本社では東京に明治三十九年をもつて毎日電報を起し、次で同四十四年に舊日報社を併合して現今の「東京日日新聞」を發行するに至つた、茲に數字から見た大阪毎日、東京日日新聞の發展、卽ち過去十ケ年間の發行部數の增加を示すと左の如きものである。

	大阪毎日 發行部數	東京日日 發行部數
大正七年元旦	五四一、〇〇〇	三六〇、〇〇〇
同八年同	五六三、〇〇〇	三九五、〇〇〇
同九年同	六〇二、〇〇〇	四六八、〇〇〇
同十年同	六六六、〇〇〇	五七六、〇〇〇
同十一年同	八四四、〇〇〇	七六六、〇〇〇
同十二年同	九〇七、〇〇〇	八三五、〇〇〇
同十三年同	一、一一一、〇〇〇	九九九、〇〇〇
同十四年同	一、二二二、〇〇〇	一、一三二、〇〇〇
同十五年同	一、三三、〇〇〇	大一、〇〇〇
昭和二年同	一、四四、〇〇〇	八三五、〇〇〇

營業

印刷を終れば新聞は出來上つた譯である、此新聞は直に遞送課の手に渡り、茲に百數十万部の夕刊朝刊が一版から八版に亘り地方版廿數種と共に一定の時刻に每日地方別、方面別に汽車や電車や汽船に積込むため自働車數十臺に載せられて發送される、夜行の上下列車の發車每に大阪各驛のプラツトホームに數千個の荷包が山と積まれてあるのが卽ち夫れである。

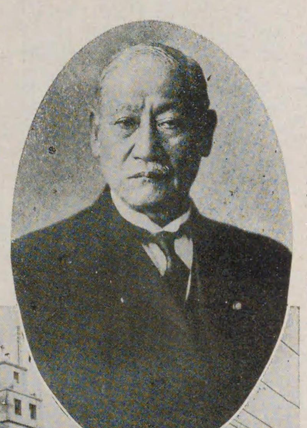
斯くして新聞は滿洲、朝鮮、臺灣其他各地到る處の本社新聞販賣店に分送され又一部分は郵便送りとして搬出される新聞販賣店の數は三千數百に達し東京支店の分を併せると五千五百內外に及ぶ、營業局は左の部課から成り立つて居る。

營業局
- 販賣部
  - 出版課
  - 計算課
  - 遞送課
- 廣告部——計算課
- 會計部——用度課
- 庶務部
  - 秘書課
  - 人事課
  - 庶務課

重役直屬
- 事業課

主腦經營者

社長	本山彥一氏
副社長	矢野文雄氏
常務取締役 大阪毎日編輯主幹	高石眞五郎氏
常務取締役 東日編輯主幹	城戸元亮氏
常務取締役 大阪毎日編輯總務 兼印刷局長	奥村信太郎氏
常務取締役 東日印刷局長	松內則信氏
常務取締役 東日營業局長	吉武鶴次郎氏
常務取締役 大阪毎日營業局長	櫻田松太郎氏



社長 本山彥一氏

大阪毎日新聞社

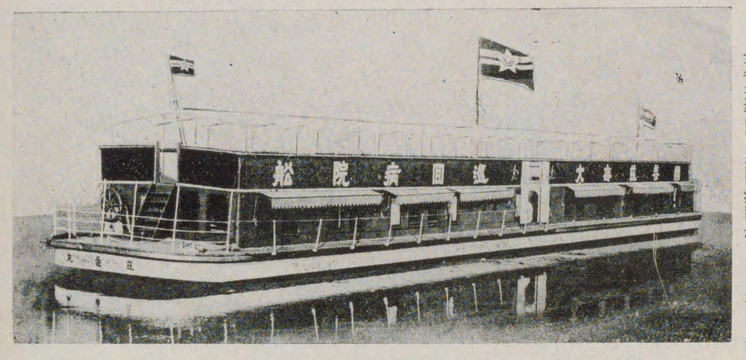
從業員 大阪毎日 千六百人
同 東京日日 二千六百五十三人
（直營配達人を含む）
合計 四千二百五十三人
（昭和二年元旦調）

當社は西には大阪毎日新聞、東には東京日日新聞を發行し東西相呼應して使命の遂行に努め斯界に壓倒的勢力と信用とを有して居る次第であるが更に別業として種々の刊行物を發行し我國、文化の進展に貢獻してゐる。

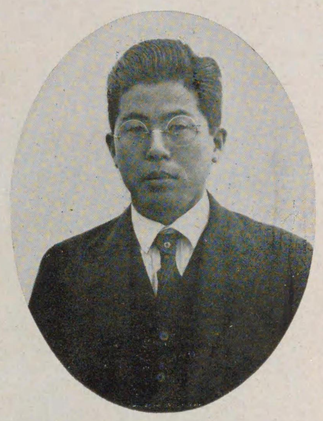
英文大阪毎日　當社新築記念の一として大正十一年四月に創刊した、我國には數種の外字新聞があるが日本人のみの手に依つて發行されてゐるのは我が「英文毎日」だけである、その通信機關の完備せる點だけでも他に比儔を見ないが更に外に向つては汎く國際的立場に立つて公正な批判を試み我國及び我國民の輿論や眞情を卒直に發表して國民外交の一權威を以て任じ、內には世界的問題や內外重要事件の眞相を英文の特長を利用して我一般國民や在留外人に紹介し報道するの機關たらしめる高き理想の下に生れたもので爾來健全な發展を遂げ其の發行高の如き我國外字新聞中に冠絶してゐる。

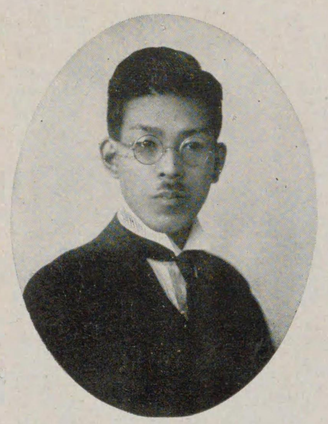
點字大阪毎日　これは日の光りや月の鄰きも知らず四季おり〳〵の野山の風情をも見ることを得ない憫むべき幾十万の同胞を冷めたい暗い境地から移して光明世界に導かうとする人類愛の尊い理想のもとに我國に於ける最初の試みとして計畫された泰仕的事業でこれも新築記念の一つである、その創刊の大正十一年五月から毎木曜日に週刊として發行を續け爾來今日に及んでゐる勿論事業の性質上物質的の犧牲は免れない處であるが幸に健全の發達を遂げつゝあるばかりでなく有識者から多大の推奨讃辭を受くるに至つたのは眞に望外の光榮とする處而してこの種事業の類例は之は世界に求めて單り倫敦デイリーメール社を見出すのみであるがその他のものを併せ數へても僅に十指を屈するにも足らない特志の事業である尙我社は點字國定教科書の刊行點字講習會、盲人慰安會等を開催して盲人の啓發に盡瘁し何れも深き感激を以て迎へられてゐる。

當社慈善團の事業は施療、巡回病院、薄倖者救恤社會事業援助、罹災者救護等であるが就中巡回病院は細民部落を移動して內外、眼三科の施藥診療を行ひ重症患者には診療自働車によつて往診もする、更に水運の便宜を利用してモーター裝置の病院船を派出し水陸兩方面から施療に當り時には遠く朝鮮、滿洲にも出動した、かの關東大震火災、但馬の震災、朝鮮の水害等天災地變の突發するに際しては時を移さず出動するを例としてゐるがその迅速さは何人をも喫驚せしめる、これは多年の經驗と平素から十二分の準備と訓練とが行屆いてゐるためである。



大毎慈善團　巡回病院船　慈善丸


橋本忠治氏


仙元修一氏

大都市としての大阪が、無限の創造的胚子を藏して恒に新たなる發展の過程を示現しつゝあるその當然の要請としての「大大阪書報」の發行は、蓋し既定の意義と、名稱を有つ出現と云はねばならぬ。而かもこの有意義で名稱ある出版が畏友森岡市藏氏の手に成されたと云ふことは、私の衷心欣快とするところ、茲に一言快哉を呼ぶ所以である。

昭和三年五月十日

橋本忠治

畏友森岡市藏君に依り今回大大阪書報刊行の擧あり、卽ち昭和初期に於ける大大阪の現勢を廣く天下に紹介して以て市の經濟的發展に資せしめんとするにある、君は稀に見る奮鬪の人、實に斯かる困難なる出版的事業を完成なし得たるに見るも、如何に不撓不屈の士なるかを知るに足る、寔に君にして本書の發刊せらるゝは我大阪市が將來に於ける發展の爲偉大なる貢獻と言ふべく、徹底せる君の愛市的實行に對し深甚なる敬意を表し併而發刊を祝するの辭となす。

昭和三年五月十五日

仙元修一

朝日新聞と

其事業

五十年の尊い歴史

歴史は一日にして成るものではない。明治十二年一月廿五日大阪朝日新聞が西區江戸堀南通一丁目の古い格子づくりの家の中に生聲をあげてから同十八年現在の地中之島三丁目に移り五十年の今日、日本の新聞界において最大の社屋、最大の機關、最大の發行部數を有し、歐米の新聞紙に比しても毫も遜色を見せぬやうになつたのも、一に尊い歴史的生長であつて、社長初め全社員が

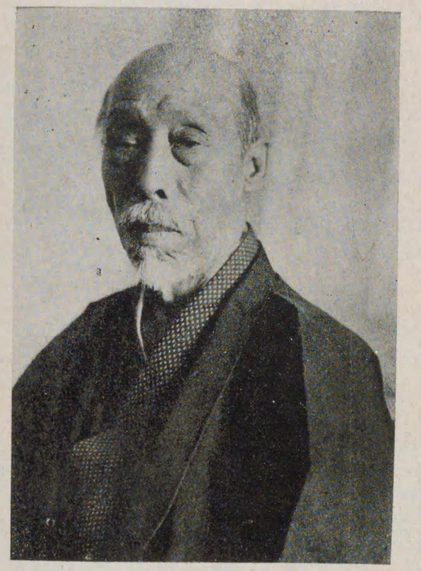
一上下一心ノ大誓ヲ遵奉シテ立憲政治ノ完美ヲ裨益シ、以テ天壤無窮ノ皇基ヲ護リ國家の安泰ト國民ノ幸福ヲ圖ル事

一國民ノ思想ヲ善導シテ文化ノ日新國運ノ隆昌ニ資シ、以テ世界ノ進運ト並馳スルヲ翼フ事

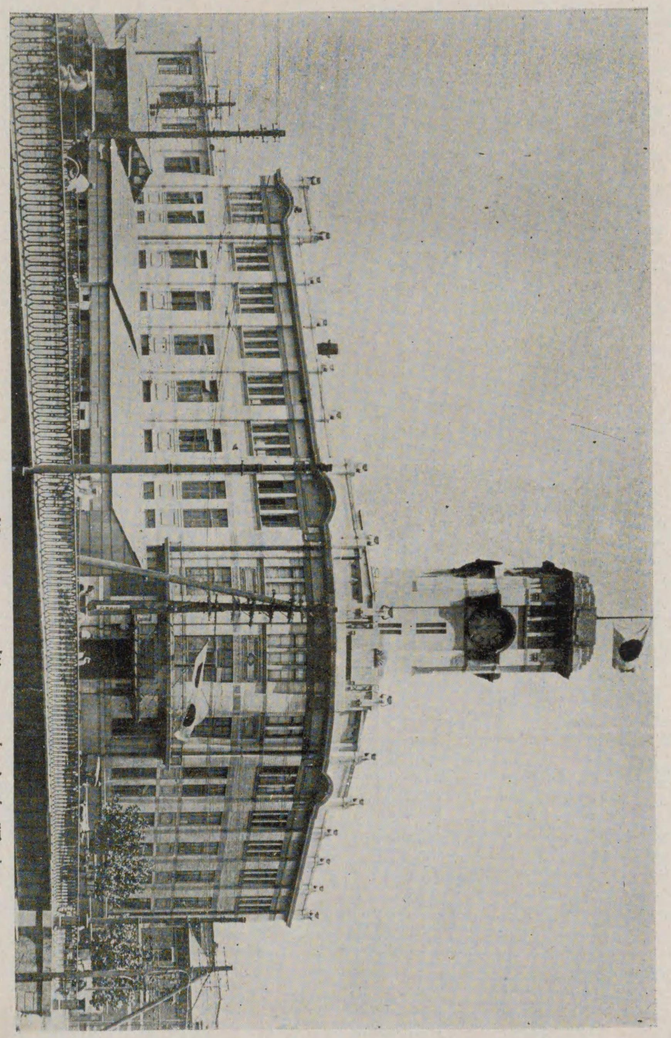
一不偏不黨ノ地ニ立チテ公平無私ノ心ヲ妥シ、正義人道ニ本キテ以テ評論ノ穩健妥當ト報道ノ確實敏速トヲ期スル事

一紙面ノ記事ハ淸新ヲ要スルト共ニ新聞ノ社會ニ及ス影響ヲ考慮シ、宣シク忠厚ノ風ヲ存スヘキ事

といふ本社の編輯綱領にある如く、始終一貫かはることなく、新聞紙のもつ使命を尊重し、孜々としてこれが編輯經營にあたるとゝもに日に月に激增する讀者の深い親しみと、愛着と、信頼とを得つゝあるがためである。



朝日新聞社長
村山龍平氏



社聞新日朝　島之中阪大

朝日會館

建築の趣旨

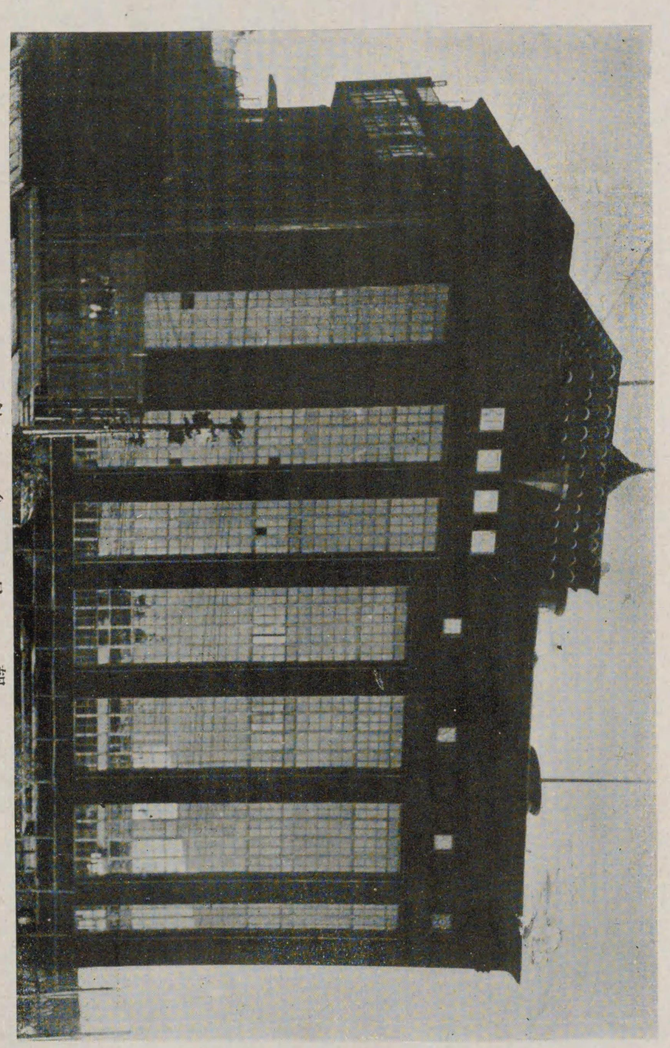
大正十四年大阪朝日新聞新年紙上に我が社は朝日會館新築を發表しました。その趣旨は我が大阪市に於て文化設備中最も緊切なる要求の一が、完全にして愉快なる集會場と、採光の理想的な常設展覽場であり、財力において日本一の大大阪市でありながらこの種の施設は僅に市の中央公會堂あるのみでこの點に大阪市民は年來非常な不自由不滿足を感じてゐたので、此の不自由を滿たしその需めに應じ、新聞本來の使命たる社會教化事業の進歩をはからんとするにありました。新築を發表して以來一年十ケ月、十五年十月九日を以ていよ〳〵竣成開館式を擧行し得るに至りしことは、我が社の深く欣幸とする所であります。

會館設計の苦心

我が社の舊講堂は大正五年本館新築以來今日まで殆んど虛日なく種々の方面に利用せられ社會に貢獻して參りましたが、時勢の進歩とともにだん〳〵狹隘を告げ來り、集會場としてもまた展覽場としても甚だもの足らぬ憾みありさればとて不便な場所に建築しても大して利用にならず、何とかして便利な好位置を占めてゐる本社構内に新築して、これ等の要求を滿たしたい希望をもつて、設計を試みました。恰も堂島川に面した本社の發送場が年々社業の發展と共に狹隘を告げて來ましたので、これを擴張すると共にその上に許す限りの廣さをもつて、展覽場と集會場を建築することを工夫し、苦心の結果出來上つたのが即ち朝日會館であります。本設計については地階は大きなトラツクの出入自在なるべき發送場ですからもちろん開放的でなければならず、更に其階上には發送事務室及び本社の特殊印刷たるグラヴユア製板場の擴張の必要あり、第三階の展覽場としては十分の採光を得んが爲めに出來る限り大きな窓を附けねばならず最後に百呎の高きに二千人を容るべき大ホールを造らねばならぬ、しかも耐震耐火に對しては大正十二年の大災に鑒み建築としては第一に考慮を拂はねばならぬといふいろ〳〵むづかしい註文の下に本社當事者は苦心慘憺幾度か設計をやり直して非常な努力と清新な創意とをもつてこゝに漸く竣工を見たのであります。しかして工事は竹中工務店の手になり設計主任は松下技師これに當り同店員一同必死の努力をもつてこの音響の好條件と外觀の新意匠に加へて、耐震耐火には絶對の安全保證の堅牢構成を期し得たのであります。又舞臺裝置に對しては土方與志氏及び大森正男氏、裝飾意匠については京都帝大教授濱田青陵博士、助手能勢丑三氏助言を與へられ、舞臺中央及び左右の彫刻は同大學建築科講師中牟田氏の力作に係つてをります。

内容外觀の兩備

我が社の最も意を用ひたところは内容外觀兩つながら理想的に造り上げんとしたことで、梅田停車場から南して大阪の中心に近く堂島川の清流を渡らんとするに際し、巍然たる五階(建築上からいへば地下室とも七階)の大建築が新しき樣式をもつて聳えてゐるのを仰ぐは確に大阪市の一の美觀であります。その内都はトツプライトの既にすたらんとしてゐる今日、五階全部を一本に貫き床より天井に及ぶ大窓から採る横光線か十二分に利用し、スクリン面の延長一千尺に及ぶ大展覽場と百尺の高さに二千人を容れ、坐席三階に及び、而も二重の周壁は外界の雜音を防ぎ天井は五段のステツプをもつて勾配を有し、音聲の反響吸收ともに頗る調諧して聽者に快きのみならず、堂内の裝飾及彩色は總て埃及式に則り觀衆をして千古文化の都に恍惚として夢遊すの閑雅平穩の氣分をほしいままにせしむる大集會場との二つを設備して大阪市民の文化を進め、その要求を滿たさんとした點にあります。



朝日會館

帝國興信所と
社長　後藤武夫氏

株式會社

帝國興信所

東京市京橋區櫻橋南側
大阪市西區江戸堀南通一丁目

役員

取締役社長	後藤武夫	
取締役	平松荘一	同
同	前田昌徳	同
同	古部卯太郎	監査役
同	山本幸吉	同
	高松信藏	取締役
	中島久次郎	同
	高澤龜三郎	同
	藤田守一	同
	後藤タマ	同

沿革

同所は明治三十三年三月現社長後藤武夫氏の發起により創立され故子爵榎本武揚氏、子爵清浦圭吾氏、故五二會頭前田正名氏等の賛同と全國商業會議所會頭及び書記長等の聲援により漸次發展其基礎を固め大正十四年四月資本金五十萬圓(全額拂込)の株式會社に組織を改め爾來後藤社長を始め各重役統率の下に至誠努力主義を絶對信條となし今日に及ぶ。

現に壹千二百餘名の所員と全國に五十有餘箇所の支所を有し而かも世界最大興信所たる紐育アールダン興信所と密接なる聯絡を有せる外朝鮮、支那、南洋及び歐米主要都市に周密なる調査網を布いて所謂世界的に雄飛しつゝあり現時我國にかける三大興信所の一として東京、商業、の二所と共に併稱されてゐる。

因に同所の目下取扱ひつゝある業務は大別左の通りである。

一、銀行會社及商工業家の資産信用、人格等に關する一般調査
二、結婚、血統、遣ひ込み、持逃げ等人事、刑事に關する一切の秘密探偵
三、債權取立、不動產管理等民事、商事に關する代理行爲
四、一般經濟界の趨勢、法人個人の營業狀態其他を報道する『日刊帝國興信日報』を東京、大阪に於て各別に發行し尚英文日報をも發行せり
五、同所の別動體たる日本魂社よりは國民精神作興を主旨とせる月刊雜誌日本魂を發行してゐる

日本魂社

帝國興信所の別働體なる日本魂社は雜誌日本魂を發行し、國民精神作興、青少年團研究機關雜誌として家庭園樂の好讀物として十年一日の如く至誠努力に邁進して居る其趣旨及規則は左の通りである。

日本魂社設立趣旨書

過去數十年間に於ける我邦文物の進歩は、中外の等しく驚異する所である。就中物質方面の發達は特に著しく之を維新前に比すれば實に隔世の感があるのである。されど精神文明の方面に在りては、前者即ち物質文明の發達に伴はず、自由平等、權利義務の思想徒らに長じて儀禮謙讓、奉公犧牲の信念は、日に銷磨するの有樣である。見よ宗教家の墮落、教育家の腐敗、官公吏の悖信、代議士の汚行等、愈々出て愈々醜なるを。然も社會は冷然として何等之を咎むるなく、其の多くは看て以て尋常茶飯事と爲して居るのである。道義の頽廢、社會制裁力の缺乏、斯の如くにして我が國民の特性は、徒らに物質文明の流毒に侵蝕せられ、邦家の前途岌々乎として危いかなである。

然らば如何にして此の頽勢を飜すべきか、他なし、日本民族の特性にして日本道徳の中核たる「日本魂」＝日本國民の全部が當然確有す可き日本建國の理想＝公明、正義、平和の大精神＝忠孝義勇の心＝武士道的精神＝宇宙道＝世界道＝人間道を砥礪琢磨し、以て之を擴充するに在るのみである。政治、經濟、教育、宗教、文學等の總てを擧げて、之を幾千年傳承せる日本國民精神の中核たる「日本魂」に融合歸一せしめ、之を骨髓とし、之を柱礎とし以て精神文明の向上と、物質文明の發達とを對立併進せしめ、以て益々皇威の振暢發展に努むることは、眞に現代日本の最大急務であると確信するのである。是れ我等が微力自ら揣らず、茲に日本魂社を創設して、雜誌「日本魂」を發行し、皇祖皇宗肇國の大理想と、列聖の大御心とを奉體し、外は進轉極まりなき世界の大勢に順應し内は國民の指南車たらんとする所以である。

敢て大方諸賢の援助により、涓埃の微衷を致すを得ば獨り我等の光榮のみならず、眞に國家の慶幸である。

日本魂社

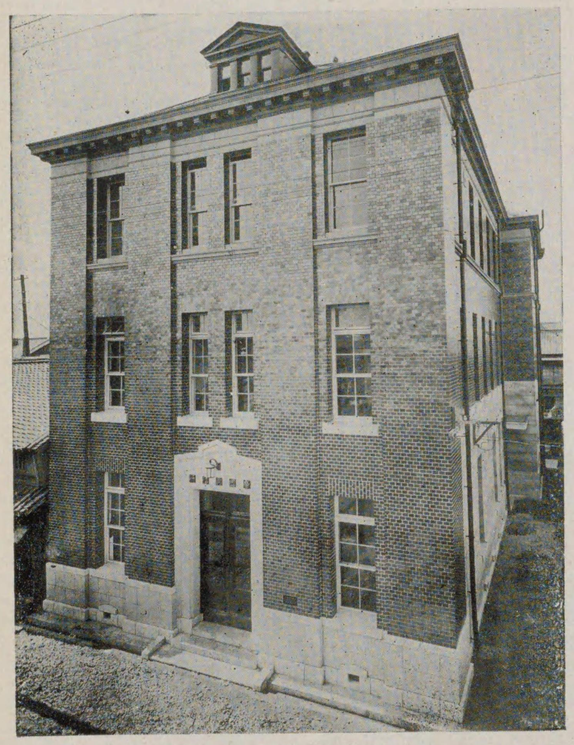
代表者　後藤武夫

帝國興信所支所

京都、横濱、神戸、姫路、長崎、新潟、前橋、宇都宮、水戸、名古屋、津、靜岡、濱松、甲府、岐阜、松本、仙臺、福島、盛岡、青森、山形、秋田、福井、金澤、富山、高岡、岡山、高松、廣島、和歌山、德島、尾道、松江、福岡、門司、佐賀、熊本、久留米、鹿兒島、北海道函館、小樽、旭川、釧路、樺太豊原大泊、朝鮮京城、釜山、平壌、臺北

出張所

富山縣新湊町、宮崎市宮田町、樺太眞岡町、支那上海



帝國興信所大阪本部

◉臺灣調査區域

臺北市、基隆、臺中市、新竹、嘉義、臺南市及其附近（二圓）其他郡部は相當實費申受候

◉支那方面聯絡個所（但實費各所要金五圓）

奉天、蘇州、南京、漢口、武昌、漢陽、北京、天津、錦州、濟南、青島、大連、旅順、哈爾賓、齊々哈爾、滿州里、ハイラル、ボグラニチナヤ

◉歐米聯絡調査區域（一件五圓以上）

倫敦、巴里、伯林、羅馬、アムステルダム、マドリツド、ブリンデン、ゼネブア、米國重要都市、佛國商業會議所々在地、瑞典、端西、諸威、丁抹、和蘭、白耳義、希臘、土耳古、各重要都市、プエノスアイレス、リオデヤネロ、ウンチヤゴ、ガテマラ、メキシコ、ウイニペグ、ヴアンクーバー、セントジョンス、カルカツタ、スワトー、ボンベイ、サマラング、クワリオール、スミルナ、ベルス、オークランド、メルボルン、シドニー、ウエルリングトン、トリポリ、カーツーム、ダーバン、ケープタウン、ヨハネスブルグ、ヂユニス、カイロ、新嘉坡、ペナン

大阪市西區江戸堀南通一丁目三三番地
株式會社 **帝國興信所大阪本部**
電話土佐堀〈三八〇〇番　長三八〇二番
　　〈三八〇一番　三八〇三番
振替口座（大阪）七三七七番

實業同志會

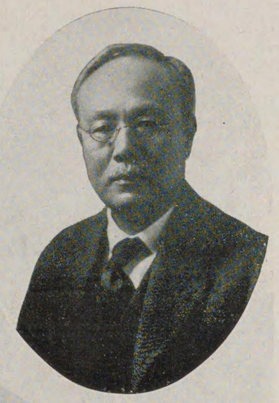
沿革

實業同志會は黨弊打破政界革新を旗印として大正十二年四月二十日大阪市中央公會堂に發會式を擧げたる一政黨である。政黨の墮落政界の腐敗を慨し更に國費の亂費、負擔の重加に惱んでゐた國民の輿望は翕然として之に幸り、會員數萬を超ゆるに至つた。之を率ゆる會長武藤山治氏は夙に我が國經濟界に於て卓越せる手腕と高潔なる人格を以て知られたる實業家（鐘淵紡績株式會社々長）なりしが、政治家として立つやその勇勁なる文章と熱烈なる演說とは純眞なる性格と相俟つて近來稀に見るの立憲的政治家なりと推稱されてゐる。

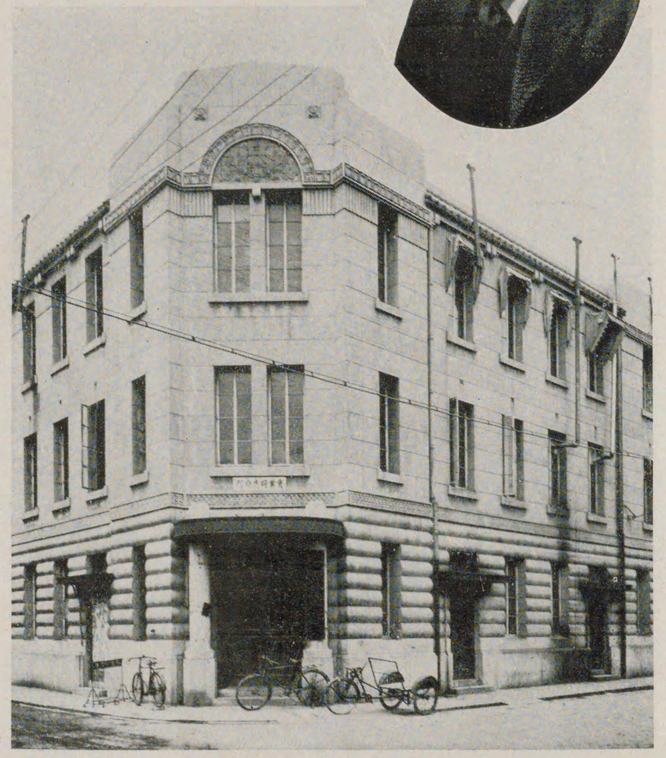
大正十三年の總選擧に於いて衆議院議員に當選せる同志九名、每議會國費の節約國民負擔の輕減を主張し能く民衆の利益を擁護して來たことは識者の齊しく認むる所である

其例を擧ぐれば或は北海道農地買上法案、九州製鋼所買收法案等の握りつぶし、震災手形法案上提の際に於ける奮鬪近くは第五十四議會解散の火蓋を切りたる男氣等枚擧に遑がない

今や昭和三年二月二十日の總選擧に於てかち得たる同志僅に四名なりと雖、而かも政友民政二大政黨の間に介在して能く第三黨の威力を發揮し、以て政界を一步々々明きに導きつゝあり、現在會員數五萬其の主力を政治教育に盡し、或は實業讀本實業政治の著書を發行して洛陽の紙價を高からしめ、或は月刊雜誌公民講座を發行し市民講座を開設してゐる。殊に活動寫眞の應用政治劇の創始の如きに至りては到底他黨の企て及ばざる所なりとす。



實業同志會長
衆議院議員
鐘淵紡績株式會社長
武藤山治氏



實業同志會本部
（大阪市南區鰻谷仲ノ町五六）

日刊工業新聞社

吾社は大正四年十一月三十日の創立に爲り六年五月雜誌鐵世界を新聞形に改め月一回の發行より順次發行回數を增加し大正九年月五回に至りて之れを工業新聞と改題し大正十年に至り每號八頁月七回發行と迄社業の進展を見たるが當時旣に日刊計畫の熟せるあり同年七月西區本田二番丁に移轉し着々日刊の準備を進め大正十一年六月二十四日日刊工業新聞と改題して我國專門新聞中日刊紙の先驅をなす爾來滿一ケ年間は日曜のみ休刊しゐたるも十二年七月一日より年中無休刊に變更爾來社運逐日隆盛に向ふと共に社屋新築の必要を痛感し大阪市中ノ島五丁目一〇六の濱側に地を相し鐵筋コンクリート四階建の社屋新築に着手したるは大正十三年二月一日にして同年十月中竣工を告げ十一月二十八日を以て全部の移轉を終了し以て今日に至れり。

現在の本紙は每號四頁の外月八回の定期附錄を發行して之れを土曜附錄、水曜附錄と稱し其他臨時附錄數回近く六頁新聞たるべく準備を進めつゝあり昭和三年一月末現の現社員一百五十一名にして內編輯第二部十七、給仕使丁交換手十一、紙面を電氣版、機械版、金物版、建築版、化學版、紡織版、二十七、庶務會計九、一般工業版、市場版、相場版、商品紹介所、世界工業版、特許版、科學智識版、趣味版、書報版の十五部制に分ち日本唯一の工業的大機關紙として產業立國の大使命に向つて勇往邁進しつゝあり現在本支社所在地左の如し。

本支社所在地

大阪市北區中ノ島五丁目一〇六
日刊工業新聞社
電土一一七、三一八、三一九

東京市丸ノ內三菱二十一號館
日刊工業東京支社

京都七條通堀川西入ル
日刊工業京都支局
電話ち二〇九三番

神戸市楠町二丁目
日刊工業神戸支局
電話元町一七四五番

名古屋市西區北澤町三三
日刊工業中京支局
電話 西三六四八番

小倉市大阪町十一丁目
日刊工業九州支局
特長一八四番

臺灣嘉義街
日刊工業臺灣支局
電話二四四、七〇五

工業新聞社と

主幹　近藤義太郎氏

廣告代理業者としての

萬年社

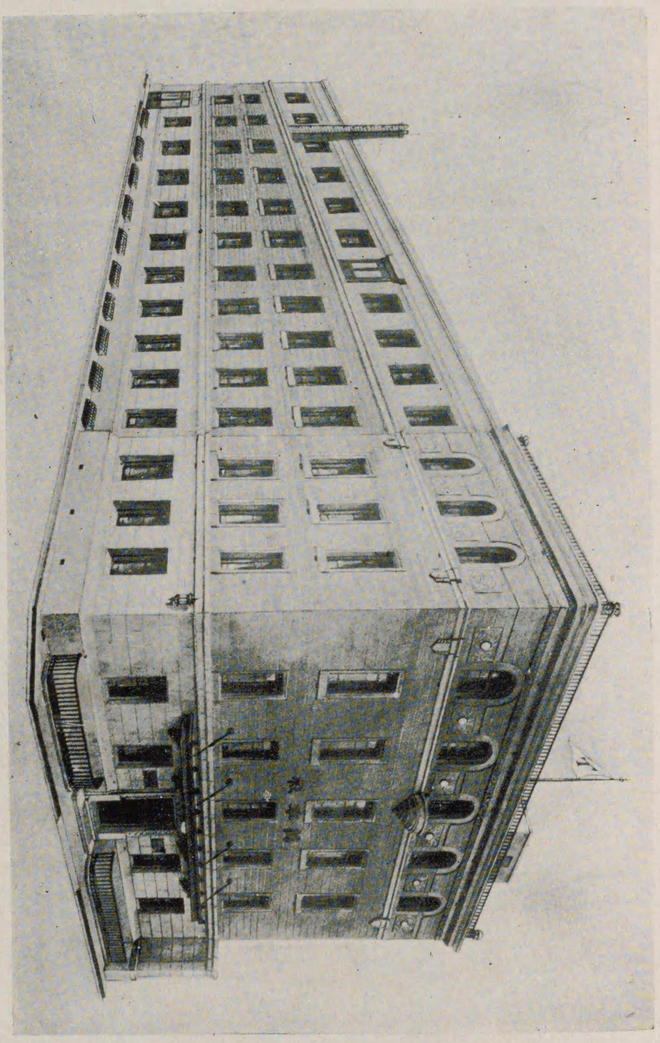
萬年社は帝國議會が始めて召集されました明治二十三年に創立したものであります。當時は、世間でも產業發達を重視せず、新聞社の方でも政論に熱中し、更に廣告掲載を意に介しなかつたので、當社では廣告思想の啓發に關して意外の苦辛を經驗致しましたが、三十七年目の大正十五年秋に本店の新築竣工し、內部の設備も略ぼ完了し、創始の業漸く成るまでの一段落を告ぐるに至りました。

右三十七年間の沿革は茲に省略致しますが、大正九年に個人經營を資本金五十萬圓の株式會社と改め、大正十五年に資本金を金壹百萬圓に增額致しました。

當社は一個の商事會社に相違ないのです。けれども營利の目的を達して自ら足れりとするものではありませぬ。乃ち一面には斯業の先達として起つただけに、常に廣告の發展を促して產業興隆に資し、他面には廣告主と新聞雜誌社との間に介在し仲介機關として能ふ限りの利便を提供し、共存共榮の道を講ずるためには幾多の犧牲を辭さなかつたのであります。

當社の東京支店は明治二十六年に設置し、東京新聞初め地方新聞の廣告取扱を開始し、又東京より大阪各紙に送られる廣告に盡力致しましたが、最近數年は東京各紙に對する取扱數も著しく其の數を增加することとなりました。大正十二年關東大震災に際して社屋は不幸にも烏有に歸しましたが、業務は年と共に發展致して居ります。

京都支店は明治三十二年に設置し、大正十三年堺町通三條の新築竣工を見ることとなりました。業務は大阪每日新聞の『京都每日』の廣告を明治三十八年より今日まで二十餘年間繼續して一手扱をなし、尙一般廣告を取扱ふ外、大正十二年以降火災保險業務を兼營して居ります。



社會式株

萬年社

店支都京　條三通町堺都京　(二〇五四〇〇五四長 一〇五四)中電

店支京東　目丁一座銀京東　八三五三六三五三 七三五三(六五)橋京電

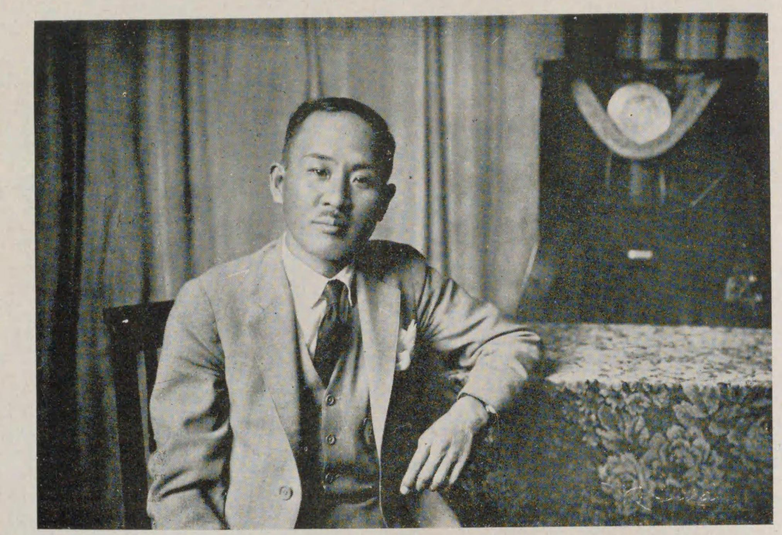
目丁五橋麗高阪大　座口替振(〇七二四 二八九阪大 一七二四 〇九六長 一九六 二九六)局本電

日東社

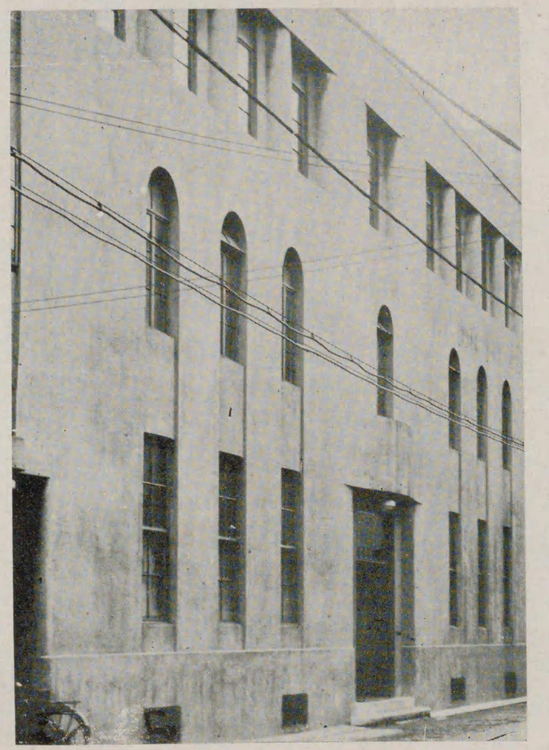
沿革概要

本社は大正十年十月石上欽二(現社主)氏の創業せる工場經營上の研究機關であつて、内地は勿論滿鮮、上海、青島各地方の各種會社及び工場、鑛山、炭坑、その他内閣印刷局を初め、大藏省各地方專賣局、商工省大阪工業試驗所、鐵道省各工場、陸海軍各工廠及び技術研究部、遞信省貯金局及び各地遞信局、各市電氣局、滿州鐵道株式會社始め各地電鐵會社、各地高等工業學校、同高等商業學校、協調會其他研究團體等約六百五十の會員を有し、毎月八回宛『工場パンフレツト』を發行するの外、工場經營に關する圖書を發行し、傍ら工場主懇談會、例月工場講座、工場見學會等を催行し、社主石上欽二、理事亘理繁(陸軍砲兵大佐)兩氏の外、鈴木、吉田、伊藤の學士之れに參加して調査研究の衝に當り、現時事務所を中之島五丁目工業ビルデイングに置き、斯道の研究機關として重きを成しつゝあり。

日東社理事　亘理繁氏
(陸軍砲兵大佐)



(上)
日東社主　石上欽二氏
(工場經營に關する講演の際)



(下)
日東社編輯及事務所
(名古屋放送局に於ける氏の近影)

中山文化研究所總長　中山太一氏

文化生活の第一義

内的には精神生活の信念確立
外的には科學智識の理解應用

現代社會の眞摯な要求は内的には精神生活の理想信念を確立し外的には科學的智識の理解應用によつて生活上の形式方法に改善を加へ一層善美な家庭と社會とを實現せしめる事であります、眞の精神生活と合理的な物質生活との融合によつて理想に近い第一義の生活を實現したいと云ふ根強い熱烈な要求が興つて來たと云ふ事は正しき文化時代の到來すべき前兆であります。吾中山太陽堂は大正十一年四月三日創業滿二十周年に當り其記念事業として文化研究機關の設立計畫に着手し大正十二年十二月十二日設備を完成し十三年一月一日其事業を開始せり。

調査研究　實施普及　項要

1思想　2科學　3文學　4音樂　5美術
6教育　7宗教　8家政　9社交　10能率
11保健衛生　12整容美粧　13口腔衛生

整容美粧研究所

所長　醫學博士　三內建治

美粧院
- 皮膚衛生研究部
- 整容技師養成部
- 美容皮膚科診療部
- 整容美粧相談部

口腔衛生研究所

所長　ドクトル　濱野松太郎
顧問　醫學博士　石原久
理事　齒科醫士　川上爲次郎

- 齒科診療部……口腔衛生手養成部
- 口腔衛生研究部……口腔衛生相談部

女性文化研究所

所長　醫學博士　文學博士　富士川游
顧問　文學博士　野上俊夫

- 女性文化講座……家事及身上相談部
- 女性文化研究及調査……婦人談話室
- 健康相談部……精神文化研究會
- 宗教相談部

兒童教養研究所

所長　醫學博士　文學博士　富士川游
顧問　醫學博士　三田谷啓

- 兒童教養講座……兒童相談部
- 兒童の爲の講座……兒童健康診斷部
- 兒童文化研究部……

附屬齒科診療所　齒科一般の診察並に治療

附屬美容皮膚科診療部　皮膚科一般の診察並に治療

整容美粧研究所　美粧院
御婦人の爲めの保健衛生を主としたる高尚優美なる文化的整容並に美粧に關する業務

女性文化研究所　婦人談話室、講演室、會議室
女性文化に關する本所の研究、講演、會合等の外一般御婦人並に婦人團體に對し提供すべき施設あり

兒童教養研究所　兒童相談部
兒童の健康、教育、選職等の相談

中山文化研究所
大阪堂島ビルヂング五階
電話北自五八九〇至五八九九
專用電話北三〇一一番
（寫眞は科學と宗教講座）

株式會社 武田長兵衛商店

資本金　五百參拾萬圓　全額拂込濟（大正十二年二月株式組織に變更）

社長　武田長兵衛　副社長　武田二郎（藥學博士にして長兵衛氏の弟）

△本店　大阪市東區道修町二丁目業務の擴張と共に從來の所謂老舗型の舊套を脱して來夏（昭和三年）鐵筋コンクリートの三層樓成らんとす。

△製造部　大阪市東淀川區十三西之町一萬坪餘の域を劃し、藥局方藥品、化學藥品、新藥類の製造に從事す。

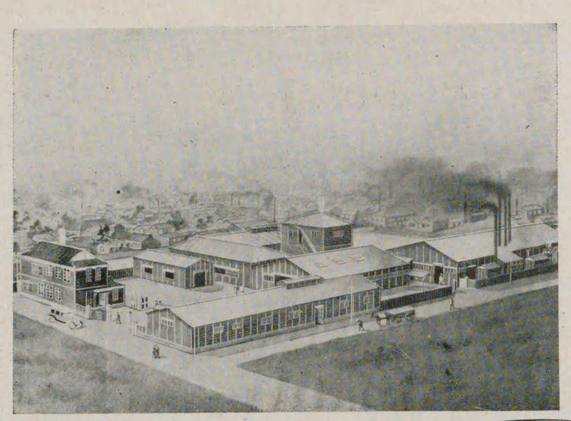
△研究部　大阪市東淀川區十三東之町製造部に南隣し曩に鐵筋コンクリートの新裝成る。武田藥學博士主任となり、多くの藥學者を督して新治療劑創製等の研究に從事す。研究施設の完備、斯學書籍の豊富なる蒐集等私設の研究所としては比較的完全す。

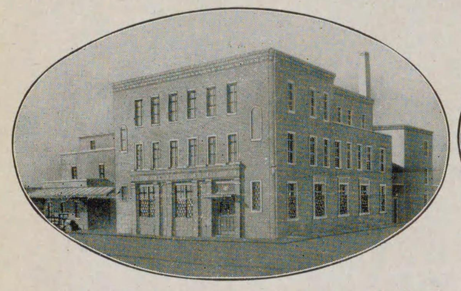
△試驗部　大阪市東淀川區中津町大正十五年鐵筋コンクリート建改築成る。試驗部は私設の衛生試驗所の如き權威を有す。製造部より送達せられたる藥品に對して嚴密なる監査を行ひ凡そ規定の品質に適合せざるものは發賣を許さず。試驗部の藥品監査に對しては絶對に他の制肘をうけず。試驗濟みの製品を小分けしこれを包裝する業務をも擔當す。

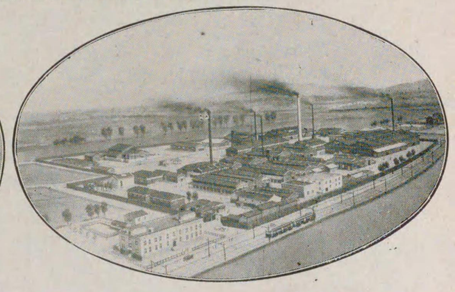
△製造部分工場　兵庫縣川邊郡川西小花主として脚氣新藥スペルゾンの製造に從事す。

△天明年間の創業、爾來孜々として努力し漸く今日あるに至る。殊に歐洲大戰開始後醫藥品の輸入杜絶に際し醫師は患者に投ずべき藥劑に窮し、藥店は鬻ぐべき藥品に不足を告げ、國民保健衛生上の一大事に遭遇せる際、夙に自給自足を提唱して確乎たる製藥所を設立し、熱誠努力、着々としてその實を擧げ、多數の藥局方藥品その他純正化學藥品の製出を見、現在武田製品の商標たるウロコ印及藥品方規定以上の品質を誇るサギ印の藥品は藥業界に於て最大の聲價と信用を博するに至る。

また日新醫學の精髓を採り、常に優秀なる新治療劑の製出に力を致し、その製造及び發賣する製品は幸ひにして醫界の推奬をうく。例へばビオフエルミン（整腸消化劑）、カルモチン（神經衰弱、不眠症治療劑）、ポリタミン（補血滋養强壯劑）等。







寫眞は株式會社武田長兵衛商店
製藥工場及試驗部

武田新藥名一覽

インベリン末
〃　錠（〇・一）
ロヂノン注
ロヂノン
カルチウム注
カムフル
ロヂノン注
純葡萄糖末
パラネシン注
バグノン注
〃　小兒用
パビナール注
〃　錠（〇・〇一）
〃　〃（〇・〇〇五）
〃　末
パビナール
アトロピン注
パビナール
スコポラミン弱
〃　强
ポリタミン粉末
液狀ポリタミン
キナポリタミン
ヨード
ポリタミン
アルゼン
ポリタミン
グアヤコール
ポリタミン

ポラギノール
〃　坐藥
ペプトン注射液
ドナン
ドライコ
チラーヂン末
〃　注射液
チフエラミン注
チストール末
ネオチストール
ヂゲニン液
オオホルミン末
〃　注射液
〃　錠（〇・一）
オムナヂン注
カルモチン末
〃　錠（〇・一）
〃　〃（〇・二五）
ガルコン末
ガダミン注
タカリヂン末
〃　錠（〇・三）
タウゲン末
〃　錠（〇・三）
ラーボン液
ウロノール
「大五」
ヴイタミンA

ノイトラロン
ベラドンナ
ノイトラロン
ノボロフオルム
〃　坐藥
クリオビン注
クリプタール液
〃　球（〇・三）
クラウデン注
〃　末
〃　錠（〇・二五）
グレノール末
マイニツケ氏
黴毒診斷液
〃　用具
マクロビン注
硅酸注射液（一%）
プロタミラーゼ
〃　錠（〇・一）
エバニン末
〃　液
〃　錠（〇・三）
エリオザン注
エルゴプトール
複方鹽酸
エメチン注
テラツーテン注
テピラール末
〃　錠（〇・五）

アトニン注
アルソゾン注
アルソバール注
アナプトール
ゼラチン注
アプフリン末
〃　錠（〇・一）
安那加注射液
（一〇%）
〃　（二五%）
「バイエル」
アスピリン
〃　錠（〇・五）
メリジン注
純四鹽化炭素
〃　球（〇・四cc）
ヒポトナール末
〃　錠（〇・二）
ビオフエルミン
〃　錠
スペルゾン液
〃　錠
〃　注
〃　末
スペルマチン注
〃　錠
鈴村氏滅菌
ゼラチン液

株式會社鹽野義商店沿革

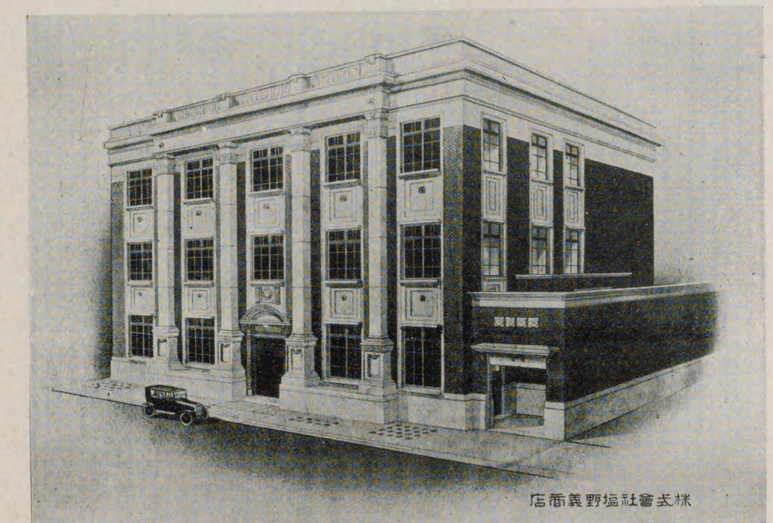
同社は明治十一年前社長鹽野義一氏が、現營業所に藥種貿易商を開始したのに端を發する。當時は主として和漢藥を販賣して居たが時代は漸く洋藥に移行せられつゝあるを看破するや、率先洋藥取扱に從ふと同時に洋藥を製造し國内自給を圖らうと堅き決心を以て、明治二十五年大阪市北區相生町に研究所を設立し、洋藥の研究と傍ら製藥事業に手を染めた。明治四十年漸次努力の甲斐あり前途に曙光を認めたるを以て、大阪市西淀川區海老江町に研究所及び製藥工場を新築し規模を擴張し輸入藥品に對抗し事業を進めたが、當時は原料其の他の關係より國内製藥業に不利にして事業は不振を極めた、然し此種の事業は將來國家的にも頗る重要にして必ず興るべき事業なるを豫想し、幾多の困難にも屈せず他日を期して經營に精進した。

大正三年六月歐洲諸國は空前の世界大戰々禍に包圍せらるゝや、其の使用藥品の殆んど大部分を同地方殊に獨墺よりの輸入によりて充たされてをつた本邦醫界は忽ち輸入杜絶に遭ひ、周章狼狽したのである。折柄斯業の爲に不斷の努力を拂ひ來れる同社は、敢然として立ち大阪府下海老江に於ける研究所並に工場の内容を整備すると同時に、更に第二工場を兵庫縣川邊郡杭瀬に、炭麻工場を同縣赤穗町に新設し、是等各工場の製品を統一し試驗せんが爲には大阪市西淀川區浦江町に藥品試驗所を設置するに至つた、斯くして同社の製藥工業の組織は全く完備したのであつた、そして同社の製品は盛んに市場に現れ非常の好評を博した、是まで内國製劑に目もくれなかつた需要家は、外國品に遜色なき製品を目前に堤供せられて驚いたのであつた、そして初めて本邦製藥工業の價値を認むるに至つた、而して此の非常時に際して永年拂つた同社の犧牲的努力は美事な果實を結んだ。

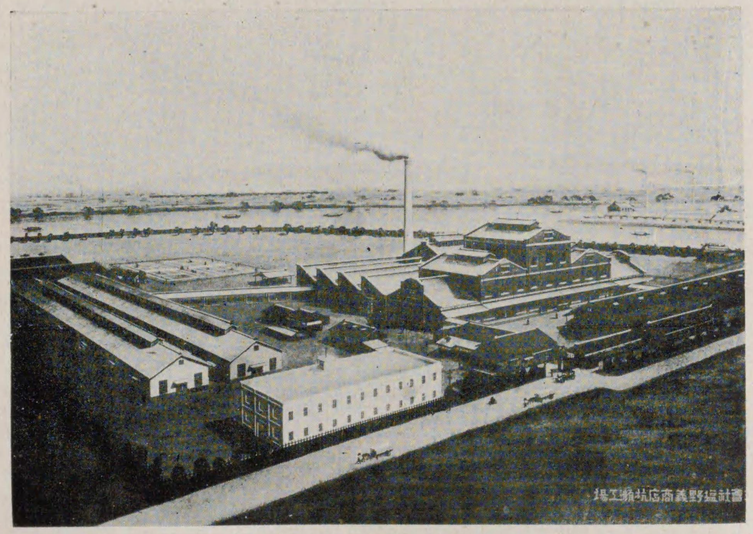
大正八年從來の個人經營なりし鹽野義商店を株式組織に變更し、從業員一同を盡く其事業に參加せしめ是れによつて來る利益に均霑し得る事となし、業務を擴張したこれ鹽野義一氏の宏遠なる計畫に基けるものにして勞資の協調をなし、光榮ある事業を永遠に價値あらしめんとしたのである。今日同社が一路整然として、旭日昇天の慨のあるのも謂れなきに非ずである。因に現社長鹽野義三郎氏は前社長鹽野義一郎氏の令嗣で、又工場長として製藥部を主宰しつゝある藥學士鹽野長次郎氏は其の次子である。斯く兄弟共に力を社業の上に致しつゝあるは同社の組織の合理的なると相俟つて大なる强味である。

發賣藥品中新藥の紹介

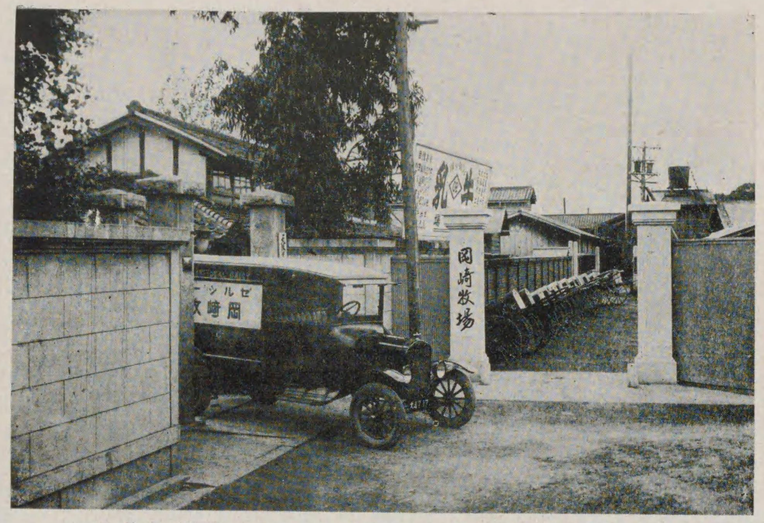
强心劑ヂキタミン、利尿强心劑ヂギカルフエイン、緩下劑ラキサトール、ロイマチス神經痛治療劑鹽酸シノメニン、祛痰劑フアトシン、脚氣藥パラヌトリン、夜尿夜汗症内服劑カンホトニン、蛔蟲驅除注射液ドラスミン、蛔蟲驅除内服藥ヂゲラキシン、月經困難症内服劑アンヂスメン、濕布代用エキシカ、創傷膿瘍防腐消毒劑スペチヨード、寄生性皮膚病塗布藥オイロ、消炎鎭靜劑ミオトニン、カンフル食鹽水カロナジン、肺結核肋腹膜炎靜脈注射劑ペクトール、葡萄狀球菌病女服劑エタイノキシール、皮膚瘙痒症注射劑ユクロミン、痔疾療法カヴイドール



株式會社鹽野義商店全景



同上杭瀬工場



大大阪市民の保健に貢献しつゝある模範的牧場

寫眞・岡崎牧場營業所(上)と同場内純良乳牛の一群(下)

同場主要生産品

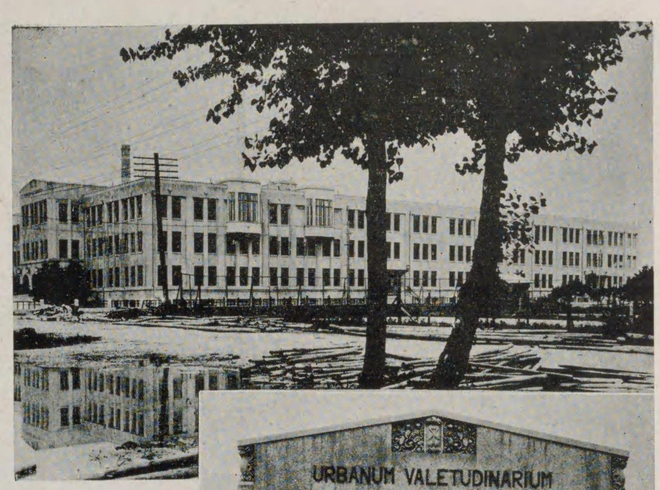
濃ホ小特新新
厚ル兒別鮮鮮
ゼス專脫パク
ルタ用脂リ
シイ牛タ一
ーン牛牛
牛乳乳乳
乳乳乳ーム

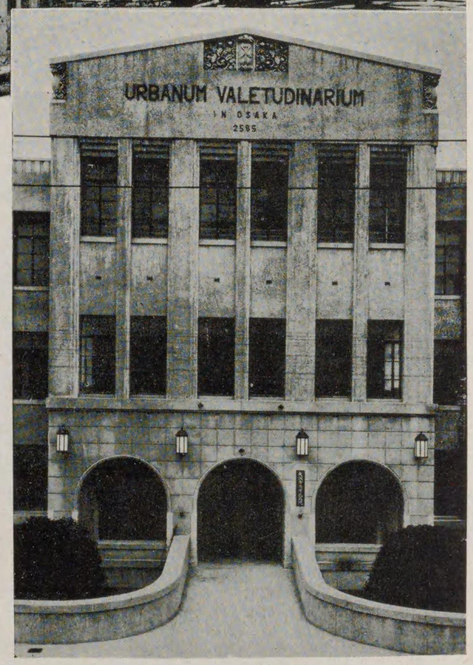
岡崎牧場

本店 東淀川區十三
電話 北三一七五番

市内支店所在地

北區 北扇町
西區 靱岡崎橋北
天王寺區南河堀詰町





大阪市民病院

全景(上)
正面玄關(下)

本市は社會政策的見地から夙に市民の療病機關として大規模の病院を設くる必要を認め、其の第一歩として先づ大正十年金五拾萬圓を以て市外天王寺村に病院建築の計畫を樹て、公立病院創設委員會を組織し、その設計等を調査研究する一方、豫定敷地の一部に看護婦寄宿舍の建築に着手し、其の竣工を告げた折から、偶市内東區瓦町一丁目鐵商岸本吉右衛門氏がこの擧に贊して建築費として金百萬圓を寄附せられることゝなつたので、市は當初の計畫を變更し右の百萬圓を以て建築費とし、さきの五拾萬圓を初度調辨費に充て設計を改めて建築したのである。

大阪に於ける衛生施設の中樞をなす大學病院の全景にして甚だ大なる

建築物は文都市的文化を誇る堂島河畔の一偉觀たり

高洲病院全景

高洲謙一郎氏は本邦小兒學界の長老たると同時に關西醫界の頭目たり。

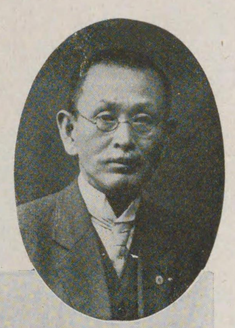
謙は後進に讓り自身顧問院主として同病院の診察に努力しつゝある醫學博士で關西小兒學界のオーソリチーとし前大阪醫科大學教授として令名高く、後自ら教職を退き、大阪市南區北掘江に私立高洲病院を開設し、院長の

現代本邦皮膚病學の泰斗櫻根醫學博士は和歌山縣笠田町の人、明治三十六年大阪府立高等醫學校教諭となり、同三十八九年獨逸に留學し、ブレスラウ大學に於て研究する所あり、歸朝後同四十二年主論文「皮膚及皮下組織の（オイヂミューセ）菌病の一例」外參考論文五編を東京帝國大學に提出して醫學博士の學位を受く、既にして大正八年十月大學令に依り公立大學教授に任命、大阪醫科大學教授に補せられ勅任待遇を受けしが、同十五年八月其職を辭し、現在所に皮膚科專門病院を經營して今日に至る、君天資敦厚、其專門の學識に至つては世既に定評あり、今や斯界の權威を以て稱せらる、至誠一貫德望隆々、曩に大阪醫科大學に教鞭を執るや、衆生崇仰の中心たりき、夙にローマ字問題の研究及運動を指導し、熱心なる羅馬字の鼓吹者として知られ、ローマ字會館を經營して其幹主たり。

皮膚科專門
醫學博士　**櫻根孝之進氏**

（大阪市東區北濱四丁目）

Shashin wa Sakurane Byōin no Zenkei to sono Inchō Igaku Hakushi Sakurane Kōnoshin Shi.



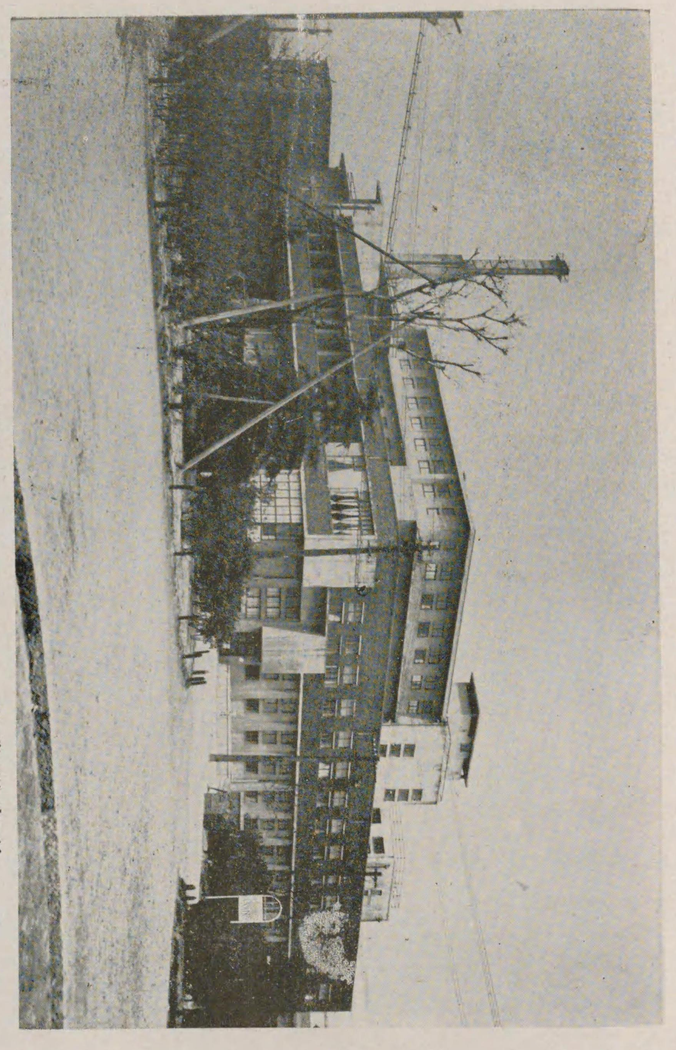
櫻根病院（下）

櫻根孝之進氏（上）　院長

有澤眼科病院全景

（大阪市北濱三丁目）

關西眼科界の巨擘として名聲嘖々たる有澤眼科病院長醫學博士有澤潤氏は大阪市の人、明治四十年東京帝國大學醫學科を卒業し、直ちに同學副手として河本博士に師事し、同四十二年獨逸に遊び、フライブルヒ大學及コツホ傳染病研究所に於て研究に沒頭すること約五年、濫著する所頗る深く大正三年歸朝、後大阪市の現在所に業を開き眼科を專門として一般患者の診療に從事し、其の深遠なる學識は、卓拔なる人格と相俟ちて輿望を博し一般よりの崇敬日々益々厚し。



財團法人田附興風會北野病院

（大阪市北區西扇町3，北扇町70番地）

醫學研究所

所長　醫學博士　今村新吉氏

北野病院

院長　醫學博士　松本信一氏

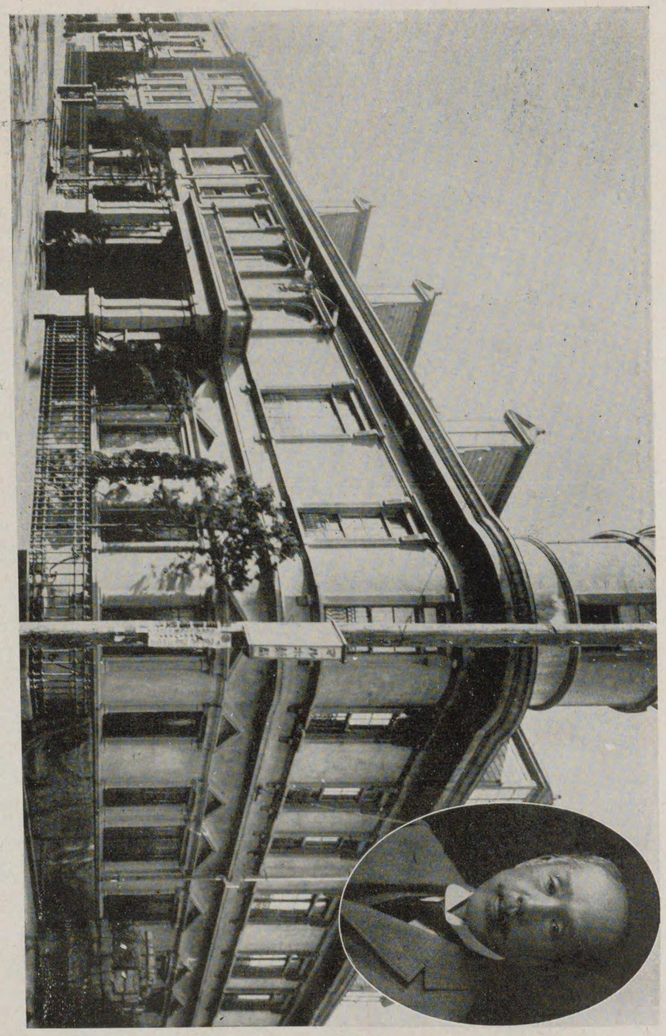
大阪高安病院長　ドクトル　醫學博士　高安道成氏

（大阪市）

關西杏林界に錚々たる名聲を有する高安博士は、明治二十年英國に留學、倫敦セント、トーマス病院醫學校に在學五年、次いでローヤル、カレッヂを卒業し、更にクヰンスクエアー病院併に塢國ウヰーン大學に研究を積み、獨逸プレラウ大學に於てドクトルの學位を得られ、同三十年歸朝、以來大阪市に病院を經營して今日に至る。

氏の主論文は「膵臟外科追加」外參考論文二篇にして明治四十五年これを京都大學に堤出して醫學博士の學位を授與さる。

讀書家篤學の士、高安六郎博士の實兄にして、兄弟相揃つて醫學界の重鎭として、亦崇高なる人格者として一般より尊敬せらる。



高安道成氏

院長

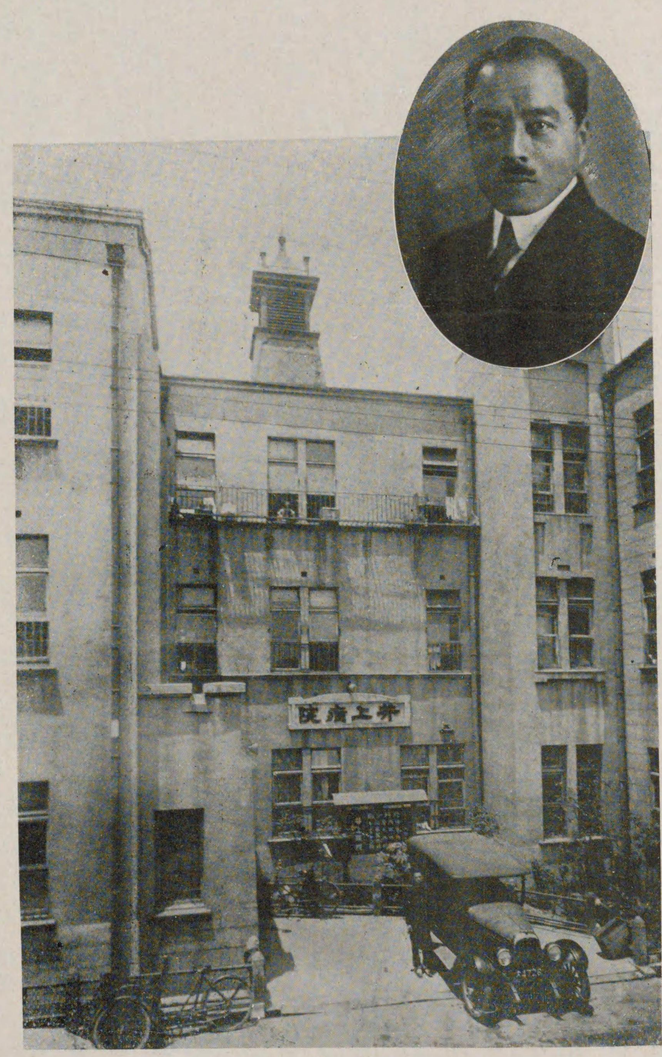
高安病院

井上病院長
醫學博士　大野良藏氏

大阪一流病院として有名なる外科專門大阪の井上病院長として聲望隆々たる醫學博士大野良藏氏は三十九歳の壯年外科學者たり大正三年九州帝國大學醫學部を卒業し、後現職大阪井上病院長に就任し以て今日に至る君の外科學的博識は世間夙に定評あり本邦新進の醫學者として尙他日爲す有るの偉材として囑目されつゝあり大阪杏林界の權威として世の信望頗る厚し。

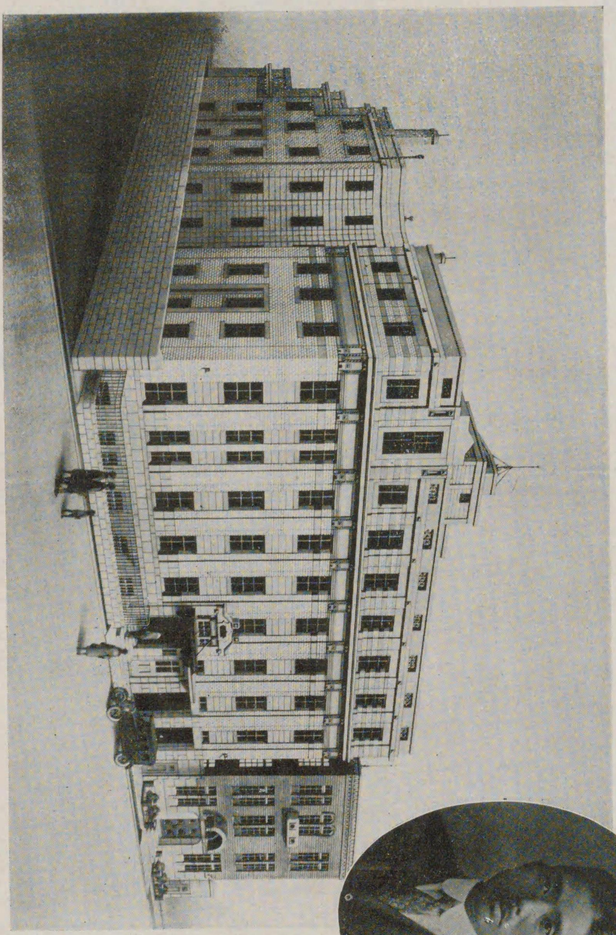
大阪市西區南堀江上通一丁目
井上外科病院
電話櫻川（一六五五番 一六五六番）
事務長　濱鎭雄

院長　大野良藏氏



井上外科病院

緒方婦人科病院は明治三十五年七月故醫學博士緒方正清氏の創設にかゝり産科及婦人科の專門病院なり、創設以來常に積極的經營の下に諸般の改良をなし屢々改築增築を行ひたるが大正十年溫厚にしてしかも果斷なる現院長醫學博士緒方祐將氏歐米の留學を終へて歸朝するや日本に於ける多くの病院が歐米の病院に比し甚だ劣れるを遺憾とし且時勢の進展に適應する樣當時未だ日本に見ざる耐震耐火の病院を造らんが爲め本部の改築を企て遂に大正十一年二月工を起し同十三年五月全く竣工したり今新病院の大體を見るに地階共に五階建、延坪千二百五十坪、全部鐵筋コンクリート造の有數の大病院にして入院患者の最も危險と不安とを感ずる火災又は地震の憂を去り歐米風のかた苦しき建築なるに拘らず設備を優しくし病院臭なき病院とせる爲第一印象は寧ろホテルの感あらしむ、尙從來の病院に於ては暖房方法頗る不完全にして文明國の病院として恥かしき程非衞生的なるを凡て氣持よき溫水式暖房方法に改め且つ電熱器をも使用し得る設備をなし、各室の採光、換氣は學理に基きて完全をはかり、病室は凡て之をホーロウ煉瓦にて仕切り隣室の話聲を全く遮り、患者用寢臺及マットレスは特に米國製の氣持よきものを選び、各階看護婦詰所に電話を備附け且つ大なる病室には特に一室毎に電話を設けて患者の便をはかれり、尙手術室分娩室は最上階に設けて喧騷、塵埃をさけ且年々三百內外に達する大手術を施行する大手術場は採光消毒の完全を期し殆ど理想に近き設備となし、診察室、一般治療室は外來患者の便利の爲一階に之を設け、特に腫瘍に對する治療を爲めレントゲン室の完全なる設備とラヂウム療法に就て意をそゝぎ居れり、病院が市の中心地にあり廣き庭園を取ること能はざるが故屋上庭園と運動場の設けあり、其よき展望と塵埃少なき空氣は患者に運動と慰安を與ふるに充分なり、斯く完備せる病院なるに其入院費用は比較的低廉にして種々便宜をはかりある爲入院患者は殆ど携帶品を要せず從つて遠隔の地の人と雖何等不便を感ずる事なし、完全なる設備の下に完全なる治療を施し一日も早く全快をはかることを院是とし、設備取扱等に關し患者其他の批判を仰ぎ不斷改良に意をそゝぎ居れり、尙病院內には內務省指定の助產婦教育所及大阪府指定の看護婦教育所等ありて產婆、看護婦の養成につとめ既に四千人に近き卒業生が日本內地は勿論遠く海外に於て各其業務の發展に努力し居るはたゞに大阪の誇なるのみならず誠に國家の爲慶すべきことなり。

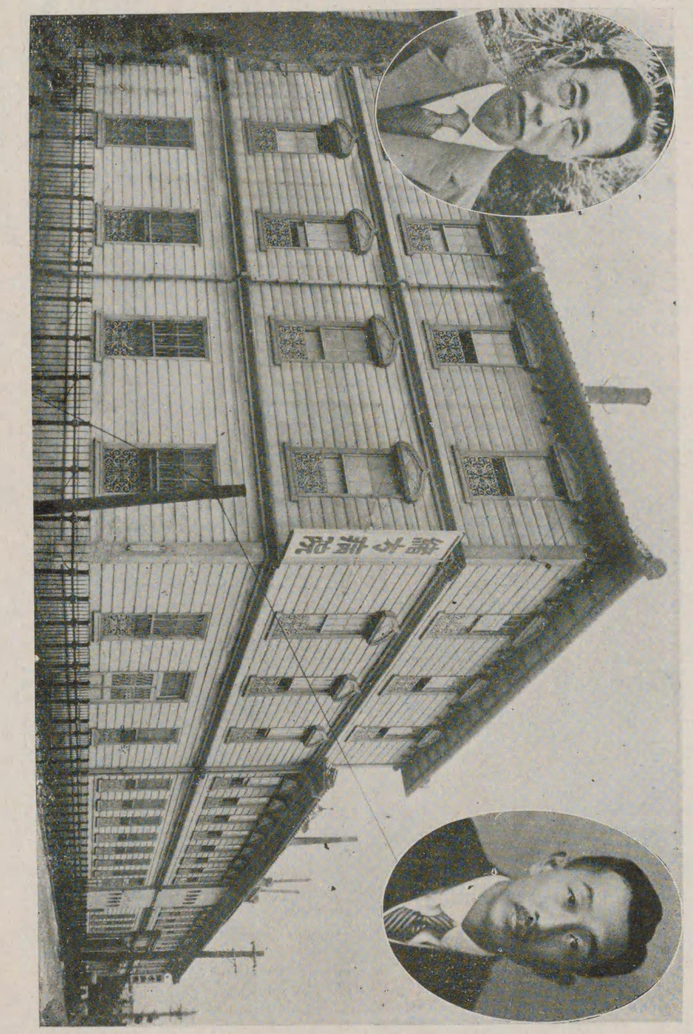


（三藤今厲東）　院病科人婦方緒

院長　緒方祐將氏

緒方病院沿革

明治二十年四月三日大阪市東區今橋四丁目七十二番屋敷に於て緒方病院を創立す當時緒方惟準は院長として緒方拙齋は院主として各内科、婦人科を擔當し緒方收二郎は副院長として外科、眼科を擔任し緒方惟孝は藥局長を擔任す同貳拾二年四月副院長緒方收二郎は緒方正清緒方銈次郎堀内彌吉等と共に歐行の途に上る依て緒方太郎を聘し副院長たらしむ同廿五年二月緒方收二郎緒方正清等と歸朝し同年五月緒方太郎辭任緒方收二郎副院長に復し緒方正清には産婦人科を擔當せしむ此年産婆養成所を創立したり同廿六年九月西區立壳堀東通四丁目に分院を設置す同廿七年十一月獨國留學中なりし緒方銈次郎歸朝し内科を擔當す、同廿八年七月院長緒方惟準其任を辭し副院長緒方收二郎代つて院長に更と緒方正清緒方銈次郎副院長に就任す同廿九年一月院主緒方拙齋辭任緒方惟準代つて就任す同廿九年十月堀内謙吉を聘し耳鼻咽喉科を擔當せしむ同三十年九月立壳堀分院の規模を擴充し新に診察所竝に病室を增築し今橋本院を爰に移す同三十二年一月看護婦養成所を設置す同年七月副院長緒方銈次郎を海外醫況視察の爲め再び歐米に遣す同三十三年七月堀内謙吉辭任す同年七月副院長緒方銈次郎歸朝す同年八月齒科研究の爲め田中喜市を獨乙國に留學せしむ同三十四年八月外科研究の爲め田中喜市を獨乙國に留學せしむ同三十五年四月、病院改築の工を起す同年七月緒方正清辭任し更に木俵良太郎を聘し産婦人科長に又正木玄一を聘し耳鼻咽喉科長に緒方光太郎を小兒科長に任す同年九月緒方六治米國より歸朝し齒科長に就任同參拾六年十月田中喜市獨國より歸朝し外科長の任に就く同年十一月病院改築の工全く竣ス同年理學的治療科を設け吉川馨之を擔當す同三十七年緒方惟孝辭任同卅八年堀有壳藥局を監督す同四十年三月堀有造を藥局長に任す同四十年四月緒方光太郎山木玄一を歐洲に留學せしむ同四十一年五月山木玄一歸朝す同年九月緒方喜市死亡同四十二年田中敏を聘し外科長に任す同年六月緒方光太郎歸朝同年七月皮膚科を設け田村辨を聘し同部科長に任す同年十二月東條良太郎辭任同四十三年七月内野淺次郎を聘し産科婦人科長に任す大正五年四有緒方鷲雄を第二内科長に任す大正九年一月緒方光太郎辭任大正十一年十一月田中敏辭任同年十二月野沢信太郎を聘し外科長に任す大正十二年二月山木玄一辭任大正十三年七月奥谷博義を聘し耳鼻咽喉科長に任す大正十三年十一月院長緒方收二郎辭任院主に就任す同年十二月副院長緒方銈次郎院長に就任す大正十四年一月藥局長堀有造辭任同年一月安藤八十彌藥局長に就任す大正十五年九月院長緒方銈次郎辭任同年十月緒方準一院長に就任す同年十月第二内科長緒方鷲雄辭任す同年十月小口科長に緒方安雄就任す同年九月婦人科長内野淺次郎辭任す同年十一月天野季雄を聘し産婦人科長に就任す



院主　緒方六治氏

院長　緒方準一氏

華陽堂病院長 醫學博士 井尻辰之助氏

華陽堂病院は大正十年八月の開設に係り爾來院運の發展に伴ひ漸次狹隘を感ずるに至りしを以て同十四年十月病院の改築に着手し昭和二年四月落成を告ぐ本館は鐵筋凝土四階、地下室附、分館は木骨鐵綱凝土二階造りにして總建延坪三百三十三坪、設定科目（性病、泌尿器病科）本院長醫學博士井尻辰之助氏は京都府園部町の人、明治四十三年九州帝國大學醫學部を卒業し、直ちに同大學皮膚泌尿器科敎室助手となり、大正五年同講師、同六年辭職、大阪回生病院に新設の皮膚、泌尿科長として赴任、同八年、主論文「未だ記載せられざる一種の皮膚病附端脈管麻痺性厚皮症に就て」外參考論文六篇を九大に提出し醫學博士の學位を授與せらる、同十年七月大阪回生病院を辭し、同年八月、大阪南區十年町に皮膚病、性病、泌尿器科專門華陽病院を開設し、斯科の專門治療に從ひ以て今日に至る、氏又た別に同十三年十月、大阪北濱三丁目に北濱華陽堂病院を開設し、更に同十五年九月、神戸市下山手四丁目に同上神戸診療所を開き北濱は九大助敎授たりし醫學博士阪上虎彌太氏副院長として診療し、神戸は醫學士池田統治郎氏診療所長として就任し、以て現在に至る、氏天資重厚にして趣味高く、繪畵、俳句、旅行を愛好す、學識該博にして手腕優秀洵に現代浪華刀圭界一方の重鎭たり。

同副院長 醫學博士 坂上虎彌太氏

氏は大正五年九州帝國大學醫科大學卒業同六年より八年まで大阪回生病院皮膚泌尿器科助手醫務長たりしが、大正八年九大醫科大學助敎授として同十三年まで同學に敎鞭を取り、同十四年醫學博士の學位を授けらる人格豊なる壯年醫學者として該博なる學識はよく院長の補佐として一般の尊敎高し。

本院ハ左記疾患ノ專門診療ニ從事ス

泌尿器科
腎臟 膀胱 攝護腺 尿道系疾患 睾丸
生殖機能障害及畸形 精系疾患

皮膚病黴毒科
黴毒 淋疾

副院長 醫學博士 阪上虎彌太
副院長 高木滿來
副院長 脇元秀義
副睾丸

大阪市南區千年町
島之內警察署西橫通
（市電堺筋清水町停留場西へ入半町南）
島ノ內 華陽堂病院
大阪市東區內北濱三丁目
北濱 華陽堂病院

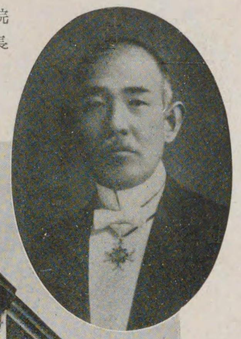
院長 井尻辰之助氏（左） 副院長 坂上虎彌太氏（右）

島ノ內 華陽堂病院

外科住田病院長　醫學博士　住田正雄氏

明治卅五年十二月東京帝國大學醫科大學卒業明治卅六年一月ヨリ同大學同科助手勤務大學院學生トシテ外科學一般研究、佐藤三吉教授ノ指導ヲ受ク。明治卅九年八月京都帝國大學福岡醫科大學助教授任命セラル（高等官七等）明治四十年九月整形外科學研究ノ爲獨國留學ヲ命ゼラル、獨國ゲツチンゲン大學病理教室ニ於テ教授カウフマン氏に師事シ主トシテ、畸形及ビ骨關節ノ病理ヲ研究ス後グライフスワルド大學、ケーニヒスベルヒ大學及ビライプチヒ大學ニ於テ教授パイヤー氏ニ師事シ骨關節外科研究、其他ベルリン大學、フランクフルト等ニ於テ細菌學及　X線學實習ニ從事ス。明治四十五年六月留學滿期三ケ年半歸朝明治四十五年七月九州帝國大學醫科大學教授任命整形外科學講座ヲ擔任ス。大正二年十二月醫學博士ノ學位ヲ授ケラル。大正九年十月高等官二等ニ叙セラル。大正九年十二月正五位ニ叙セラル。大正十四年五月勳三等ニ叙セラル。同年八月依願免本官在官中主トシテ畸形及運動器ノ外科ノ學理及ビ臨床研究ニ從事シ數多ノ學術論文ヲ内外ノ雜誌ニ發表ス、特ニ侏儒ニ關スル研究ト關節結核ノ研究又氏獨特ノ强直關節ノ授動手術及ビ脊椎（カリエス）ノ學理及ビ氏ノ療法ノ發表ニヨリテ學界ニ盛名ヲ轟カシタルノミナラズ右等諸病ニカヽレル數萬ノ患者ニ於ケル治療成績著明ナルコト等ハ特筆大書スベキ業績ナリトス。昭和貳年二月大阪市東區北久太郎町一丁目ニテ外科住田病院ヲ開設シ一般外科、整形外科ノ診療ニ從事ス。右は同氏の略歷概要にして、氏の崇高なる人格と、偉大なる學識は世上周知の事に屬するを以て省略し、唯茲に院運隆盛なる同院と斯界の權威と仰がるゝ住田博士を紹介す。

院長
住田正雄氏



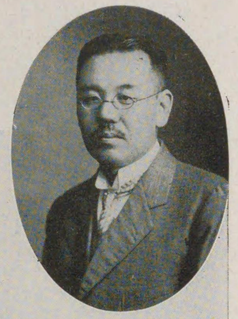
外科住田病院

淺井病院長 醫學博士 淺井健吉氏

（天王寺區石ケ辻十三）

關西醫界耳鼻科の重鎭として名聲嘖嘖たる醫學博士淺井健吉氏は大津市の人明治三十三年東京帝國大學醫科を卒業し直に同學助手となり、同三十五年京都帝國大學醫科講師を囑託せらるゝ、耳鼻咽喉科教室の創始に盡力する所あり、既にして同三十八年歐洲に遊び、瑞西パーセル大學に入り研鑽を積み、次で獨逸、墺太利、佛國西、英國等の諸大學及び病院に於て研究を續行し蘊蓄する所頗る深く同四十五年五月歸朝、爾來大阪回生病院耳鼻咽喉科科長として就任し、次で淺井病院を創立して自ら院長の任に當り一般患者の診療に從事すると同時に院務經營の衝に當り以て今日に至るの間より先、同四十二年三月主論文「先天性黴毒に於ける耳の病理解剖補說」外參考論文二篇を京都帝大醫科に提出し醫學博士の學位を授與せらる。

氏、天資重厚、今や啻に關西耳鼻科の泰斗として盛名斯界に隆々たるのみならず、また全國杏林の大家耆宿として一世の尊敬を受く。



院長 淺井健吉氏

淺井病院全景

加藤醫院長醫學博士　加藤甚七氏

（大阪市南區長堀橋）

外科特に痔疾療治の大家として名聲嘖々たる加藤醫院長醫學博士加藤甚七氏は岩手縣の人、大正四年京都帝國大學醫科大學を卒業し直に助手として同學外科學敎室に入り、次で同六年より外科研究室に於て猪子敎授に師事し、血管痔疾療法の研究に従事し、同八年マダネシン注射に依る痔疾療法を創案完成す、爾來引續き外科研究室に在りて研究しつゝありしが、同十二年大阪市の現在所に獨力加藤醫院を開設し、外科特に痔疾を專門とし一般患者の診療に從事し、院運日に振い以て今日に至る、同院の專門得意とする痔疾療法は氏の獨創に成れるものにして洵に近代醫界の大發明と云ふべく、今日まで氏獨特の手術に依りて全治せるもの全國各階級に亙りて其數擧げて數ふべからず、同院業務の繁榮日に其度を加ふるもの洵に偶然ならずと謂ふ可し、氏年齒猶ほ壯にして前途に富み、學問深玄他の追從を許さゞるものあり、大正十一年二月主論文マダネシウム劑注射に依る痔核療法に就て外參考論文二篇を京都帝大醫學部に提出し、醫學博士の學位を授與せらる。業餘書畫を愛し、紅陽と號し自ら毫を揮ふ、特に西洋畫は君の最も得意とする所にして、技正に堂に入る、また乘馬を樂しみ閑あれば之を試み、心身の鍛練に資す、高風宜しく仰ぐに足る。

院長　加藤甚七氏

加藤醫院

耳鼻咽喉科加藤病院長 醫學博士 加藤亨氏

東區伏見町一丁目に於て名聲嘖々たる專門病院耳鼻咽喉科加藤病院を經營する同院長正五位勳四等醫學博士加藤亨氏は大阪府士族、明治八年八月に生る、同三十六年東京帝國大學醫科大學卒業、翌三十七年東京帝國大學醫科大學副手拜命、同附屬醫院勤務を囑託耳鼻咽喉科に勤務、明治三十八年陸軍衛生豫助醫員勤務を囑託せらる、明治三十九年四月大阪府立高等醫學校教諭に任ぜられ、同校病院耳鼻咽喉科醫長を命ぜらる、明治四十三年內閣指命に依り獨逸國へ差遣、大正元年十一月歸朝、大正四年十月大阪高等醫學校が大阪府立醫科大學と改稱せられ、後府立大阪醫科大學は大阪醫科大學となり大正八年公立大學教授に任せられ、大阪醫科大學教授に補せらる、大正十年勅任官を以て待遇せられ正五位同十三年九月勳四等に叙せらる、大正十三年大阪醫科大學病院廢止、同年同附屬醫院耳鼻咽喉科醫長を命ぜられ、後依願本職を辭して前記の場所に獨立專門病院を創立せらる、氏人格高潔にして天資寬に淵達、亦趣味豊にして就中義大夫に於ては錚々たる大家と聞くも筆者詳細に就きて茲に盡す事能はざるを遺憾とす、序上院長の偉大なる閱歷と該博なる學識は既に世上周知の事柄にして大正十五年院舍の新築成る設其壯麗なる大建築物及完備せる諸施設は茲に理想的病院を實現して患者激增し之れに備ふるに刮院長醫學士井村孫一郎氏の院長を補佐するあり、院運昇天正に我大阪に於ける保健上の一權威たると共に院長加藤博士は實に關西刀圭界の重鎭として敬せらるゝ事最も厚し。

院長 加藤亨氏

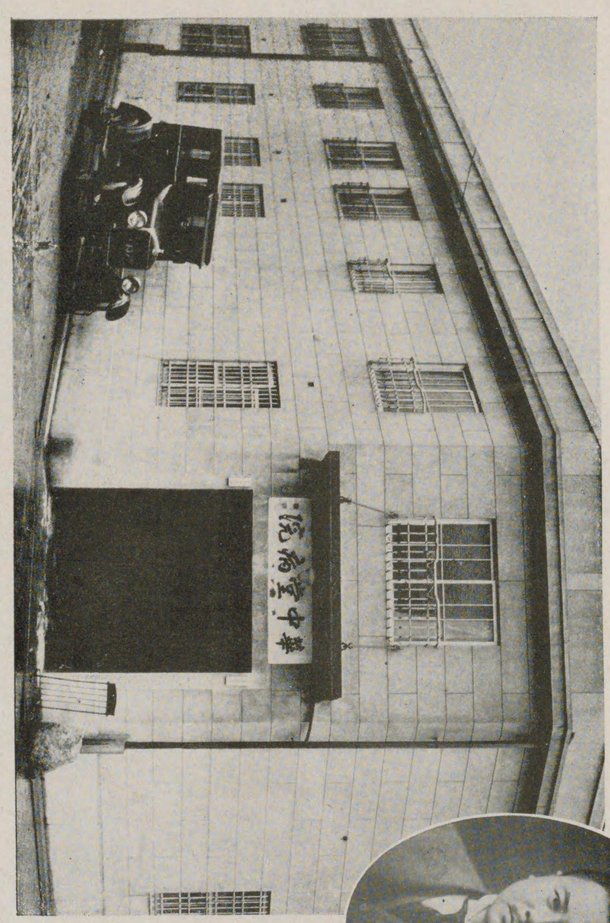
耳鼻咽喉科 加藤病院

華中堂病院長　劉　咸一氏

（大阪市東區瓦町一丁目）

同院長劉咸一氏は、大正三年十二月東京帝國大學醫科大學を卒業、翌同四年一月大阪回生病院に勤務し、小兒科を擔任せしが、同六年八月華中堂病院前院長劉小一郎氏死亡に依り、同年回生病院を辭して其後を繼承し、院長の任に就きて院務經營の衝に當り以て今日に至る、華中堂病院は大正六年一月、前院長劉小一郎氏の創設に係り、現在總建坪二百八十八坪、病室の數三十餘、從業員數醫員六人、事務員二人、藥局生二人、看護婦十二人を算し、小兒科內科產婦人科、腎臟科を設定科目とす、創立以來患者逐日增加しつゝ現院長の人格技能は斯界の輿望を收むること厚く、業運日に月に隆大を加ふ。

治療　院長午前中。　研究部　午後（午前中動物試驗其他の研究）　高血壓內臟科　醫學博士田村利雄氏擔任



院長劉咸一氏

華中堂病院病室

石丸醫院
醫學博士　石　丸　一　氏

大阪市東區北濱二丁目に醫院を開業する醫學博士石丸一氏は、德島縣那賀郡立江町の人にして、大正七年京都帝國大學醫科大學を卒業し爾來同大學醫學部皮膚科教室に於て助手を勤務其間大に研究する處あり、功成りて大正十三年醫學博士の學位を授與せらる、其前後に亘り藥物の研究にも沒頭せられて幾多の新藥を發見、斯界に貢獻する處多かりしと聞くも、不幸にして筆者之れをつまびらかにする事を得ざるは甚だ遺憾とするところなり、氏資性寔に清實淡澗の人にして言少なく實行家として適切たり、其該博なる學識は氏の大なる人格と相俟つて診療上一般患者の渇仰する處、又以て臨床大家たるの所以。研究心に富み學者にして人格豊たる氏も亦趣味に於て凡ならず、卽ち其重なるものは讀書、運動、繪畫にして、就中洋畫に至りては既に大家たるの名に辱じず、其多數の作品あるは世上に良く知らるゝ處に付き此に贅言を省き、畧述して我大阪刀圭界に於ける石丸博士を紹介す。

院長　石丸一氏

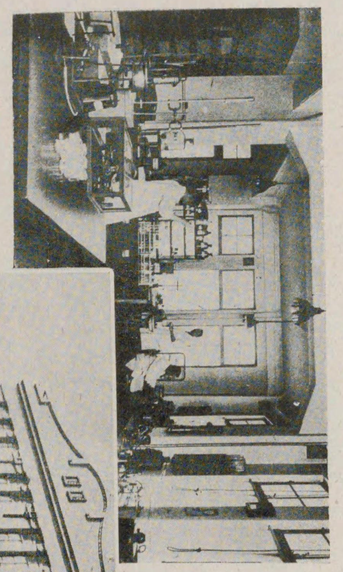
石丸醫院

結核の研究に心血を注ぐ事二十年間、昭和元年自ら起つて有馬研究所を創立し以て徹底的研究を企劃せらる。

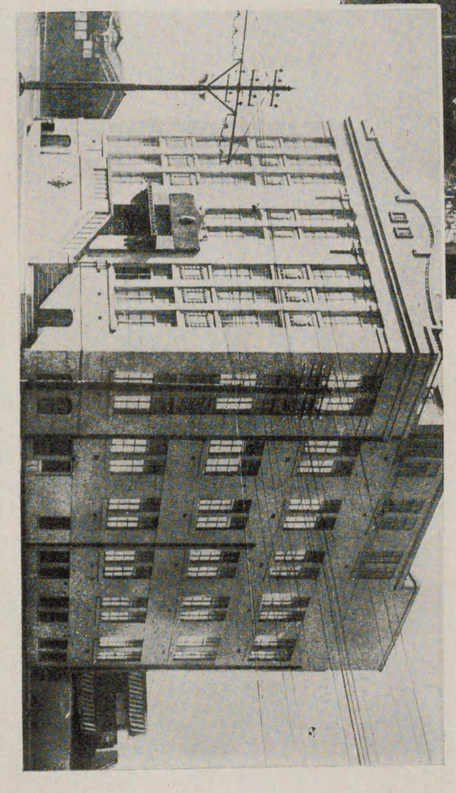
本所は内科、肺癆科、實驗診療所の施設を有し、結核病豫防治療の研究を目的とす。

所長有馬博士は鳥取縣人にして、明治三十八年大阪高醫卒業後京都帝國大學醫化學教室に入り、同三十九年同大學助手を振出しに大阪府檢疫委員、大阪高等醫學校助手、同助教授を經て大正二年渡歐、墺國クラーツ及獨逸伯林に於て研究を積み、更に和蘭、英國を巡りて歸朝、直に大阪高等醫學校教授に任ぜられ同五年大阪醫科大學教授、同六年大阪府立刀根山療養所長を經て今日に至る。

大正四年主論文「チブスの病的變化及血清療法に關する實驗的研究」を京大に提出し醫學博士の學位を授與せられ、夙に篤學の大家として知らる。



同研究室内の設備



有馬研究所長 有馬醫學博士 賴吉氏

院醫屬附及所究研馬有（町江老海區川淀西）

學說

心臟働作電流の增幅方法と身體よりの一新誘導法

安原豐也

本編は八月二日仙臺市に開かれたる第三回日本學術協會に、て講演したるものゝ概要にして日本醫事新報社の乞により寄稿せるものである。

× × ×

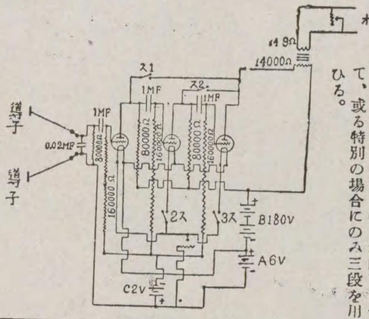
心臟筋肉働作電流の電位差は、漸く五千分の一乃至一萬分の一「ヴォルト」位の極く微弱なるものであるから、之れに感應して動く「ガルワノメーター」は極めて鋭敏なるものでなければならぬのと、其の固有振動非常に高きものを、或る方法にて制限したるものでなければ心臟働作電流の曲線を其の儘に撮影する事は出來ないのであるから、「エレクトロカルヂオグラーフ」は何れもアイントーヴェン氏の弦線電流計を應用して居る。故に「ケンブリツヂ」型と云ひ、「エーデルマン」型と云ひ、何れにせよ其の裝置複雜精緻であつて、從つて其の使用は容易でない。此の機械を使ふに一人の專任技術者を要するのみならず、本裝置の主要部なる弦線は、石英若くは硝子を蜘蛛巣の糸よりも尚ほ細く引き伸ばしたるものに銀若くは金の鍍金をしたものであるから、極めて脆く、取り扱ひの際少し大聲を發してさへ飛び散る虞かある位のもので、此の弦線は又非常に高價のもので、一と掛け七八十圓を拂はなければならぬ。其上此の裝置を使ふに當り弦線の「コンスタント」（例へば一「ミリヴオルト」一糎）を定むる事や、皮膚電流により振れたるものを引き戻す事や、其の他種々精密なる用意を要するから、「エレクトロカルヂオグラーフ」は心臟疾患の精緻なる診斷に必要缺く可からざるにも拘らず、臨床家に洽く使用せられない所以である。近時莫大なる研究費と非常なる努力とにより製作せられし「シーメンス」型は弦線の代りに「コイル」を用ひ、皮膚電流の影響を除くに「コンデンサー」を挿入する等、稍々使用に輕便を加へたる樣であるが、とても臨床家の診察室に据へて隨時使用する事は仲々容易ではない。

予は數年來此の「エレクトロカルヂオグラーフ」を單簡輕便のものとし、少くとも脈波記の「ポリグラーフ」位のものとして廣く臨床家の使用に適する裝置を製作せん事に苦心したる結果、遂に心臟働作電流を增幅する事によりて此の目的を達する事を得たのである。

心働作電流を增幅するには三極眞空管を用ひるので、初めは眞空管と變壓器とを連用したが、心働作電流波は其週期數非常に少なく（波長極めて長き事）心臟の收縮が一秒一回（脈搏一分間六十至）起るものとして、漸く七、八回を出ぬから、普通の變壓器には感應が起らぬので、鐵板を多く入れた特別のものを造りて漸く感應する樣になつたが、變壓器の「ヂストロジオン」の爲に心電流波の曲線に不正を來して役に立たず、爲に變壓器を思ひ切り、更に抵抗增幅法を試驗し始め、初めは炭素抵抗を試みしも、これは又炭素分子の變動あるが爲か、時々心電流波曲線に歪を生じて失敗に終り、遂に銅線抵抗器を製作して之れを眞空管に連結して、始めて歪なく心電流波を任意に增幅し得るに至つた。此の抵抗器は一段毎に逆卷きとして自己誘導をなくしたものである。

增幅用眞空管は坊間に販賣せられある殆ど總ての物を試みたが、何れも良結果を得ないものばかりであつて、只「シーメンス」製SS一一一型（增幅率百）と、マルコニーQX一〇四型（增幅率二十四）との二つ丈け滿足す可き成績を得た。「シーメンス」型は其の價高く且つ容易に入手し難きも、QX一〇四型は東京電機株式會社にて製造し居り、且つ此球の增幅曲線は峻急にして「グリツト」に反對電壓（所謂C電池）を加ふるの必要なく極めて便利である。

此の眞空管の內部抵抗は約七萬「オーム」であるから、一「ミクロフアラダイ」の「コンデンサー」の前に八萬「オーム」の抵抗器を入れ、十六萬「オーム」の抵抗を入れて、之れを眞空管の「グリツト」に導くのである。「フイラメント」の電壓は六「ヴオルト」、「プレート」の電壓百八十「ヴオルト」、三個の眞空管を用ひて、三段に增幅するのである。併し、通常は二段の增幅で澤山であつて、或る特別の場合にのみ三段を用ひる。



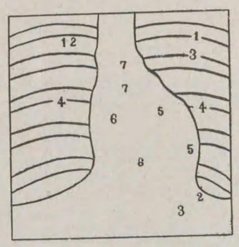
斯く眞空管で增幅したるものを一對十の「ポテンシアルトランスフオーマー」（一次線の抵抗十六「オーム」、二次線の抵抗一萬二千「オーム」）の二次線に入れ、一次線を出でたるものを「オスシログラーフ」の「ヴアイブレータ」に導き、法の如く撮影する。予の使用する「オスシログラーフ」の「ヴアイブレーター」は二「ミクロアンペア」一粍の振れ（鏡面より感光紙迄の距離六十六糎）を有し、固有振動は毎秒一萬七千、濃厚なる「パラフイン」油を以て之れを制限せるものである。最後に「ポテンシアールトランスフオーマー」を逆に用ひるのは、爰で電壓を下げて、電流量を多く得んが爲である。

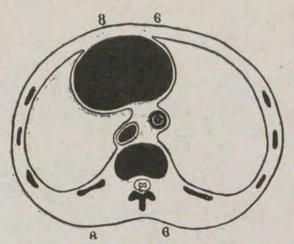
眞空管と抵抗器とを入れたる箱は鐵板で密閉して其の壁より「アース」（接地線）を取りて地中に入れ、高壓電氣高週波電氣及び磁氣等の感應を避ける。

「エレクトロカルヂオグラーフ」では心電流を誘導するには三個の大なる水槽に食鹽水を盛り、此の內に左右の上肢と左の下肢とを沒入し、此の水中に入れたる亞鉛板を導子として弦線に導くもので、之れは畢竟、可及的廣大なる皮膚面を食鹽水中に沒入して皮膚の抵抗を減じ、且つ多量の電流を得んが爲である。卽ち左右の兩上肢より導きたる時第一誘導といひ、右の上肢と左の下肢より導きたる時第二誘導といひ、左の上肢と左の下肢より導きたる時之れを第三誘導と云ふので、此の三部分より他には心電流を導くことが出來ないのである。

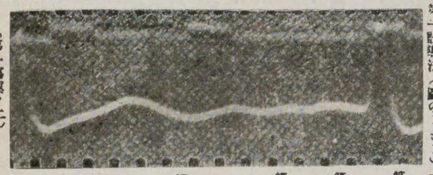
予の裝置では、任意に心電流を增幅する事が出來るのであるから、斯る不便な大きな水槽を要せず、六糎に四糎位の楕圓形の陷凹亞鉛板二個を造り、之れに濃厚食鹽水を以て白陶土を混りて泥狀となしたるものを塗り付け身體隨意の部位に貼り付けて誘導する事が出來て甚だ輕便なるのみならず、患者の如何なる體位（背臥、横臥、腹臥、坐位、立位）に於ても自由に誘導し得るので、之れは在來の「エレクトロカルヂオグラーフ」にても出來ない事で、斯く種々なる體位に於て種々なる身體の部分より任意に誘導する事により種々なる心電流の曲線を撮影する事が出來、在來の曲線に現はれざりしもの、或は在來の曲線より型の異なりたるもの等を得、之れによりて今日に至るまで尙明瞭ならざりし心電流曲線の成立因子をも稍々明瞭ならしむる事を得た。

凡そ或る電流束を誘導するに際しては、其の電流方向と全く相平行する樣兩導子を置くとき最も高き電位差を得、電流方向と角度をなすに從ひ、其の角度に比例して次第に電位差を減じ、電流方向と兩導子の方向と全く





直角をなすに至れば零位となるのであるから今爰に筋肉の働作電流を誘導するにも、其の筋纖維行走の方向に平行するやう兩導子を置くとき最強電位差を檢電計に示すは無論のことで、そこで今心臟筋纖維の行走方向や如何と見るに、長短大小種々なる筋束縱斜亂雜に行走して恰も絲球の亂れたるが如き上に「プルキンエ」索は他の心臟筋肉とは其の性質を異にし、興奮の傳達速力、他の心筋束の約十倍に達するのであるから、興奮波一度び傳達し來れば時間的にも部位的にも、亦方向的にも種々雜多なる働作電流發生し、其方向相反するものは互に相殺中和せられ、綜合的に一定方向の電位差となりたるものゝ時間的の相異を以て所謂特異の心働作電流波の曲線となるのである。故に此電流を誘導す可き導子の貼布場所如何によりて、其の兩導子の方向に一致する筋束の電流最も強く現はれ、之れと角度をなす筋束の電流は弱く現はるゝか、或は全く現はれざることゝなる（直角をなすもの）。されば在來の「エレクトロカルヂオグラーフ」にても第一誘導と第二誘導と第三誘導とによりて、其の曲線の形狀大に異なるのは勿論、心臟の位置の變化により（呼吸運動による心臟の位置の變化でさへも）でも其の波型に變化を來す可きである。



（第一寫眞ノ二）

（第一寫眞ノ一）

前にも云ふた如く予の裝置では小さな楕圓形の陷凹亞鉛板を任意の場所に貼り付けて誘導し得るのであるが、先づ予は上圖に示す如き第九までの誘導法を用ひて居る。

第一誘導法（圖の1と1）在來の第一誘導法と同じ。

第二誘導法（圖の2と2）在來の第二誘導法に同じ。

第三誘導法（圖の3と3）は在來の第三誘導法に一致す。

第四誘導法（圖の4と4）は心臟の基底部に於ける横走筋纖維の電流を最も強く誘導し得。

第四誘導法（圖の5と5）左心室の斜走筋纖維の電流を最も強く誘導し得。

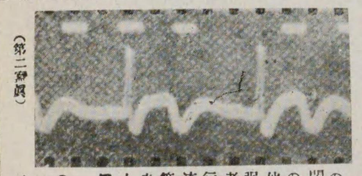
第六誘導法（圖の6と6）右心室斜走筋纖維の電流を最も強く誘導し得。

第七誘導法（圖の7と7）房の電流を最も強く誘導得。

第八誘導法（圖の8と8）左室のものを最も強く誘導し得。

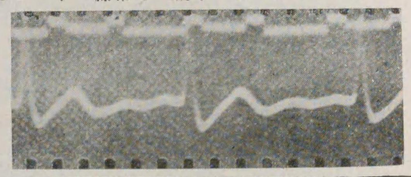
第九誘導法（圖の9と9）右室のものを最も強く誘導し得。

尙ほ臨機に任意の部位より誘導して、種々なる參考に供することを得るは勿論である。



（第二寫眞）

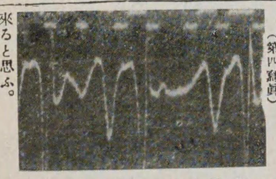
予の誘導法に於て先づ第一、第二、第三にありては其曲線の形狀在來の第一、第二、第三に一致するは勿論なれども、只第二誘導に於てT波の後に稍々緩なるU波の著明に現はるゝを異なりとする。U波はアイントーヴェンの假想曲線にて、只點線を以て現はされし他に未だ何れの寫眞に於ても著明に現はれしことなきやうである（第一寫眞參照）。



（第一寫眞ノ三）

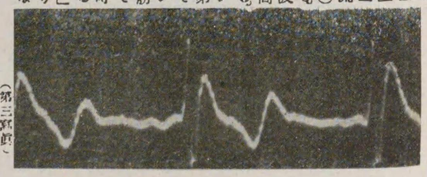
此U波は第二心音の後卽ち、半月瓣の閉鎖後に現はれ、予の第四誘導法に於て他の曲線よりも最も強く現はれ居るより考ふれば、此方向に行走する筋纖維の電流で、心基底部大血管起始部に於ける横走筋纖維の電流ならんと思はる（第二寫眞參照）。

第五誘導法にてはS波頗る強く、T波は著明に二波より構成せられ、而も其の二波低く第一波頗る高きより考へ、Sは左心室「プルキンエ」索の電流、Tの第二波は左心室筋の電流と思はる（第三寫眞）。



（第四寫眞）

第六誘導にてはQ波頗る強くT波二波よりなり、第二波高く第一波は低い。Q波は右心「プルキンエ」索のもの、Tの第二波は右室のものであらう。又「プルキンエ」索にせよ心室筋にせよ、左右に於て働作電流の發生に時間的相違あるを見るは之れ「プルキンエ」索の右の方左のよりも短きによるものならむ（第四寫眞）。



（第三寫眞）

第七誘導にてはP波のみ獨り強く現はれ、他は極めて幽微である、されば P波は全く房のものに相違ない。

予は今患者に種々なる體位を取らしめ、これにより生ずる心臟の位置の變化より來る電流曲線の相違並に病的肥大擴張等による曲線の變化を研究中なれば、近日之に關する成績及び寫眞を公にするであらう。

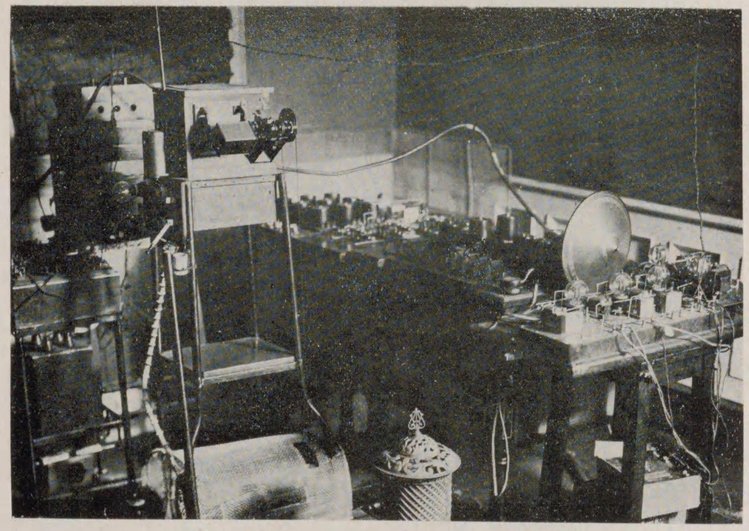
兎に角予の此裝置により、輕便に何人でも心働作電流の寫眞を取ることが出來且つ在來のものでは不整脈、期外收縮等の診斷にのみ應用せられたに過ぎぬやうであるが、予の裝置では心臟の位置の變化、肥大擴張及び何れの關係に變化ありや等も知ることが出來ると思ふ。

—（完）—

院長
安原豐也氏

安原病院（東區北濱三丁目）

同院研究室の設備（其一）



同上（其二）

土肥婦人科病院長
醫學博士　土肥衞氏

（大阪市北區曾根崎上四丁目）

大阪北部に名聲嘖々たる土肥婦人科病院は婦人科專門界の泰斗土肥博士の經營にして大正三年の創立初め北區此花町に開院し、同五年同區梅田町に移轉同時に同病院内に産婆看護婦養成所を設立し、爾來逐年外來、入院兩患者の激增するあり從つて病室の狹隘を告ぐるに至りて、同十四年現所に擴張新築移轉す、土肥院長及宮永副院長を始め患者に對して親切と熱心なる點に於て特に尊敬せらる、氏は長崎縣士族、明治三十二年熊本醫學校卒業、同四十二年獨逸に留學、ミュンヘン大學に於て産婦人科研究、同大學に於てドクトルの學位を受け、同年三月同國ハルレー大學に轉學次いで獨、墺、瑞、佛、英國等の著名大學、病院を歷訪研學の後同年十二月歸朝。

是先、明治卅二年松山病院醫員を振出しに日本赤十字社愛媛支部看護婦養成所屬託、日本赤十字社準備醫員、愛媛縣立中學外三校の縣立中等學校々醫、産婆試驗委員、緒方病院當直醫、大阪慈恵病院醫學校講師、松山衞戍病院松山保廣收容所病室内地戰役勤務、愛媛縣に於て醫術開業、等を經て自明治四十五年至大正三年愛媛縣溫泉郡に私立堀江病院を開設自ら院長の職に就く、而して大正三年大阪市に土肥婦人科病院を創立して現在に至る。

尙明治卅九年四月同氏か日露戰役の功に依り勳六等瑞寶章及一時金を授け賜ふ、明治四十三年功勞に依り日本赤十字社特別社員に推薦せらる、大正五年同病院内に土肥病院産婆看護婦養成所を設立し育英の業に從ふ、大正十年六月、主論文「(1)乳汁分泌に關する實驗的研究、2)乳汁分泌に關する實驗的研究に追加す、(3)乳汁分泌を喚起すべき成物質は果して濾膜を透過するや」を京大に提出して醫學博士の學位を受く、溫厚篤實にして博識、和歌繪畫に至りても專門の域に在り、以て紹介となす。

院長
土肥衞氏

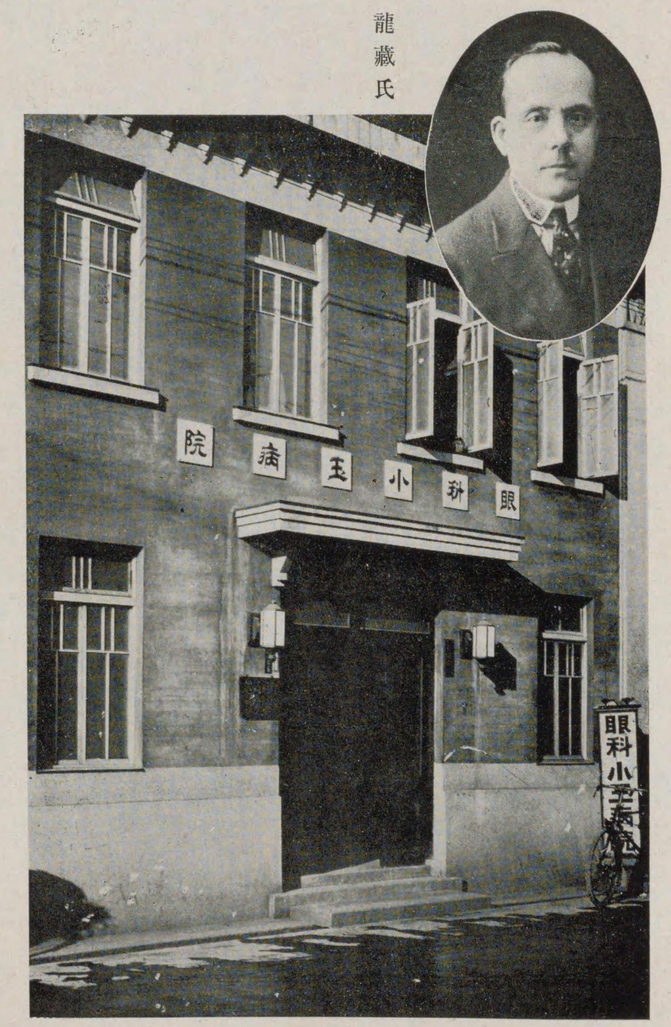
土肥婦人科病院

眼科小玉病院長
醫學博士　小玉龍藏氏

（大阪市南區大和町）

從四位勳六等醫學博士、小玉龍藏氏　愛媛縣松山市出身明治卅六年東京醫科大學卒業、同大學內緒方正則博士指導の下に衞生細菌學教室に於て研究、同室副手を經て醫術開業試驗委員たりし事あり、其後仙台醫學專門學校教授、宮城病院眼科醫長、東北醫科大學助教授、同附屬醫院眼科醫長を經て同大學教授となり大正七年より同十一年まで英米獨佛瑞に於て文部省留學生として研究を終へ歸朝、再び東北醫科大學教授、大正十二年醫學博士の學位を受け、同年大阪市南區大和町に於て小玉眼科病院設立、自ら院長となり、院運隆盛として斯界に於ける權威たり、院長小玉博士は、人格崇高資性着實溫厚にして、該博なる學識と技術は一般の知る處、以て聲望頗る高し、以上氏の畧歷を記述して紹介とす。

院長
小玉龍藏氏



眼科　小玉病院

現代の醫學

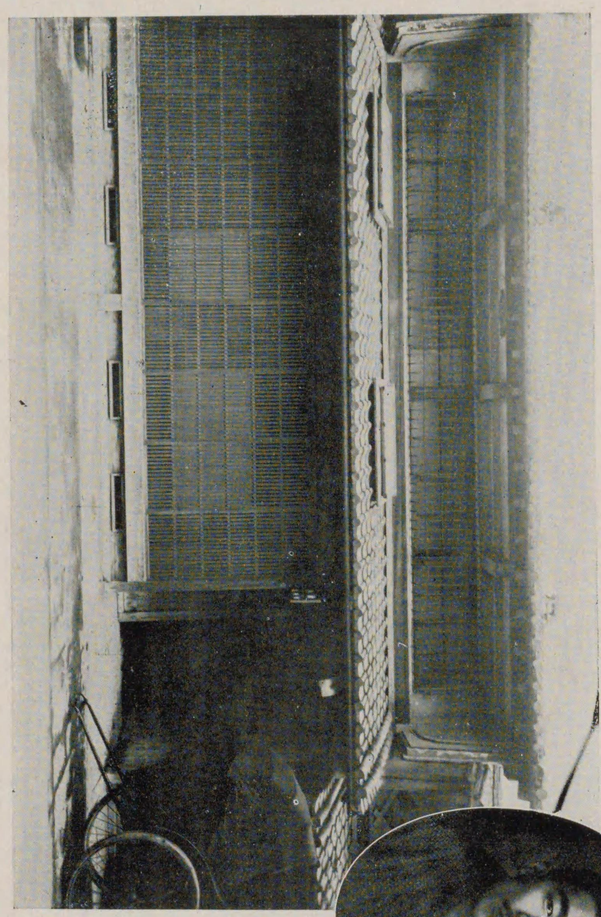
醫學博士　高槻章氏

西洋醫と漢方醫　漢方醫には信頼すべき基礎醫學が全く缺けてゐる。存するものは唯藥物の智識ばかりである。それすら元來生理學がないのだから、藥物生理學といふやうなものは存立しない。故に漢方醫學校といふやうなものは建てやうにも建方がない。先進醫學者が糾然として漢方から蘭法に向つたことは當然である。しかしながら近來漢藥の研究漸次盛となり漢藥中から新藥の續出しつゝあることは遍ねく智識を世界に求める點に於いて慶すべきことである。

現代醫學缺陷　患者の肉體を見て精神を見ざること。從がつて患者を品物扱すること、細胞病理說に執するの餘それ等細胞を支配する神經の影響を比較的等閑に附して居ること。哲學の缺乏してゐること。開業醫は治療に偏し、大病院は診斷に偏すること。所謂博士論文の題目の多くは研究の領域にまで進まずして實習に終らしむるを得ないこと。從つて幾百幾千の醫家が時間と金とを費して研究室にありながら天然痘に對する種痘の如く麻疹に對する豫防法、猩紅熱、發疹チブス等の病原體の檢索、結核、癩、淋疾、癌等の治療、大腸菌屬細菌による疾病腸チブス、赤痢、腎孟膀胱炎、盲腸炎等並肺炎等の頭挫療法等幾多重要なる問題に指を染めることが出來ないこと等である。

民間治療法　治療法のなほ闇中に埋もれて全く不明なる疾病の多い以上種々の民間療法の行はれるのは當然のことである敢てそれ等を排擊するには當らないことである。寧ろそれ等を研究して果して効果があるかどうか確めるべきである。ジエンナーの種痘の發見の動機を考へて見れば思半に過ぎるであらう。治療は全く實驗的に進歩發達すべきものである。

現代の治療　さもあらばあれ現代醫學の治療は長足の進歩をして來たものである。外科的治療は暫らく措いて、種痘、ヂフテリア血清、キニーネ等は事古たり。六〇六號も漸くクラシツクの業蹟とならむとしつゝある。梅毒の蒼鉛療法、アメーバ赤痢に對する鹽酸エメチン、ヤトレンの如き、腎孟炎に對するワクチンの如き、黃疸胆石に對する胆汁酸の製劑の如きまた諸種催眠劑の如き悉く連城の玉のやうに輝いてゐるが、殊に歎賞に堪へないのは水銀の有機化合物の注射劑である。それによつて、さしもに難症とせられたる滲出性腹膜炎の如きは忽ちにして治癒して仕舞ふ。腎臟炎に對する治療も長足の進歩を示めしてゐる。



高槻醫院（東區博勞町四）

院長醫學博士　高槻章氏

健醫學を修め同年六月より臨床醫學に轉じて內科學を專攻せらる。

氏は岡山縣の人、大正四年京都帝國大學醫科大學卒業、同十一年五月まで主として保

ゐゝ所以。より敬せらて廣く一般研究とは以と熱心なる飾なき親切るに何等虛格者にして豐かなる人も博識趣味資性溫厚而興せらる。

年醫學博士の學位を授り先大正十至る、是よして今日に和二年開業で勤續、昭年十二月まで勤續、昭務し昭和元經營（に勤士吉津度氏病院（代議萬歲町梅田大阪市北區年四月より大正十二

市岡難波病院長 醫學博士 難波要氏

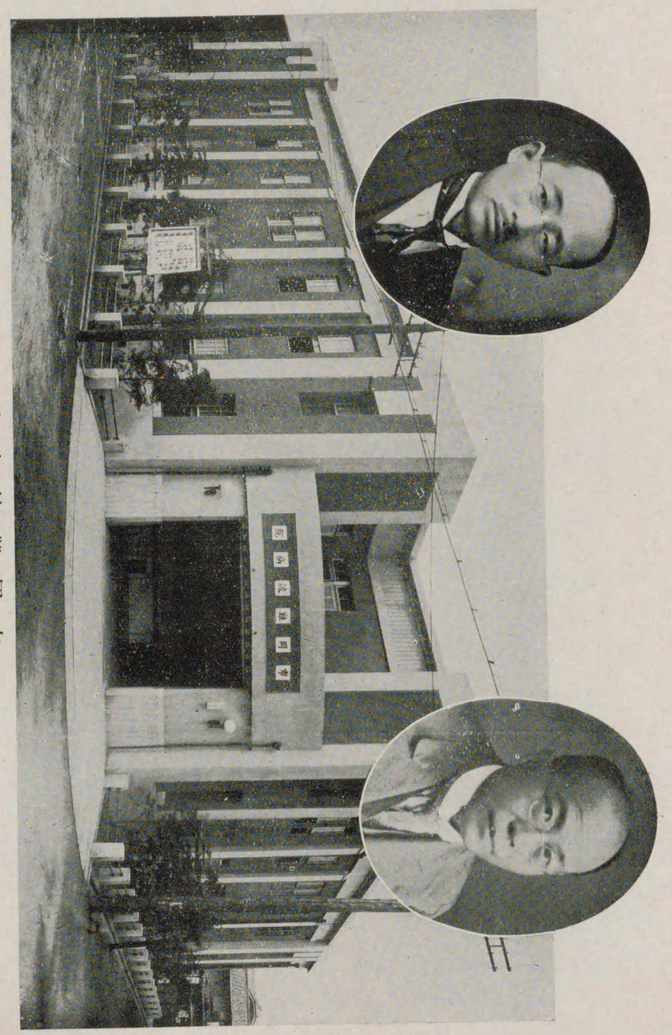
（大阪市港區桂町一丁目九番地）

氏は福井市に生れ、京都第三高等中學校東京第一高等中學校を經て東京帝國大學醫科大學に入り明治三十三年十二月卒業。明治三十四年一月醫科大學助手拜命、明治三十六年八月辭任、明治三十六生九月橫濱市老松町一丁目に於て私立野毛山病院を設立院長として之を經營す。明治四十三年三月歐洲留學、明治四十四年七月歸朝、院務に從事す、大正三年二月醫學博士の學位を受く。大正六年九月橫濱市花咲町四丁目に於て私立難波病院を新築經營、大正十二年震災の爲め病院燒失の厄に會ひ、大正十三年四月大阪市港區桂町一丁目に於て市岡難波病院を新築し院長として今日に至る。

以上は同氏の畧歷にして、氏天性重厚着實、極めて人格の高き人と聞く。病院の完備と相俟つて業運隆昌、實に大阪杏林界一方の重鎭たり。

同副院長 醫學博士 小菅賢氏

氏は三重縣河藝郡合川村の人、明治四十四年第二高等學校卒業、大正四年京都帝國大學醫科大學卒業、大正五年一月同學附屬醫院副手となる、同年十一月東京市神田區駿河臺佐々木杏雲堂醫院（院長佐々木隆興博士）に就職、大正十一年、京都帝國大學大學院に入學し藥物學、內科學を研究、同十四年一月醫學博士の學位を授與せらる、同年七月大阪市市岡難波病院に就職同院內科擔任、以上は同氏の畧歷にして、氏も亦溫厚親切なる人格者、よく院長を補佐し兩者相俟つて、同院の隆盛を見つゝ多數の患者を始め一般の尊敬多く兩氏に集る、併而以て紹介す。



副院長 小菅賢氏

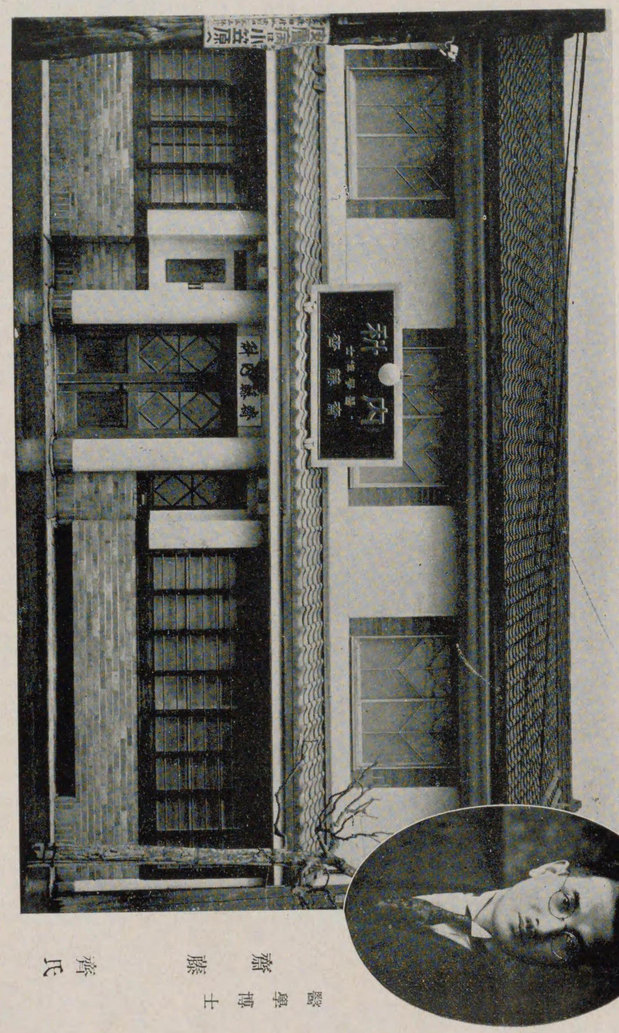
院長 難波要氏

市岡難波病院

大阪市東區京橋二丁目

醫學博士　齋藤　齊氏

一、大正四年拾壹月京都帝國大學醫科大學卒業　一、大正四年拾貳月ヨリ大正六年九月マデ京都帝國大學醫科大學附屬醫院內科及京都市立京都病院勤務　一、大正六年九月朝鮮黃海道兼二浦三菱製鐵所病院長トシテ赴任大正拾年三月辭職　一、大正拾年四月京都帝國大學大學院ニ入學內科學及藥物學專攻　一、大正拾貳年四月大學院在學ノ儘大阪市慈惠病院醫長ニ就職　一、大正拾參年貳月醫學博士ノ學位ヲ授與セラル　一、大正拾參年九月大學院退學　一、大正拾五年四月慈惠病院長兼弘濟病院長ニ就任　一、昭和二年九月慈惠病院長及弘濟病院長辭職　一、昭和二年拾壹月前記ニ於テ內科專門ヲ以テ開業ス、以上同氏の略歷なり。氏天資高潔にして、學識該博、寔に醫學者として遺憾なき人格者たり、多年公職に就きて、仁術の心養厚く、一般よりの信望頗る高しと聞く、昭和二年十一月諸般の設備成りて開業せらるゝや、各階級を擧げ之れ迎ふ、開業日尙淺きも逐日患者激增して業運の振興するは、一に氏の人格、學識に加ふるに天性慈愛に富むを以てする所以なり。



院科內藤齋

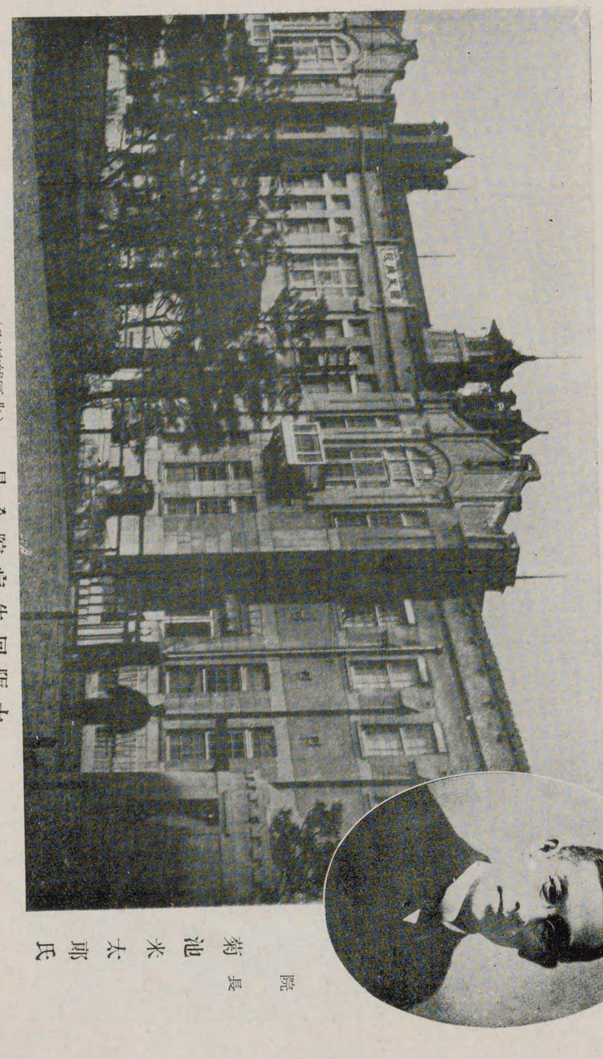
醫學博士　齋藤　齊氏

大阪回生病院長
醫學博士　菊池米太郎氏

關西に於ける内科の先業に大阪回生病院長醫學博士菊池米太郎氏あり氏は明治三十四年の東大醫科出身にして大學卒業後大學院に入りて研學大に努め同三十六年歐洲に留學し獨、墺、英諸國に游學し同三十八年歸朝以來回生病院に内科專任となり後病院長として聲望を一身に聚む。

明治四十年氏は「志賀、クルーゼ氏赤痢菌に就ての研究」外參考論文六篇を東大に提出して醫學博士の稱號を授與せられたり。

氏は米澤の人、大阪回生病院創設者故醫學博士菊池常三郎氏の實弟、眞に關西刀圭界の重鎭として仰がれつゝあり。



大阪回生病院全景（町筋稍北）

菊池米太郎氏　院長